

エレミヤ書

Jeremiah

旧約聖書

第1章

- 1 ベニヤミンの地、アナトテにいた祭司の一人、ヒルキヤの子エレミヤのことば。
- 2 このエレミヤに主のことばがあった。ユダの王、アモンの子ヨシヤの時代、その治世の第十三年のことである。
- 3 それはさらに、ユダの王、ヨシヤの子エホヤキムの時代にもあり、ユダの王、ヨシヤの子ゼデキヤの第十一年の終わりまで、すなわち、その年の第五の月、エルサレムの民の捕囚まで続いた。
- 4 次のような主のことばが私にあった。
- 5 「わたしは、あなたを胎内に形造る前から あなたを知り、あなたが母の胎を出る前からあなたを聖別し、国々への預言者と定めていた。」
- 6 私は言った。「ああ、神、主よ、ご覧ください。私はまだ若くて、どう語ってよいか分かりません。」
- 7 主は私に言われた。「まだ若い、と言うな。わたしがあなたを遣わすすべてのところへ行き、わたしがあなたに命じるすべてのことを語れ。
- 8 彼らの顔を恐れるな。わたしがあなたとともにいて、あなたを救い出すからだ。—主のことば。」
- 9 そのとき主は御手を伸ばし、私の口に触れられた。主は私に言われた。「見よ、わたしは、わたしのことばを あなたの口に与えた。
- 10 見なさい。わたしは今日、あなたを諸国の民と王国の上に任命する。引き抜き、引き倒し、滅ぼし、壊し、建て、また植えるために。」
- 11 主のことばが私にあった。「エレミヤ、あなたは何を見ているのか。」私は言った。「アーモンドの枝を見えています。」
- 12 すると主は私に言われた。「あなたの見たとおりだ。わたしは、わたしのことばを実現しようと見張っている。」
- 13 再び主のことばが私にあった。「あなたは何を見ているのか。」私は言った。「煮え立った釜を見えています。それは北からこちらに傾いています。」
- 14 すると主は私に言われた。「わざわざ北から、この地の全住民の上に 降りかかる。
- 15 今わたしは、北のすべての王国の民に 呼びかけている。—主のことば— 彼らはやって来て、エルサレムの門の入り口で、周囲のすべての城壁とユダのすべての町に向かいそれぞれ王座を設ける。
- 16 わたしは、この地の全住民の悪に対して ことごとくさばきを下す。彼らがわたしを捨てて、ほかの神々に犠牲を供え、自分の手で造った物を拝んだからだ。
- 17 さあ、あなたは腰に帯を締めて立ち上がり、わたしがあなたに命じるすべてのことを語れ。彼らの顔におびえるな。さもないと、わたしがあなたを 彼らの顔の前でおびえさせる。
- 18 見よ。わたしは今日、あなたを 全地に対して、ユダの王たち、首長たち、祭司たち、民衆に対して 要塞の町、鉄の柱、青銅の城壁とする。
- 19 彼らはあなたと戦っても、あなたに勝てない。わたしがあなたとともにいて、—主のことば— あなたを救い出すからだ。」

第2章

- 1 次のような主のことばが私にあった。
- 2 「さあ、行ってエルサレムの人々に宣言せよ。『主はこう言われる。わたしは、あなたの若いころの真実の愛、婚約時代の愛、種も蒔かれていなかった地、荒野でのわたしへの従順を覚えている。
- 3 イスラエルは主の聖なるもの、その収穫の初穂であった。これを食らう者はだれでも罰を受け、わざわいを被った。—主のことば—
- 4 ヤコブの家よ、イスラエルの家の全部族よ、主のことばを聞け。
- 5 主はこう言われる。あなたがたの先祖は、わたしにどんな不正を見つけたというのか。わたしから遠く離れ、空しいものに従って行き、空しいものになってしまうとは。
- 6 彼らはこう尋ねることさえしなかった。「主はどこにおられるのか。われわれをエジプトの地から上らせた方、われわれに、あの荒野、穴だらけの荒れた地を、乾いた、死の陰の地、人も通らず、だれも住まない地を行かせた方は。」
- 7 わたしはあなたがたを、実り豊かな地に伴い、その良い実を食べさせた。ところが、あなたがたは入って来て、わたしの地を汚し、わたしのゆずりの地を忌み嫌うべきものにした。
- 8 祭司たちは、「主はどこにおられるのか」と言うことがなく、律法を扱う者たちも、わたしを知らず、牧者たちもわたしに背き、預言者たちはバアルによって預言し、役立たずのものに従って行った。
- 9 それゆえ、わたしはなお、あなたがたと争う。—主のことば— また、あなたがたの子孫と争う。
- 10 キティムの島々に渡って、よく見よ。ケダルに人を遣わして見極めよ。このようなことがあったかどうか、確かめよ。
- 11 かつて、自分の神々を、神々でないものと取り替えた国民があっただろうか。ところが、わたしの民は自分たちの栄光を役に立たないものと取り替えた。
- 12 天よ、このことに呆れ果てよ。おぞ気立て。涸れ果てよ。—主のことば—
- 13 わたしの民は二つの悪を行った。いのちの水の泉であるわたしを捨て、多くの水溜めを自分たちのために掘ったのだ。水を溜めることのできない、壊れた水溜めを。
- 14 イスラエルは奴隷なのか。それとも家に生まれたしもべなのか。なぜ、獲物にされたのか。
- 15 若獅子は彼に向かって吼えたけり、うなり声をあげて、その地を荒れ果てさせる。その町々は焼かれて、住む者がいなくなる。
- 16 メンフィスとタフパンヘスの子らも、あなたの頭の頂を剃り上げる。
- 17 あなたの神、主があなたに道を進ませたとき、あなたが主を捨てたために、このことがあなたに起こったのではないか。
- 18 今、ナイル川の水を飲みに エジプトへの道に向かうとは、いったいどうしたことか。大河の水を飲みに アッシリアへの道に向かうとは、いったいどうしたことか。
- 19 あなたの悪があなたを懲らしめ、あなたの背信があなたを責める。だから、知り、見極めよ。あなたがあなたの神、主を捨てて、わたしを恐れないのは、いかに悪く苦いことかを。—万軍の神、主のことば—

- 20 実に、遠い昔にあなたは自分のくびきを砕き、自分のかせを打ち砕いて、「私は仕えない」と言った。まさしく、あなたはすべての高い丘の上や、青々と茂るあらゆる木の下で、寝そべって淫行を行っている。
- 21 わたしは、あなたをみな、純種の良いぶどうとして植えたのに、どうしてあなたは、わたしにとって、質の悪い雑種のぶどうに変わってしまったのか。
- 22 たとえ、あなたが重曹で身を洗い、たくさんの灰汁を使っても、あなたの咎は、わたしの前に汚れたままだ。—神である主のことば—
- 23 どうしてあなたは、「私は汚れていない。バアルの神々に従わなかった」と言えるのか。谷の中でのあなたの行いを省み、自分が何をしたかを知れ。あなたは、あちらこちら道を走り回るすばやい雌のらくだ。
- 24 また、欲情に息あえぐ荒野に慣れた野るばだ。さかりのとき、だれがこれを制し得るだろう。これを探す者は苦労しない。発情の月に見つけることができる。
- 25 裸足にならないように、喉が渴かないようにせよ。しかし、あなたは言う。「あきらめられません。他国の男たちが好きなので、私は彼らについて行きます」と。
- 26 盗人が、見つかったときに恥を見るように、イスラエルの家も恥を見る。彼らの王たち、首長たち、祭司たち、預言者たちも。
- 27 彼らは木に向かって「あなたは私の父」、石に向かって「あなたは私を生んだ」と言っている。実に、彼らはわたしに背を向け、顔を向けない。それなのに、わざわいのときには「立って、私たちを救ってください」と言う。
- 28 では、あなたが造った神々はどこにいるのか。あなたのわざわいのときには彼らが立って救えばよい。ユダよ、あなたの神々はあなたの町の数ほどもいるではないか。
- 29 なぜ、あなたがたはわたしと争うのか。あなたがたはみな、わたしに背いてきた。—主のことば—
- 30 わたしはあなたがたの子らを打ったが、無駄だった。彼らはその懲らしめを受け入れなかった。あなたがたの剣は、食い滅ぼす獅子のように、あなたがたの預言者たちを食い尽くした。
- 31 あなたがた、この時代の人々よ。主のことばに心せよ。わたしはイスラエルにとって荒野であったのか。あるいは暗黒の地であったのか。なぜわたしの民は、「私たちは、さまよい歩きます。もうあなたのところには行きません」と言うのか。
- 32 おとめが自分の飾り物を、花嫁が自分の飾り帯を忘れるだろうか。しかし、わたしの民はわたしを忘れた。その日数は数えきれない。
- 33 あなたが愛を求める方法は、なんと巧みなことか。そのようにして、あなたは悪い女にさえ、巧みに自分の方法を教えたのだ。
- 34 あなたの裾に見つかるのは、咎なき貧しい人たちの、いのちの血。彼らが押し入るのを、あなたが見たわけでもないのに。しかも、これらすべてのことにもかかわらず、
- 35 あなたは言う。「私は潔白だ。確かに、御怒りは私から去った」と。あなたが「私は罪を犯してはいない」と言うので、今、わたしはあなたをさばく。
- 36 あなたはなんと簡単に自分の道を変えることか。アッシリアによって恥を見たのと同様に、あなたはエジプトによっても恥を見る。

37 そこからも、あなたは両手を頭に置いて出て来るだろう。主が、あなたの抛り頼むものを退けられるので、あなたが彼らによって栄えることは決してない。

第3章

- 1 もし、人が自分の妻を去らせ、彼女が彼のもとを去って、ほかの男のものになったら、この人は再び先の妻のもとに戻れるだろうか。そのような地は大いに汚れていないだろうか。あなたは、多くの愛人と淫行を行って、しかも、わたしのところに帰るといえるのか。—主のことば—
- 2 目を上げて裸の丘を見よ。あなたが共寝しなかったところがどこにあるか。荒野のアラビア人がするように、あなたは道端で相手を待って座り込み、淫行と悪行によって、この地を汚した。
- 3 それで大雨はとどめられ、後の雨はなかった。それでも、あなたは遊女の額をして、恥じることを拒んでいる。
- 4 今でもあなたは、わたしにこう呼びかけているではないか。「父よ、あなたは私の若いころの恋人です。
- 5 いつまでも恨みを抱かれるのですか。永久に持ち続けるのですか」と。なんと、あなたはこう言っているが、あらん限りの悪を行っている。』」
- 6 ヨシヤ王の時代に、主は私に言われた。「あなたは、背信の女イスラエルが行ったことを見たか。彼女はあらゆる高い山の上、青々と茂るあらゆる木の下に行き、そこで淫行を行った。
- 7 わたしは思った。彼女がこれらすべてを行った後で、わたしに帰って来るだろうと。しかし、帰っては来なかった。そして裏切る女、妹のユダもこれを見た。
- 8 背信の女イスラエルが姦通をしたので、わたしは離縁状を渡して追い出した。しかし、裏切る女、妹のユダが恐れもせず、自分も行って淫行を行ったのをわたしは見た。
- 9 彼女は、自分の淫行を軽く見て、地を汚し、石や木と姦通した。
- 10 このようなことをしながら、裏切る女、妹のユダは、心のすべてをもってわたしに立ち返らず、ただ偽ってそうしただけだった—主のことば。』
- 11 主は私に言われた。「背信の女イスラエルは、裏切る女ユダよりも正しかった。
- 12 行って、次のことばを北の方に叫べ。『背信の女イスラエルよ、帰れ。—主のことば— わたしはあなたがたに顔を伏せはしない。わたしは恵み深いから。—主のことば— わたしは、いつまでも恨みはしない。
- 13 ただ、あなたはあなたの咎を認めよ。あなたはあなたの神、主に背いて、青々と茂るあらゆる木の下で、他国の男と勝手なまねをし、わたしの声に聞き従わなかった。—主のことば。
- 14 背信の子らよ、立ち返れ—主のことば—。わたしが、あなたがたの夫であるからだ。わたしはあなたがたを、町から一人、氏族から二人選び取り、シオンに連れて来る。
- 15 また、あなたがたに、わたしの心にかなう牧者たちを与える。彼らは知識と判断力をもってあなたがたを育てるだろう。
- 16 あなたがたが地に増えて多くの子を生むとき、その日には—主のことば—人々はもう、主の契約の箱について語ることもなく、それが心に上ることもない。彼らがそれを思い出すことも、調べることもなく、それが再び作られることもない。

- 17 そのとき、エルサレムは主の御座と呼ばれ、万国の民はこの御座、主の名のあるエルサレムに集められ、彼らは二度と頑なな悪い心のままに歩むことはない。
- 18 その日、ユダの家はイスラエルの家に加わり、彼らはともどもに、北の国から、わたしが彼らの先祖に受け継がせた地に帰って来る。
- 19 わたしは思っていた。どのようにして、あなたを息子たちの中に入れ、あなたに慕わしい地を与えようかと。国々のうちで最も美しいゆずりの地を。また、あなたがわたしを父と呼び、わたしに従って、もう離れないと思っていた。
- 20 ところが、なんと、妻が夫を裏切るように、あなたがたはわたしを裏切った。イスラエルの家よ—主のことは—。
- 21 一つの声が裸の丘の上で聞こえる。イスラエルの子らの哀願の泣き声だ。彼らが自分たちの道を曲げ、自分たちの神、主を忘れたからだ。
- 22 背信の子らよ、立ち返れ。わたしがあなたがたの背信を癒やそう。』」「今、私たちはあなたのもとに参ります。あなたこそ、私たちの神、主だからです。
- 23 まことに、もろもろの丘も、山の騒ぎも、偽りでした。確かに、私たちの神、主にイスラエルの救いがあります。
- 24 しかし、私たちが若いころから、恥ずべきものが、私たちの先祖の労苦の実、彼らの羊の群れ、牛の群れ、息子、娘たちを食い尽くしてきました。
- 25 私たちは恥の中に伏し、恥辱が私たちの覆いとなっています。私たちの神、主に対し、私たちも先祖も、若いころから今日まで罪の中において、私たちの神、主の御声に聞き従わなかったからです。」

第4章

- 1 「イスラエルよ、もし帰るのなら、—主のことは—わたしのもとに帰れ。もし、あなたが忌まわしいものをわたしの前から取り除き、迷い出ないなら、
- 2 また、あなたが真実と公正と義によって『主は生きておられる』と誓うなら、国々は主によって互いに祝福し合い、互いに主を誇りとする。」
- 3 まことに、主はユダの人とエルサレムに、こう言われる。「耕地を開拓せよ。茨の中に種を蒔くな。
- 4 ユダの人とエルサレムの住民よ。主のために割礼を受け、心の包皮を取り除け。そうでないと、あなたがたの悪い行いのゆえに、わたしの憤りが火のように出て燃え上がり、消す者もないだろう。」
- 5 「ユダに告げ、エルサレムに聞かせて言え。国中に角笛を吹け。大声で叫べ。『集まれ。城壁のある町に逃れよう』と。
- 6 シオンに向けて旗を掲げよ。自分の身を守れ。立ち止まるな。わたしが北からわざわいを、大いなる破滅をもたらすからだ。
- 7 獅子はその茂みから立ち上がり、国々を滅ぼす者はその国から出て来る。あなたの地を荒れ果てさせるために。あなたの町々は滅び、住む者はいなくなる。」
- 8 このことのために、粗布をまとって悲しみ嘆け。主の燃える怒りが、私たちから去らないからだ。

- 9 「その日には一主のことば— 王の心や、高官たちの心は萎え、祭司は啞然とし、預言者はたじろぐ。」
- 10 私は言った。「ああ、神、主よ。まことに、あなたはこの民とエルサレムを完全に欺かれました。『あなたがたには平和が来る』と言われたのに、剣が私たちの喉に触れています。」
- 11 そのとき、この民とエルサレムに告げられる。「荒野にある裸の丘から、熱風は、娘であるわたしの民の方に吹く。ふるい分けるためでも、より分けるためでもない。
- 12 それよりも、もっと激しい風が、わたしのために吹いて来る。今や、わたしが彼らにさばきを下す。」
- 13 見よ、それは雲のように上って来る。その戦車はつむじ風のように。その馬は驚よりも速い。ああ、私たちは荒らされる。
- 14 「エルサレムよ。救われるために、悪から心を洗いきよめよ。いつまで、自分のうちによこしまな思いを宿らせているのか。
- 15 ああ、ダンから告げる声がある。エフライムの山から わざわいを告げ知らせている。
- 16 国々に語り告げよ。さあ、エルサレムに告げ知らせよ。包囲する者たちが遠くの地から来て、ユダの町々に対して、ときのをあげる。
- 17 彼らは畑の番人のように、ユダを取り囲む。それは、ユダがわたしに逆らったからだ。一主のことば—
- 18 あなたの生き方と、あなたの行いが、あなたの身にこれを招いたのだ。これはあなたへのわざわいで、なんと苦いことか。もう、あなたの心臓にまで達している。」
- 19 私のはらわた、私のはらわたよ、私は悶える。私の心臓の壁よ、私の心は高鳴り、私は黙っていられない。私のたましいが、角笛の音と 戦いの雄叫びを聞いたからだ。
- 20 破滅に次ぐ破滅が知らされる。まことに、地のすべてが荒らされる。突然、私の天幕が、一瞬のうちに私の幕屋が荒らされる。
- 21 いつまで私は旗を見て、角笛の音を聞かなければならないのか。
- 22 「実に、わたしの民は鈍く、わたしを知らない。愚かな子らで悟ることがない。悪事を働くことには賢く、善を行うことを知らない。」
- 23 私が地を見ると、見よ、茫漠として何もなく、天を見ると、その光はなかった。
- 24 私が山々を見ると、見よ、それは揺れ動き、すべての丘は震えていた。
- 25 私が見ると、見よ、人の姿はなく、空の鳥もみな飛び去っていた。
- 26 私が見ると、見よ、豊かな地は荒野となり、町々は主の前で、その燃える怒りによって打ち壊されていた。
- 27 まことに、主はこう言われる。「全地は荒れ果てる。ただし、わたしは滅ぼし尽くしはしない。
- 28 このため地は喪に服し、上の天は暗くなる。わたしが語り、企てたからだ。わたしは悔いず、やめることもしない。」
- 29 騎兵と射手の雄叫びに、町中の人々は逃げ去り、草むらに入り、岩によじ登った。すべての町が捨てられ、そこに住む人はいない。
- 30 踏みにじられた女よ、あなたはいったい何をしているのか。緋の衣をまとい、金の飾りで身を飾りたて、目を塗って大きく見せたりして。美しく見せても無駄だ。恋人たちはあなたを嫌い、あなたのいのちを取ろうとしている。

31 まことに、私は、産みの苦しみにある女のような声、初子を産む女のようなうめき、娘シオンの声を聞いた。彼女はあえぎ、手を伸ばして言う。「ああ、私は殺す者たちの前で疲れ果てた。」

第5章

- 1 「エルサレムの通りを行き巡り、さあ、見て知るがよい。その広場を探し回って、もしも、だれか公正を行う、真実を求める者を見つけたなら、わたしはエルサレムを赦そう。
- 2 彼らが、主は生きておられる、と言うからこそ、彼らの誓いは偽りなのだ。」
- 3 「主よ、あなたの目は真実に届かないのでしょうか。あなたが彼らを打たれたのに、彼らは痛みもしませんでした。絶ち滅ぼそうとされたのに、彼らは懲らしめを受けることを拒みました。彼らは顔を岩よりも硬くして、立ち返ることを拒みました。」
- 4 私は思った。「彼らは、卑しい者たちにすぎない。しかも愚かだ。主の道も、自分の神のさばきも知らない。
- 5 だから、身分の高い者たちのところへ行って、その人たちと語ろう。彼らなら、主の道も、自分の神のさばきも知っているから」と。ところが彼らもみな、くびきを砕き、かせを断ち切っていた。
- 6 そのため、森の獅子が彼らを殺し、荒れた地の狼が彼らを荒らす。豹が彼らの町々をうかがい、町から出る者をみなかみ裂く。彼らは背くことが多く、その背信がすさまじいからだ。
- 7 「これでは、どうして、あなたを赦すことができるだろうか。あなたの子らはわたしを捨て、神でないものによって誓っていた。わたしが彼らを満ち足らせると、彼らは姦通し、遊女の家で身を傷つけた。
- 8 彼らは、肥え太ってさかりのついた馬のように、それぞれ隣の妻を慕っていなく。
- 9 これらについて、わたしが罰しないだろうか。—主のことば—このような国に、わたしが復讐しないだろうか。
- 10 ぶどう畑の石垣に上り、それをつぶせ。ただ、根絶やしにしてはならない。そのつるを除け。それらは主のものではないからだ。
- 11 実に、イスラエルの家とユダの家は、ことごとくわたしを裏切った。—主のことば—
- 12 彼らは主を否定してこう言った。『主は何もしない。わざわざは私たちに襲わない。剣も飢饉も、私たちは見ない』と。
- 13 預言者たちは風になり、彼らのうちにみことばはない。彼らはそのようにされればよい。」
- 14 それゆえ、万軍の神、主はこう言われる。「あなたがたがこのようなことを言ったので、見よ、わたしはあなたの口にあるわたしのことばを火とする。この民は薪となり、火は彼らを焼き尽くす。
- 15 イスラエルの家よ。見よ。わたしはあなたがたを攻めるために、遠くの地から一つの国を来させる。—主のことば—それは古くからある国、昔からある国、その言語をあなたは知らず、何を話しているのが聞き取れない国。
- 16 その矢筒は開いた墓のよう。彼らはみな勇士たち。
- 17 彼らは、あなたの収穫とパンを食らい、あなたの息子と娘を食らい、羊の群れと牛の群れを食らい、ぶどうといちじくを食らい、あなたがたが拠り頼む城壁のある町々を剣で打ち破る。
- 18 しかし、その日にも—主のことば—わたしはあなたがたを滅ぼし尽くすことはない。

- 19 『われわれの神、主は、何の報いとして、これらすべてのことを私たちにしたのか』と尋ねられたら、あなたは彼らにこう言え。『あなたがたが、わたしを捨て、自分の地で異国の神々に仕えたように、あなたがたは自分の地ではない地で、他国の人に仕えるようになる。』
- 20 ヤコブの家にこれを告げ、ユダに言い聞かせよ。
- 21 さあ、これを聞け。愚かで思慮のない民よ。彼らは目があっても見ることがなく、耳があっても聞くことがない。
- 22 あなたがたは、わたしを恐れないのか。—主のことば—わたしの前で震えないのか。わたしは砂浜を海の境とした。それは永遠の境界で、越えることはできない。波が逆巻いても勝てず、鳴りとどろいても越えられない。
- 23 しかしこの民には、強情で逆らう心があった。それで彼らは離れて行った。
- 24 彼らは心の中でさえこう言わなかった。『さあ、私たちの神、主を恐れよう。主は大雨を、初めの雨と後の雨を、時にかなって与え、刈り入れのために定められた数週を守ってください』と。
- 25 あなたがたの咎がこれを追いやり、あなたがたの罪がこの良いものを拒んだのだ。
- 26 それは、わが民のうちに悪しき者たちがいるからだ。彼らは野鳥を捕る者のように待ち伏せし、罟を仕掛けて人々を捕らえる。
- 27 鳥でいっぱい鳥かごのように、彼らの家は欺きで満ちている。だから、彼らは大いなる者となり、富む者となる。
- 28 彼らは肥えてつややかになり、悪事において限りがない。孤児のために正しいさばきをして幸いを見させることをせず、貧しい人々の権利を擁護しない。
- 29 これらに対して、わたしが罰しないだろうか。—主のことば—このような国に、わたしが復讐しないだろうか。
- 30 荒廃とおぞましいことが、この地に起こっている。
- 31 預言者は偽りの預言をし、祭司は自分勝手に治め、わたしの民はそれを愛している。結局、あなたがたはどうするつもりなのか。」

第6章

- 1 ベニヤミンの子らよ、エルサレムの中から逃れ出よ。テコアで角笛を吹き、ベテ・ハ・ケレムでのろしを上げよ。わざわざ北から見下ろしているからだ。大いなる破壊が。
- 2 娘シオンよ、おまえは美しい牧場にたとえられるではないか。
- 3 そこに羊飼いたちは自分の群れを連れて行き、その周りに天幕を張り、群れの羊は、それぞれ自分の草を食べる。
- 4 「シオンに向かって聖戦を布告せよ。立て。われわれは真昼に上ろう。」 「ああ、残念だ。日が傾いた。夕日の影が伸びてきた。」
- 5 「立て。われわれは夜の間の上って、その宮殿を滅ぼそう。」
- 6 まことに、万軍の主はこう言われる。「木を切って、エルサレムに向かって壘を築け。これは罰せられる都。その中には虐げだけがある。
- 7 井戸が水を湧き出させるように、エルサレムは自分の悪を湧き出させた。暴虐と暴行がその中に聞こえる。病と打ち傷がいつもわたしの前にある。

- 8 エルサレムよ、懲らしめを受けよ。そうでないと、わたしの心はおまえから離れ、おまえを、人も住まない荒れ果てた地とする。」
- 9 万軍の主はこう言われる。「ぶどうの残りを摘むように、イスラエルの残りの者をすっかり摘み取れ。ぶどうを収穫する者のように、あなたの手をもう一度、その枝に伸ばせ。」
- 10 私はだれに語りかけ、だれを諭して聞かせようか。見よ。彼らの耳は閉じたままで、聞くこともできない。見よ。主のことばは彼らにとって、そしりの的となっている。彼らはそれを喜ばない。
- 11 主の憤りで私は満たされ、これを収めておくのに耐えられない。「それを、道端にいる幼子の上にも、若い男がたむろする上にも、注ぎ出せ。夫はその妻とともに、年寄りも齢の満ちた者も、ともに捕らえられる。
- 12 彼らの家は、畑や妻もろとも、他人の手に渡る。わたしがこの地の住民に手を伸ばすからだ。—主のことば—
- 13 なぜなら、身分の低い者から高い者まで、みな利得を貪り、預言者から祭司に至るまで、みな偽りを行っているからだ。
- 14 彼らはわたしの民の傷をいいかげんに癒やし、平安がないのに、『平安だ、平安だ』と言っている。
- 15 彼らは忌み嫌うべきことをして、恥を見たか。全く恥じもせず、辱めが何であるかも知らない。だから彼らは、倒れる者の中に倒れ、自分の刑罰の時に、よろめき倒れる。—主は言われる。」
- 16 主はこう言われる。「道の分かれ目に立って見渡せ。いにしえからの通り道、幸いの道はどれであるかを尋ね、それに歩いて、たましいに安らぎを見出せ。彼らは『私たちは歩まない』と言った。
- 17 わたしは、あなたがたの上に見張りを立て、『角笛の音に注意せよ』と命じたのに、彼らは『注意しない』と言った。
- 18 それゆえ、諸国の民よ、聞け。会衆よ、知れ。彼らに何が起こるかを。
- 19 この国よ、聞け。見よ、わたしはこの民にわざわざをもたらず。これは彼らの企みの実。彼らがわたしのことばに注意を払わず、わたしの律法を退けたからだ。
- 20 いったい何のために、シェバから乳香が、また、遠い国から香りの良い菖蒲がわたしのところに来るのか。あなたがたの全焼のささげ物は受け入れられず、あなたがたのいけにえはわたしには心地よくない。」
- 21 それゆえ、主はこう言われる。「見よ、わたしはこの民につまずきを与える。父も子も、ともにこれにつまずき、隣人も友人も滅びる。」
- 22 主はこう言われる。「見よ、一つの民が北の地から来る。大きな国が地の果てから奮い立つ。
- 23 彼らは弓と投げ槍を固く握り、残忍で、あわれみがない。その声は海のようにとどろく。娘シオンよ。彼らは馬にまたがり、あなたに向かい、一団となって陣を敷いている。」
- 24 私たちは、そのうわさを聞いて 氣力を失い、苦しみが私たちをとらえた。産婦のような激痛が。
- 25 畑に出るな。道を歩くな。敵の剣がそこにあり、恐怖が取り囲んでいるからだ。

- 26 娘である私の民よ。粗布を身にまとい、灰の中を転げ回れ。ひとり子を失ったように喪に服し、苦しみ嘆け。荒らす者が突然、私たちに襲いかかるからだ。
- 27 「わたしはあなたを、わたしの民の中で、試す者とし、城壁のある町とした。彼らの行いを知り、これを試せ。」
- 28 彼らはみな、頑なな反逆者、中傷して歩き回る者。青銅や鉄。彼らはみな、墮落した者たちだ。
- 29 吹子で激しく吹いて、鉛を火で溶かす。鉛は溶けた。溶けたが、無駄だった。悪いものは除かれなかった。
- 30 彼らは捨てられた銀と呼ばれる。主が彼らを捨てられたのだ。

第7章

- 1 主からエレミヤにあったことばは、次のとおりである。
- 2 「主の宮の門に立ち、そこでこのことばを叫べ。『主を礼拝するために、これらの門に入るすべてのユダの人々よ、主のことばを聞け。』
- 3 イスラエルの神、万軍の主はこう言われる。あなたがたの生き方と行いを改めよ。そうすれば、わたしはあなたがたをこの場所に住ませる。
- 4 あなたがたは、「これは主の宮、主の宮、主の宮だ」という偽りのことばに信頼してはならない。
- 5 もし、本当に、あなたがたが生き方と行いを改め、あなたがたの間で公正を行い、
- 6 寄留者、孤児、やもめを虐げず、咎なき者の血をこの場所で流さず、ほかの神々に従って自分の身にわざわいを招くようなことをしなければ、
- 7 わたしはこの場所、わたしがあなたがたの先祖に与えたこの地に、とこしえからとこしえまで、あなたがたを住ませる。
- 8 見よ、あなたがたは、役に立たない偽りのことばを頼りにしている。
- 9 あなたがたは盗み、人を殺し、姦淫し、偽って誓い、バアルに犠牲を供え、あなたがたの知らなかったほかの神々に従っている。
- 10 そして、わたしの名がつけられているこの宮の、わたしの前にやって来て立ち、「私たちは救われている」と言うが、それは、これらすべての忌み嫌うべきことをするためか。
- 11 わたしの名がつけられているこの家は、あなたがたの目に強盗の巣と見えたのか。見よ、このわたしもそう見ていた—主のことば—。
- 12 だが、シロにあったわたしの住まい、先にわたしの名を住ませた場所へ行って、わたしの民イスラエルの悪のゆえに、そこでわたしがしたことを見てみよ。
- 13 今、あなたがたは、これらのことをみな行い—主のことば—わたしがあなたがたに、絶えずしきりに語りかけたのに、あなたがたは聞こうともせず、わたしが呼んだのに、答えもしなかったのだ、
- 14 わたしの名がつけられているこの家、あなたがたが頼みとするこの家、また、わたしが、あなたがたと、あなたがたの先祖に与えたこの場所に対して、わたしはシロにしたのと同様のことを行う。
- 15 わたしは、かつて、あなたがたのすべての兄弟、エフライムのすべての子孫を追い払ったように、あなたがたをわたしの前から追い払う。』

- 16 あなたは、この民のために祈ってはならない。彼らのために叫んだり、祈りをささげたりしてはならない。わたしにとりなしをしてはならない。わたしはあなたの願いを聞かないからだ。
- 17 彼らがユダの町々や、エルサレムの通りで何をしているのか、あなたは見ていないのか。
- 18 子どもたちは薪を集め、父たちは火をたき、女たちは麦粉をこねて『天の女王』のための供えのパン菓子を作り、また、ほかの神々に注ぎのぶどう酒を注いで、わたしの怒りを引き起こそうとしている。
- 19 わたしの怒りを彼らが引き起こしているというのか—主のことば—。むしろ、自分たちを怒らせ、自分たちの恥をさらすことになっているのではないか。」
- 20 それゆえ、神である主はこう言われる。「見よ。わたしの怒りと憤りは、この場所に、人と家畜、畑の木と地の産物に注がれ、それは燃えて、消えることがない。」
- 21 イスラエルの神、万軍の主はこう言われる。「あなたがたの全焼のささげ物を、いけにえに加え、その肉を食べよ。
- 22 わたしは、あなたがたの先祖をエジプトの地から導き出したとき、彼らに全焼のささげ物や、いけにえについては何も語らず、命じもしなかった。
- 23 ただ、次のことを彼らに命じて言った。『わたしの声に聞き従え。そうすれば、わたしはあなたがたの神となり、あなたがたはわたしの民となる。あなたがたが幸せになるために、わたしが命じるすべての道に歩め。』
- 24 しかし、彼らは聞かず、耳を傾けず、頑なで悪い心のはかりごとによって歩み、前進どころか後退した。
- 25 あなたがたの先祖がエジプトの地を出た日から今日まで、わたしはあなたがたに、わたしのしもべであるすべての預言者たちを早くからたびたび遣わしたが、
- 26 彼らはわたしに聞かず、耳を傾けもせず、うなじを固くする者となり、先祖たちよりも悪くなった。
- 27 あなたが彼らにこれらのことをすべて語っても、彼らはあなたに聞かず、彼ら呼んでも、彼らはあなたに答えない。
- 28 そこであなたは彼らに言え。この民は、自分の神、主の声を聞かず、懲らしめを受け入れなかった民だ。真実は消え失せ、彼らの口から断たれた。
- 29 『あなたの長い髪を切り捨て、裸の丘の上で哀歌を歌え。主が、御怒りを引き起こした世代を退け、捨てられたからだ。』
- 30 それは、ユダの子らが、わたしの目に悪であることを行ったからだ—主のことば—。彼らは、わたしの名がつけられているこの宮に忌まわしいものを置いて、これを汚した。
- 31 また自分の息子、娘を火で焼くために、ベン・ヒノムの谷にあるトフェトに高き所を築いたが、これは、わたしが命じたこともなく、思いつきもしなかったことだ。
- 32 それゆえ、見よ、その時代が来る—主のことば—。そのとき、もはやそこは、トフェトとかベン・ヒノムの谷と呼ばれない。ただ虐殺の谷と呼ばれる。人々はトフェトに、隙間がないほどに葬る。
- 33 この民の屍は、空の鳥や地の獣の餌食となるが、これを追い払う者もない。
- 34 わたしは、ユダの町々とエルサレムの通りから、楽しみの声と喜びの声、花婿の声と花嫁の声を絶えさせる。この地が廃墟となるからである。」

第8章

- 1 「そのとき一主のことば一人々は、ユダの王たちの骨、首長たちの骨、祭司たちの骨、預言者たちの骨、エルサレムの住民の骨を、墓から取り出し、
- 2 それらを、彼らが愛し、仕え、従い、伺いを立て、拝んだ日や月や天の万象の前にさらす。それらは集められることなく、葬られることもなく、地の面の肥やしとなる。
- 3 また、この悪しき一族の中から残された残りの者はみな、わたしが追いやったすべての場所で、いのちよりも死を選ぶようになる一万軍の主のことば。
- 4 あなたは、彼らに言え。『主はこう言われる。人は倒れたら、起き上がるものではないか。離れたら、帰って来るものではないか。
- 5 なぜ、この民エルサレムは、背信者となり、いつまでも背信を続けているのか。彼らは偽りを握りしめ、帰って来ることを拒む。
- 6 わたしは気をつけて聞いたが、彼らは正しくないことを語り、「私は何ということをしたのか」と言って自分の悪を悔いる者は、一人もいない。彼らはみな、戦いに突き進む馬のように、自分の走路に走り去る。
- 7 空のこうのとりのも、自分の季節を知っている。山鳩も燕も鶴も、自分の帰る時を守る。しかし、わが民は主の定めを知らない。
- 8 どうして、あなたがたは、「私たちは知恵ある者、私たちには主の律法がある」と言えるのか。だが、見よ、書記たちの偽りの筆が、それを偽りにしてしまった。
- 9 知恵ある者たちは恥を見、うろたえて、捕らえられる。見よ。主のことばを退けたからには、彼らに何の知恵があるうか。
- 10 それゆえ、わたしは彼らの妻を他人に、彼らの畑を侵略者に与える。なぜなら、身分の低い者から高い者まで、みな利得を貪り、預言者から祭司に至るまで、みな偽りを行っているからだ。
- 11 彼らは、わたしの民の傷を簡単に手当てし、平安がないのに、「平安だ、平安だ」と言っている。
- 12 彼らは忌み嫌うべきことをして、恥を見たか。全く恥じもせず、辱めが何であるかも知らない。だから彼らは、倒れる者の中に倒れ、自分の刑罰の時に、よろめき倒れる。一主は言われる。
- 13 わたしは彼らを刈り入れたい。一主のことば—しかし、ぶどうの木には、ぶどうがなく、いちじくの木には、いちじくがなく、葉はしおれている。わたしはそれらをそのままにしておく。』」
- 14 「何のために私たちは座っているのか。集まって、城壁のある町々に行き、そこで滅んでしまおう。私たちの神、主が、私たちを滅びに定め、主が私たちに毒の水を飲ませられる。私たちが主に罪を犯したからだ。
- 15 平安を待ち望んでも、幸いはなく、癒やしの時を待ち望んでも、見よ、恐怖しかない。」
- 16 「ダンから馬の鼻息が聞こえる。その荒馬のいななきの声に、全地は震える。彼らは来て、地と、それに満ちているものを、町とその住民を食らう。
- 17 見よ。わたしがまじないの効かないコブラや、まむしをあなたがたの中に送り、あなたがたをかませるからだ。一主のことば。」
- 18 私の悲しみは癒やされず、私の心は弱り果てている。

- 19 見よ。遠い地から 娘である私の民の叫び声がある。「主はシオンにおられないのか。シオンの王は、そこにおられないのか。」「なぜ、彼らは自分たちが刻んだ像、異国の空しいものによって、わたしの怒りを引き起こしたのか。」
- 20 「刈り入れ時は過ぎ、夏も終わった。しかし、私たちは救われない。」
- 21 娘である私の民の傷のために、私は傷ついた。うなだれる中、恐怖が私をとらえる。
- 22 乳香はギルアデにないのか。医者はどこにいないのか。なぜ、娘である私の民の傷は癒えなかったのか。

第9章

- 1 ああ、私の頭が水であり、私の目が涙の泉であったなら、娘である私の民の殺された者たちのために 昼も夜も、泣こうものを。
- 2 ああ、私が荒野に 旅人の宿を持っていたなら、私の民を置いて、彼らから離れることができようものを。彼らはみな姦通する者、裏切り者の集まりなのだ。
- 3 「彼らは弓を張り、舌をつがえて偽りを放つ。地にはびこるが、それは真実のゆえではない。悪から悪へ彼らは進み、わたしを知らないからだ。—主のことば—
- 4 それぞれ互いに友を警戒せよ。どの兄弟も信用してはならない。どの兄弟も人を出し抜き、どの友も中傷して歩き回るからだ。
- 5 彼らはそれぞれ、互いに友をだまして、真実を語らない。偽りを語ることを自分の舌に教え、疲れきるまで悪事を働く。
- 6 あなたは欺きのただ中に住み、欺きの中で わたしを知ることを拒む。—主のことば。」
- 7 それゆえ、万軍の主はこう言われる。「見よ、わたしは彼らを精錬して試す。いったい、娘であるわたしの民に対して ほかに何ができるだろうか。
- 8 彼らの舌はとがった矢。人を欺くことを言う。口先では友に向かって平和を語るが、心の中では待ち伏せを企む。
- 9 これらについて、わたしが彼らを罰しないだろうか。—主のことば— このような国に、わたしが復讐しないだろうか。」
- 10 私は山々のために泣き声をあげて嘆き、荒野の牧場のために哀歌を歌う。そこは、焼き払われて通る人もなく、群れの声も聞こえず、空の鳥から家畜まで、みな逃げ去っているからだ。
- 11 「わたしはエルサレムを石ころの山とし、ジャッカルに住みかとする。ユダの町々を荒れ果てた地とし、住む者のいない所とする。」
- 12 知恵があって、これを悟ることのできる者はだれか。主の御口が自分に語られたことを 告げ知らせることのできる者はだれか。何のために、この国は滅びたのか。荒野のように滅ぼされ、通る人もいないのか。
- 13 主は言われる。「それは、彼らが、わたしが彼らの前に与えたわたしの律法を捨て、わたしの声に聞き従わず、律法に歩まず、
- 14 彼らの頑なな心のままに歩み、先祖たちが彼らに教えたバアルの神々に従って歩んだからだ。」
- 15 それゆえ、イスラエルの神、万軍の主はこう言われる。「見よ。わたしはこの民に苦よもぎを食べさせ、毒の水を飲ませる。

- 16 彼らも先祖も知らなかった国々に彼らを散らし、剣を彼らのうしろに送り、ついに彼らを絶ち滅ぼす。」
- 17 万軍の主はこう言われる。「よく考えて、泣き女を呼んで来させよ。人を遣わして、巧みな女を来させよ。」
- 18 彼女たちを急がせて、私たちのために嘆きの声をあげさせよ。私たちの目から涙を流れさせ、私たちのまぶたに水をあふれさせよ。
- 19 シオンから嘆きの声が聞こえるからだ。ああ、私たちは踏みにじられ、ひどく恥を見た。私たちが地を見捨て、自分たちの住まいが投げ捨てられたからだ。
- 20 女たちよ、主のことばを聞け。あなたがたの耳に、主の言われることばを受けとめさせよ。あなたがたの娘に嘆きの歌を、隣の女に哀歌を教えよ。
- 21 死が、私たちの窓によじ登り、私たちの高殿に入り、道端で幼子を、広場で若い男を絶ち滅ぼすからだ。
- 22 「語れ。主のことばはこうだ。『人間の死体は、畑の肥やしのように、刈り入れ人のうしろの、集める者もない束のように落ちる。』」
- 23 一主はこう言われる— 知恵ある者は自分の知恵を誇るな。力ある者は自分の力を誇るな。富ある者は自分の富を誇るな。
- 24 誇る者は、ただ、これを誇れ。悟りを得て、わたしを知っていることを。わたしは主であり、地に恵みと公正と正義を行う者であるからだ。まことに、わたしはこれらのことを喜ぶ。一主のことば。』」
- 25 「見よ、その時代が来る— 主のことば—。そのとき、わたしはすべて包皮に割礼を受けている者を罰する。
- 26 エジプト、ユダ、エドム、アンモンの子ら、モアブ、および荒野の住人で、もみ上げを刈り上げているすべての者を罰する。すべての国々は無割礼で、イスラエルの全家も心に割礼を受けていないからだ。」

第10章

- 1 イスラエルの家よ、主があなたがたに語られたことばを聞け。
- 2 「主はこう言われる。諸国の道を見習うな。天のしるしにうろたえるな。諸国がそれらにうろたえても。
- 3 国々の民の慣わしは空しいからだ。それは、林から切り出された木、木工が、なたで作った物にすぎない。
- 4 それは銀と金で飾られ、釘や槌で、ぐらつかないよう打ち付けられる。
- 5 それは、きゅうり畑のかかしのようで、ものも言えず、歩けないので、運んでやらなければならない。そんなものを恐れるな。害になることも益になることもしないからだ。」
- 6 主よ、あなたに並ぶものはありません。あなたは大いなる方。あなたの御名は、力ある大いなるものです。
- 7 国々の王である方、あなたを恐れない者がいるでしょうか。そのことは、あなたにとっては当然のことです。まことに、国々のすべての知恵ある者の中にも、そのすべての王国の中にも、あなたに並ぶものはありません。
- 8 彼らはみな間抜けであり、愚かなことをする。空しい神々の訓戒—それは木にすぎない。

- 9 銀箔はタルシシュから、金はウファズから運ばれる。これは木工と金細工人の手のわざ。これらの衣は青色と紫色、すべて名匠の作。
- 10 しかし、主はまことの神、生ける神、とこしえの王。その御怒りに地は震え、その憤りに国々は耐えられない。
- 11 「あなたがたは、彼らにこう言え。『天と地を造らなかった神々は、地からも、この天の下からも滅びる』と。」
- 12 主は、御力をもって地を造り、知恵をもって世界を堅く据え、英知をもって天を張られた。
- 13 主の御声に、天では水のざわめきが起こる。主は地の果てから雲を上らせ、雨のために稲妻を造り、ご自分の倉から風を出される。
- 14 すべての人間は愚かで無知だ。すべての金細工人は、偶像のために恥を見る。その鑄た像は偽りで、その中には息がない。
- 15 それは空しいもの、物笑いの種だ。刑罰の時に、それらは滅びる。
- 16 ヤコブの受ける分はこのようなものではない。主は万物を造る方。イスラエルは主のゆずりの民。その御名は万軍の主である。
- 17 包囲されている女よ、あなたの荷物を地から取り集めよ。
- 18 まことに主はこう言われる。「見よ。わたしはこの国の住民を 今度こそ放り出して苦しめる。彼らが思い知るためだ。」
- 19 ああ、私は悲しい。この傷のために。この打ち傷は癒やしがたい。しかし、私は言った。「まことに、これこそ私が 負わなければならない病だ。」
- 20 私の天幕は荒らされ、そのすべての綱は断たれ、私の子らも私から去って、もういない。もう私の天幕を張る者はなく、その幕を広げる者もない。
- 21 牧者たちは愚かで、主を求めなかった。それゆえ、彼らは栄えず、彼らが飼うものはみな散らされる。
- 22 声がする。見よ、一つの知らせが届いた。大いなるざわめきが北の地から来る。ユダの町々を荒れ果てた地とし、ジャッカルの住みかとするために。
- 23 主よ、私は知っています。人間の道はその人によるのではなく、歩むことも、その歩みを確かにすることも、人によるのではないことを。
- 24 主よ、私を懲らしめてください。御怒りによらないで、ただ、公正をもって。そうでなければ、私は無に帰してしまいます。
- 25 あなたを知らない国々の上に、あなたの御名を呼ばない諸氏族の上に、あなたの憤りを注いでください。彼らはヤコブを食らい、これを食らって滅ぼし、その牧場を荒らしたからです。

第11章

- 1 主からエレミヤにあったことばは、次のとおりである。
- 2 「この契約のことばを聞け。これをユダの人とエルサレムの住民に語れ。
- 3 『イスラエルの神、主はこう言われる。この契約のことばを聞かない者は、のろわれる。
- 4 これは、わたしがあなたがたの先祖をエジプトの地、鉄の炉から導き出したとき、「わたしの声に聞き従い、すべてわたしがあなたがたに命じるように、それを行え。そうすれば、あなた

がたはわたしの民となり、わたしはあなたがたの神となる」と言って、彼らに命じたものだ。

- 5 それは、わたしがあなたがたの父祖たちに対して、乳と蜜の流れる地を与えると誓ったことを、今日のとおり成就するためであった。』」私は答えた。「アーメン。主よ。」
- 6 すると、主は私に言われた。「これらのことばのすべてを、ユダの町々と、エルサレムの通りで叫べ。『この契約のことばを聞いて、これを行え。』」
- 7 わたしは、あなたがたの先祖をエジプトの地から導き出したとき、厳しく彼らを戒め、また今日まで、「わたしの声を聞け」と言って、しばしば戒めてきた。
- 8 しかし彼らは聞かず、耳を傾けず、それぞれ頑なで悪い心のままに歩んだ。そのため、わたしはこの契約のことばをことごとく彼らの上に臨ませた。わたしが行うように命じたのに、彼らが行わなかったからである。』」
- 9 主は私に言われた。「ユダの人、エルサレムの住民の間に、謀反がある。
- 10 彼らはわたしのことばを聞くことを拒んだ自分たちのかつての先祖の咎に戻り、彼ら自身もほかの神々に従って、これに仕えた。イスラエルの家とユダの家は、わたしが彼らの父祖たちと結んだわたしの契約を破った。
- 11 それゆえ—主はこう言われる—見よ、わたしは彼らにわざわいを下す。彼らはそれから逃れることができない。彼らがわたしに叫んでも、わたしは聞かない。
- 12 ユダの町々とエルサレムの住民は、自分たちが犠牲を供えている神々のもとに行って叫ぶだろうが、これらは、彼らのわざわいの時に、決して彼らを救わない。
- 13 『まことに、ユダよ、あなたの神々は、あなたの町の数ほどもある。あなたがたは、恥ずべきものための祭壇、バアルのために犠牲を供える祭壇を、エルサレムの通りの数ほども設けた。』
- 14 あなたは、この民のために祈ってはならない。彼らのために叫んだり、祈りをささげたりしてはならない。彼らがわざわいにあって、わたしを呼び求めても、わたしは聞かないからだ。
- 15 『わたしの愛する者は、わたしの家で何をしているのか。いろいろと何を企んでいるのか。聖なるいけにえの肉が、わざわいをあなたから過ぎ去らせるのか。そのときには喜び躍るがよい。』
- 16 主はかつてあなたの名を、「実りの良い、緑のオリーブの木」と呼ばれた。だが、大きな騒ぎの聲が起こると、主がこれに火をつけ、その枝は台無しになる。
- 17 あなたを植えた万軍の主が、あなたにわざわいを告げる。イスラエルの家とユダの家が悪を行い、バアルに犠牲を供え、わたしの怒りを引き起こしたからである。』」
- 18 「主が私に知らせてくださったので、私はそれを知りました。それからあなたは、彼らのわざわいを私に見せてくださいました。
- 19 私は、屠り場に引かれて行く、おとなしい子羊のようでした。彼らが私に敵対して計略をめぐらしていたことを、私は知りませんでした。『木を実とともに滅ぼそう。彼を生ける者の地から断って、その名が二度と思い出されないようにしよう』と。
- 20 しかし、正しいさばきをし、心とその奥にあるものを試す万軍の主よ。あなたが彼らに復讐するのを私は見るでしょう。私があるに、私の訴えを打ち明けたからです。」
- 21 それゆえ、主はアナトテの人々について、こう言われる。「彼らはあなたのいのちを狙い、
『主の名によって預言するな。われわれの手にかかって、あなたが死なないように』と言って
いる。

- 22 それゆえ一万軍の主はこう言われる―見よ、わたしは彼らを罰する。若い男は剣で死に、彼らの息子、娘は飢えで死に、
- 23 彼らには残る者がいなくなる。わたしがアナトテの人々にわざわいを下し、刑罰の年をもたらすからだ。」

第12章

- 1 「主よ。私があなたと論じても、あなたのほうが正しいのです。それでも、私はさばきについてあなたにお聞きしたいのです。なぜ、悪者の道が栄え、裏切りを働く者がみな安らかなのですか。
- 2 あなたが彼らを植え、彼らは根を張り、伸びて実を結びました。あなたは、彼らの口には近いのですが、彼らの心の奥からは遠く離れておられます。
- 3 主よ。あなたは私を知り、私を見て、あなたに対する私の心を試されます。どうか彼らを、屠られる羊のように引きずり出し、殺戮の日のために取り分けてください。
- 4 いつまで、この地は喪に服し、すべての畑の青草は枯れているのでしょうか。そこに住む者たちの悪のために、家畜も鳥も取り去られています。人々は『神はわれわれの最期を見ない』と言っています。」
- 5 「あなたは徒歩の者と競走して疲れるのに、どうして馬と走り競うことができるだろうか。平穏な地で安心して過ごしているのに、どうしてヨルダンの密林で過ごせるだろうか。
- 6 あなたの兄弟や、父の家の者さえ、彼らさえ、あなたを裏切り、彼らでさえ、あなたのうしろから大声で叫ぶ。だから彼らがあなたに親切そうに語りかけても、彼らを信じてはならない。
- 7 わたしは、わたしの家を捨て、わたしのゆずりの地を見放し、わたしが心から愛するものを、敵の手中に渡した。
- 8 わたしのゆずりの民は、わたしにとって、林の中の獅子のようだ。それはわたしに向かって、うなり声をあげる。それゆえ、わたしはこの地を憎む。
- 9 わたしのゆずりの民は、わたしにとって、一羽の斑の猛禽なのか。それを猛禽どもが取り巻いているではないか。さあ、すべての野の獣を集めよ。それらを連れて来て、食べさせよ。
- 10 多くの牧者が、わがぶどう畑を荒らし、わたしの地所を踏みつけて、わたしの慕う地所を恐怖の荒野にした。
- 11 それは恐怖と化し、荒れ果てて、わたしに向かって嘆き悲しんでいる。全地は荒らされて、まことに、だれも心に留める者はいない。
- 12 荒野にあるすべての裸の丘の上に、荒らす者が来た。主の剣が、地の果てから地の果てに至るまで 食い尽くすので、すべての肉なる者には平安がない。
- 13 小麦を蒔いても、茨を刈り取り、労苦しても無駄になる。あなたがたは、自分たちの収穫で恥を見る。主の燃える怒りによって。」
- 14 主はこう言われる。「わたしの民イスラエルに受け継がせたゆずりの地に侵入する、悪い隣国の民について。見よ。わたしはその土地から彼らを引き抜き、彼らの間からユダの家も引き抜く。
- 15 しかし、彼らを引き抜いた後、わたしは再び彼らをあわれみ、彼らをそれぞれ自分のゆずりの地、あるいは自分の土地に帰らせる。

- 16 彼らがかつて、バアルによって誓うことをわたしの民に教えたように、もし彼らがわたしの民の道をよく学び、わたしの名によって『主は生きておられる』と誓うなら、彼らはわたしの民のうちに建てられる。
- 17 しかし、彼らが聞かなければ、わたしはその国を根こそぎ滅ぼす—主のことば。」

第13章

- 1 主は私にこう言われた。「行って亜麻布の帯を買い、それを腰に締めよ。水の中に入れてはならない。」
- 2 私は主のことばのとおり、帯を買って、腰に締めた。
- 3 再び次のような主のことばが私にあった。
- 4 「あなたが買って腰に着けているその帯を取り、ユーフラテス川に行って、そこの岩の割れ目にそれを隠せ。」
- 5 そこで、主が私に命じられたとおり、私は行って、それをユーフラテス川のほとりに隠した。
- 6 多くの日を経て、主は私に言われた。「さあ、ユーフラテス川へ行き、わたしが隠せとあなたに命じたあの帯を取り出せ。」
- 7 私はユーフラテス川に行って掘り、隠した場所から帯を取り出した。すると見よ。その帯はぼろぼろになって、何の役にも立たなくなっていた。
- 8 すると、私に次のような主のことばがあった。
- 9 主はこう言われた。「わたしはこのように、ユダとエルサレムの大きな誇りをぼろぼろにする。
- 10 わたしのことばに聞くことを拒み、その頑なな心のままに、ほかの神々に従って歩いて、それらに仕え、それらを拝むこの悪しき民は、何の役にも立たないこの帯のようになる。
- 11 帯が人の腰に着けられるように、わたしはイスラエルの全家とユダの全家をわたしに着けた—主のことば—。それは、彼らがわたしの民となり、名声となり、榮譽となり、栄えとなるためだった。しかし彼らはわたしに聞き従わなかったのだ。
- 12 あなたは彼らにこのことばを伝えよ。『イスラエルの神、主はこう言われる。酒壺には酒が満たされる。』彼らがあなたに『酒壺に酒が満たされることくらい、分かりきっているではないか』と言ったなら、
- 13 あなたは彼らに言え。『主はこう言われる。見よ。わたしは、この地の全住民を、ダビデの王座に着いている王たち、祭司、預言者、およびエルサレムの全住民を酔いで満たし、
- 14 彼らを互いにぶつけて砕く。父も子も、ともに—主のことば—。わたしは容赦せず、惜しまず、あわれみをかけずに、彼らを滅ぼす。』」
- 15 耳を傾けて聞け。高ぶるな。主が語られたからだ。
- 16 あなたがたの神、主に、栄光を帰せよ。まだ主が闇を送らないうちに、まだあなたがたの足が夕暮れの山でつまずかないうちに。あなたがたが光を待ち望んでも、主はそれを死の陰に変え、暗黒とされる。
- 17 もし、あなたがたがこれに聞かなければ、私は隠れたところであなたがたの高ぶりのために嘆き、涙にくれ、私の目には涙があふれる。主の群れが捕らわれて行くからだ。
- 18 「王と王母に告げよ。『低い座に着け。あなたがたの頭から、輝かしい冠が落ちたから。』」

- 19 ネゲブの町々は閉ざされて、だれも開ける者はいない。ユダはことごとく捕らえ移される。一人残らず捕らえ移される。
- 20 あなたがたの目を上げ、北から来る者たちを見よ。あなたに対して与えられた群れ、あなたの美しい羊の群れはどこにいるのか。
- 21 最も親しい友としてあなたが教えてきた者たちが、あなたの上に、かしらとして立てられるとき、あなたは何と言うのか。激しい痛みがあなたをとらえないだろうか。子を産む女のように。
- 22 あなたが心の中で『なぜ、こんなことが私の身に起こったのか』と言うなら、それは、あなたの多くの咎のためだ。それで、あなたの裾はまくられて、あなたのかかとは傷を負うのだ。
- 23 クシュ人がその皮膚を、豹がその斑点を、変えることができるだろうか。それができるなら、悪に慣れたあなたがたも善を行うことができるだろう。
- 24 わたしは彼らを、荒野の風に吹き飛ばされる藁のように散らす。
- 25 これが、あなたへの割り当て、わたしがあなたに量り与える分である。—主のことば—あなたがわたしを忘れ、偽りに拠り頼んだためだ。
- 26 わたしも、あなたの裾を顔の上までまくるので、あなたの恥ずべきところが現れる。
- 27 あなたの姦淫、あなたの興奮のいななき、あなたの淫行のわざ—数々の忌まわしいものを、わたしは丘の上や野原で見た。ああ、エルサレムよ。あなたはいつまで、きよめられないままなのか。」

第14章

- 1 日照りのことについて、エレミヤにあった主のことば。
- 2 「ユダは喪に服し、その門は打ちしおれ、地に伏して嘆き悲しみ、エルサレムは哀れな叫びをあげる。
- 3 高貴な人は、召使いに水を汲みに行かせるが、彼らが水溜めのところに来て、水は見つからず、空の器のままで帰る。彼らは恥を見、辱められて、頭をおおう。
- 4 地には秋の大雨が降らず、地面は割れて、農夫たちは恥を見、頭をおおう。
- 5 野の雌鹿さえ、子を産んでも捨てる。若草がないからだ。
- 6 野るばは裸の丘の上に立ち、ジャッカルのようにあえぎ、目も衰え果てる。青草がないからだ。」
- 7 「私たちの咎が、私たちに不利な証言をしても、主よ、あなたの御名のために事をなしてください。まことに私たちの背信は大きく、私たちはあなたの御前で罪の中にいます。
- 8 イスラエルの望みである方、苦難の時の救い主よ。どうしてあなたは、この地にいる寄留者や、一晩だけ立ち寄る旅人のようにされるのですか。
- 9 なぜ、あなたは驚いているだけの人や、人を救えない勇士のようにされるのですか。主よ。あなたは私たちのただ中におられ、私たちはあなたの御名をもって呼ばれているのです。私たちを置き去りにしないでください。」
- 10 この民について、主はこう言われる。「このように、彼らはさまようことを愛し、その足を制することもしない。そのため、主は彼らを受け入れず、今、彼らの咎を覚えて、その罪を罰する。」

- 11 主は私に言われた。「この民のために幸いを祈ってはならない。
- 12 彼らが断食しても、わたしは彼らの叫びを聞かない。全焼のささげ物や穀物のささげ物を献げても、わたしはそれを受け入れない。かえって、剣と飢饉と疫病で、彼らを絶ち滅ぼす。」
- 13 私は言った。「ああ、神、主よ。ご覧ください。預言者たちは、『あなたがたは剣を見ず、飢饉もあなたがたに起こらない。かえって、わたしはこの場所で、まことの平安をあなたがたに与える』と人々に言っているではありませんか。」
- 14 主は私に言われた。「あの預言者たちは、わたしの名によって偽りを預言している。わたしは彼らを遣わしたこともなく、彼らに命じたこともなく、語ったこともない。彼らは、偽りの幻と、空しい占いと、自分の心の幻想を、あなたがたに預言しているのだ。
- 15 それゆえ、わたしの名によって預言はするが、わたしが遣わしたのではない預言者たち、『剣や飢饉がこの地に起こらない』と言っているこの預言者たちについて、主はこう言う。『剣と飢饉によって、その預言者たちは滅び失せる。』
- 16 彼らの預言を聞いた民も、飢饉と剣によってエルサレムの道端に放り出され、彼らを葬る者もない。彼らも、その妻も、息子、娘もそのようになる。わたしは、彼らの上に彼ら自身の悪を注ぎかける。
- 17 あなたは彼らに、このことばを言え。『私の目は、夜も昼も涙を流して止まることのないように。おとめである娘、私の民の打たれた傷は大きく、それは癒やしがたい、ひどい打ち傷。』
- 18 野に出ると、見よ、剣で刺し殺された者たち。町に入ると、見よ、飢えて病む者たち。まことに、預言者も祭司も、地を行き巡って、仕事に精を出し、何も知らない。』」
- 19 「あなたはユダを全く退けられたのですか。あなたはシオンを嫌われたのですか。なぜ、あなたは私たちを打ち、癒やしてくださらないのですか。私たちが平安を待ち望んでも、幸いはなく、癒やしの時を待ち望んでも、ご覧ください、恐怖しかありません。
- 20 主よ、私たちは自分たちの悪と、先祖の咎をよく知っています。本当に私たちは、あなたの御前で罪の中にあります。
- 21 御名のために、私たちを退けないでください。あなたの栄光の御座を辱めないでください。私たちとのあなたの契約を覚えていて、それを破らないでください。
- 22 国々の空しい神々の中に、大雨を降らせる者がいるのでしょうか。それとも、天が夕立を降らせるのでしょうか。私たちの神、主よ、それは、あなたではありませんか。私たちはあなたを待ち望みます。あなたが、これらすべてをなさるからです。」

第15章

- 1 主は私に言われた。「たとえモーセとサムエルがわたしの前に立っても、わたしの心はこの民に向かわない。この民をわたしの前から追い出し、立ち去らせよ。
- 2 彼らがあなたに『どこへ去ろうか』と言うなら、あなたは彼らに言え。『主はこう言われる。死に定められた者は死に、剣に定められた者は剣に、飢饉に定められた者は飢饉に、捕囚に定められた者は捕囚に。』
- 3 わたしは四種類のもので彼らを罰する—主のことば—。切り殺すための剣、引きずるための犬、食い尽くして滅ぼすための空の鳥と地の獣である。

- 4 わたしは彼らを、地のすべての王国にとって、おののきのもとにする。ユダの王ヒゼキヤの子マナセがエルサレムで行ったことのためである。
- 5 エルサレムよ、いったい、だれがおまえを深くあわれむだろう。だれがおまえのために嘆くだろう。だれが立ち寄って、おまえの安否を尋ねるだろう。
- 6 おまえはわたしを捨てた。—主のことば— おまえはわたしから退いて行ったのだ。わたしはおまえに手を伸ばし、おまえを滅ぼす。わたしはあわれむのに疲れた。
- 7 わたしはこの地の町囲みの中で、熊手で彼らを追い散らし、彼らに子を失わせ、わたしの民を滅ぼす。彼らはその生き方から立ち返らなかった。
- 8 わたしはそのやもめの数を 海の砂よりも多くする。わたしは若い男の母親に対し、真昼に荒らす者を送って、突然、彼女の上に苦痛と恐怖を臨ませる。
- 9 七人の子を産んだ女は打ちしおれ、その息はあえぐ。彼女の太陽は、まだ昼のうちに沈み、彼女は恥を見て、屈辱を受ける。わたしは彼らの残りの者を、彼らの敵の前で剣に渡す。—主のことば。—
- 10 ああ、悲しいことだ。私の母が私を産んだので、私は全地にとって争いの相手、また口論する者となっている。私は貸したことも、借りたこともないのに、皆が私を呪っている。
- 11 主は言われた。「必ずわたしはあなたを解き放って、幸せにする。必ずわたしは、わざわざの時、苦難の時に、敵があなたにとりなしを頼むようにする。
- 12 人は鉄を、北からの鉄や青銅を 砕くことができるだろうか。
- 13 わたしは、あなたの財宝、あなたの宝物を、あなたの領土のいたるところで、戦利品として、ただで引き渡す。あなたの罪のゆえに。
- 14 わたしはあなたを、あなたが知らない地で敵に仕えさせる。わたしの怒りに火がつき、あなたがたに向かって燃えるからだ。」
- 15 「主よ、あなたはよくご存じです。私を思い起こし、私を顧み、迫害する者たちに、私のために復讐してください。あなたの御怒りを遅くして、私を取り去らないでください。私があるあなたのためにそしりを受けていることを 知ってください。
- 16 私はあなたのみことばが見つかったとき、それを食べました。そうして、あなたのみことばは、私にとって 楽しみとなり、心の喜びとなりました。万軍の神、主よ、私はあなたの名で呼ばれているからです。
- 17 私は、戯れる者がたむろする場に座ったり、喜び躍ったりしたことはありません。私はあなたの御手によって、ひとり座っていました。あなたが私を憤りで満たされたからです。
- 18 なぜ、私の痛みはいつまでも続き、私の打ち傷は治らず、癒えようもないのでしょうか。あなたは、私にとって、欺く小川の流れ、当てにならない水のようになられるのですか。」
- 19 それで、主はこう言われた。「もし、あなたが帰って来るなら、わたしはあなたを帰らせ、わたしの前に立たせる。もし、あなたが、卑しいことではなく、高貴なことを語るなら、あなたはわたしの口のようになる。彼らがあなたのところに帰ることがあっても、あなたは彼らのところに帰ってはならない。
- 20 この民に対して、わたしはあなたを 堅固な青銅の城壁とする。彼らは、あなたと戦っても勝てない。わたしがあなたとともにいて、あなたを救い、あなたを助け出すからだ。—主のことば—
- 21 わたしは、あなたを悪しき者たちの手から救い出し、横暴な者たちの手から贖い出す。」

第16章

- 1 次のような主のことばが私にあった。
- 2 「あなたはこの場所で、妻をめとるな。息子や娘も持つな。」
- 3 まことに主は、この場所で生まれる息子や娘について、また、この地で彼らを産む母親たちや、彼らをもうける父親たちについて、こう言われる。
- 4 「彼らはひどい病気で死ぬ。彼らは悼み悲しまれることなく、葬られることもなく、地の面の肥やしとなる。また、剣と飢饉で滅ぼされ、屍は空の鳥や地の獣の餌食となる。」
- 5 まことに主はこう言われる。「あなたは、甲いの家に入ってはならない。悼みに行ってはならない。彼らのために嘆いてはならない。わたしがこの民から、わたしの平安を、また恵みと、あわれみを取り去ったからだ—主のことば—。
- 6 この地の身分の高い者や低い者が死んでも葬られず、だれも彼らを悼み悲しまず、彼らのために身を傷つけず、髪も剃らない。
- 7 死者を悼む人のために、葬儀でパンが裂かれることはなく、父や母の場合でさえ、悼む人に慰めの杯が差し出されることもない。
- 8 あなたは甲いの宴会の家に行き、一緒に座って食べたり飲んだりしてはならない。」
- 9 まことに、イスラエルの神、万軍の主はこう言われる。「見よ。わたしはこの場所から、楽しみの声と喜びの声、花婿の声と花嫁の声を絶えさせる。あなたがたの目の前で。あなたがたが活着ているうちに。」
- 10 「あなたがこの民に、このすべてのことばを告げるとき、彼らがあなたに、『何のために、主は私たちに、この大きなわざわいを語られたのか。私たちの咎とは何か。私たちの神、主に対して犯したという、私たちの罪とは何か』と尋ねたら、
- 11 あなたは彼らにこう言え。『あなたがたの先祖がわたしを捨て—主のことば—ほかの神々に従い、これに仕え、これを拝み、またわたしを捨てて、わたしの律法を守らなかったことだ。
- 12 さらに、あなたがた自身が、自分たちの先祖以上に悪事を働き、しかも、見よ、それぞれ頑なで悪い心のままに歩み、わたしに聞かないでいる。
- 13 それで、わたしはあなたがたをこの地から放り出し、あなたがたも先祖も知らなかった地に行かせる。あなたがたは、そこで昼も夜も、ほかの神々に仕える。わたしはあなたがたに、いつくしみを施さない。』
- 14 それゆえ、見よ、その時代が来る—主のことば—。そのとき、もはや人々は『イスラエルの子らをエジプトの地から連れ上った主は生きておられる』と言うことはなく、
- 15 ただ『イスラエルの子らを、北の地から、彼らが散らされたすべての地方から上らせた主は生きておられる』と言うようになる。わたしは彼らの先祖に与えた彼らの土地に彼らを帰らせる。
- 16 見よ。わたしは多くの漁夫を遣わして—主のことば—彼らを捕まえさせる。それから、わたしは多くの狩人を遣わして、あらゆる山、あらゆる丘、岩の割れ目から彼らを捕らえさせる。
- 17 わたしの目は彼らのすべての行いを見ているからだ。それらはわたしの前で隠れず、彼らの咎もわたしの目の前から隠されはしない。
- 18 わたしはまず、彼らの咎と罪に対し二倍の報復をする。彼らがわたしの地を忌まわしいものの屍で汚し、忌み嫌うべきことで、わたしが与えたゆずりの地を満たしたからである。」

- 19 「主よ、私の力、私の砦、苦難の日の私の逃げ場よ。あなたのもとに、諸国の民が地の果てから来て言うでしょう。『私たちの父祖が受け継いだものは、ただ偽りのもの、何の役にも立たない空しいものばかり。』
- 20 人間は、自分のために神々を造れるだろうか。そのようなものは神ではない』と。」
- 21 「それゆえ、見よ、わたしは彼らに知らせる。今度こそ彼らに、わたしの手、わたしの力を知らせる。そのとき彼らは、わたしの名が主であることを知る。」

第17章

- 1 「ユダの罪は、鉄の筆と金剛石の先端で記され、彼らの心の板と彼らの祭壇の角に刻まれている。
- 2 彼らの子たちまでもが、その祭壇や、高い丘の青々と茂る木のそばにあるアシェラ像を覚えているほどだ。
- 3 野にあるわたしの山よ。あなたの領土のいたるところで犯した罪ゆえに、わたしは、あなたの財宝、すべての宝物を、高き所とともに、戦利品として引き渡す。
- 4 あなたは、わたしが与えたゆずりの地を手放さなければならない。またわたしは、あなたの知らない国で、あなたを敵に仕えさせる。あなたがたが、わたしの怒りに火をつけたので、それはとこしえまでも燃える。」
- 5 主はこう言われる。「人間に信頼する者はのろわれよ。肉なる者を自分の腕とし、心が主から離れている者は。
- 6 そのような者は荒れ地の灌木。幸せが訪れても出会うことはなく、焼けついた荒野、住む者のいない塩地に住む。
- 7 主に信頼する者に祝福があるように。その人は主を頼みとする。
- 8 その人は、水のほとりに植えられた木。流れのほとりに根を伸ばし、暑さが来ても暑さを知らず、葉は茂って、日照りの年にも心配なく、実を結ぶことをやめない。
- 9 人の心は何よりもねじ曲がっている。それは癒やしがたい。だれが、それを知り尽くすことができるだろうか。
- 10 わたし、主が心を探り、心の奥を試し、それぞれその生き方により、行いの実にしたがって報いる。」
- 11 しゃこが自分で産まなかった卵を抱くように、公正によらないで富を得る者がいる。彼の生涯の半ばで、富が彼を置き去りにし、その末は愚か者に終わる。
- 12 私たちの聖所がある場所は、初めから高く上げられた栄光の王座だ。
- 13 「イスラエルの望みである主よ。あなたを捨てる者は、みな恥を見ます。」「わたしから離れ去る者は、地にその名が記される。いのちの水の泉である主を捨てたからだ。」
- 14 「私を癒やしてください、主よ。そうすれば、私は癒やされます。私をお救いください。そうすれば、私は救われます。あなたこそ、私の賛美だからです。
- 15 ご覧ください。彼らは私に言っています。『主のことばはどこへ行ったのか。さあ、それを来させよ。』
- 16 しかし私は、あなたに従う牧者になることを避けたことはありません。癒やされない日を望んだこともありません。あなたは、私の唇から出るものが御前にあることをよくご存じです。

- 17 私を恐れさせないでください。あなたは、わざわいの日の、私の身の避け所です。
- 18 私を迫害する者たちが恥を見て、私が恥を見ることのないようにしてください。彼らがうろたえ、私がうろたえることのないようにしてください。彼らの上にわざわいの日を来たらせ、破れを倍にして、彼らを打ち破ってください。」
- 19 主は私にこう言われる。「行って、ユダの王たちが出入りする、この民の子らの門と、エルサレムのすべての門に立ち、
- 20 彼らに言え。『これらの門の内に入るユダの王たち、ユダ全体、エルサレムの全住民よ、主のことばを聞け。
- 21 主はこう言われる。あなたがた自身、気をつけて、安息日に荷物を運ぶな。また、それをエルサレムの門の内を持ち込むな。
- 22 また、安息日に荷物を家から出すな。いかなる仕事もするな。安息日を聖なるものとせよ。わたしがあなたがたの先祖に命じたとおりだ。
- 23 しかし、彼らは聞かず、耳を傾けず、うなじを固くする者となって聞こうとせず、戒めを受けなかった。
- 24 もし、あなたがたが、本当にわたしに聞き従い—主のことば—安息日にこの都の門の内には荷物を持ち込まず、安息日を聖なるものとし、この日にいかなる仕事もしないなら、
- 25 ダビデの王座に就く王たちや、車や馬に乗る首長たち、すなわち王たちとその首長たち、ユダの人、エルサレムの住民は、この都の門の内に入り、この都はとこしえに人の住む所となる。
- 26 ユダの町々やエルサレムの周辺から、ベニヤミンの地やシェフェラから、また山地やネゲブから、全焼のささげ物、いけにえ、穀物のささげ物、乳香を携えて来る者、また感謝のいけにえを携えて来る者が、主の宮に来る。
- 27 しかし、もし、わたしの言うことを聞き入れず、安息日を聖なるものとせず、安息日に荷物を運んでエルサレムの門の内に入るなら、わたしはその門に火をつけ、火はエルサレムの宮殿をなめ尽くし、消えることがない。』」

第18章

- 1 主からエレミヤに、このようなことばがあった。
- 2 「立って、陶器師の家に下れ。そこで、あなたにわたしのことばを聞かせる。」
- 3 私が陶器師の家に下って行くと、見よ、彼はろくろで仕事をしているところだった。
- 4 陶器師が粘土で制作中の器は、彼の手で壊されたが、それは再び、陶器師自身の気に入るほかの器に作り替えられた。
- 5 それから、私に次のような主のことばがあった。
- 6 「イスラエルの家よ、わたしがこの陶器師のように、あなたがたにすることはできないだろうか—主のことば—。見よ。粘土が陶器師の手の中にあるように、イスラエルの家よ、あなたがたはわたしの手の中にある。
- 7 わたしが、一つの国、一つの王国について、引き抜き、打ち倒し、滅ぼすと言ったそのとき、
- 8 もし、わたしがわざわいを予告したその民が立ち返るなら、わたしは下そうと思っていたわざわいを思い直す。
- 9 わたしが、一つの国、一つの王国について、建て直し、植えると言ったそのとき、

- 10 もし、それがわたしの声に聞き従わず、わたしの目に悪であることを行うなら、わたしはそれに与えると言った幸せを思い直す。
- 11 さあ今、ユダの人とエルサレムの住民に言え。『主はこう言われる。見よ。わたしはあなたがたに対してわざわいを考え出し、策をめぐらしている。さあ、それぞれ悪の道から立ち返り、あなたがたの生き方と行いを改めよ。』
- 12 しかし、彼らは言う。『いや。私たちは自分の計画にしたがって歩み、それぞれ、頑なで悪い心のままに行います。』」
- 13 それゆえ、主はこう言われる。「さあ、国々の中で尋ねてみよ。だれか、こんなことを聞いたことがあるだろうか。おとめイスラエルは、実におぞましいことを行った。
- 14 レバノンの雪は、野の岩から消え去るだろうか。ほかの国から流れて来る冷たい水は、涸れることがあるだろうか。
- 15 それなのに、わたしの民はわたしを忘れ、空しいものに犠牲を供える。それらは、わたしの民をその道、いにしえの道でつまづかせ、小道に、まだ整えられていない道に行かせ、
- 16 彼らの地を恐怖のもととし、永久に嘲りの的とする。そこを通り過ぎる者はみな、呆気にとられて頭を振る。
- 17 東風のように、わたしは彼らを敵の前で散らす。彼らの災難の日に、わたしは彼らに背を向け、顔を向けない。」
- 18 彼らは言った。「さあ、私たちは策をめぐらしてエレミヤを倒そう。祭司から律法が、知恵のある者から助言が、預言者からことばが滅び失せることはないはずだから。さあ、舌で彼を打ち、彼のすべてのことばに耳を傾けることがないようにしよう。」
- 19 「主よ、私に耳を傾け、私と争う者の声を聞いてください。
- 20 善に悪をもって報いてよいでしょうか。まことに彼らは、私のいのちを取ろうとして穴を掘りました。私が御前に立って、彼らへのあなたの憤りをやめていただくために、彼らについて良いことを語ったことを、思い起こしてください。
- 21 それゆえ、彼らの子らを飢饉に渡し、彼らを剣で殺してください。妻たちは子を失い、また、やもめになり、夫たちは虐殺されて死に、若い男たちは戦いで剣に殺されますように。
- 22 突然、あなたが略奪隊に彼らを襲わせるとき、彼らの家から悲鳴が聞こえます。彼らは私を捕らえようとして穴を掘り、私の足もとに罠を設けたからです。
- 23 主よ、あなたはみなご存じです。私を殺そうとする彼らのはかりごとを。どうか彼らの咎を赦さず、彼らの罪を御前からぬぐい去らないでください。彼らを御前で打ち倒し、御怒りの時に、彼らに報いてください。」

第19章

- 1 主はこう言われる。「行って、土の焼き物の瓶を買い、民の長老と年長の祭司のうちの数人とともに、
- 2 陶片の門の入り口にあるベン・ヒノムの谷に出かけ、そこで、わたしがあなたに語ることばを叫べ。
- 3 『ユダの王たちとエルサレムの住民よ、主のことばを聞け。イスラエルの神、万軍の主はこう言われる。見よ、わたしはこの場所にわざわいをもたらす。だれでもそのことを聞く者は、両耳が鳴る。

- 4 彼らがわたしを捨てて、この場所を見知らぬ所としたからである。彼らはこの場所で、彼らも彼らの先祖も、ユダの王たちも知らなかったほかの神々に犠牲を供え、この場所を咎なき者の血で満たし、
- 5 バアルのために自分の子どもたちを全焼のささげ物として火で焼くため、バアルの高き所を築いた。このようなことは、わたしが命じたこともなく、語ったこともなく、思いつきもしなかった。
- 6 それゆえ、見よ、その時代が来る—主のことば—。そのとき、もはやこの場所はトフェトとかベン・ヒノムの谷と呼ばれない。ただ虐殺の谷と呼ばれる。
- 7 また、わたしはこの場所で、ユダとエルサレムのはかりごとを打ち砕く。わたしは敵の前で彼らを剣で倒し、また、いのちを狙う者の手によって倒し、その屍を空の鳥や地の獣に餌食として与える。
- 8 また、わたしはこの都を恐怖のもと、また嘲りの的とする。そこを通り過ぎる者はみな呆気にとられ、そのすべての打ち傷を見てあざ笑う。
- 9 またわたしは、包囲と、彼らの敵、いのちを狙う者がもたらす窮乏のために、彼らに自分の息子の肉、娘の肉を食べさせる。彼らは互いに、その友の肉を食べ合う。』
- 10 そこであなたは、同行の人たちの目の前でその瓶を砕いて、
- 11 彼らに言え。『万軍の主はこう言われる。陶器師の器が砕かれると、二度と直すことはできない。このように、わたしはこの民と、この都を砕く。人々はトフェトに空き地がないまでに葬る。
- 12 わたしはこの場所と—主のことば—その住民にこのようにする。わたしはこの都をトフェトのようにする。
- 13 エルサレムの家々とユダの王の家々、すなわち、屋上で天の万象に犠牲を供え、ほかの神々に注ぎのぶどう酒を注いだすべての家々は、トフェトの地のように汚される。』」
- 14 そこでエレミヤは、主が預言のために遣わしたトフェトから帰って、主の宮の庭に立ち、民全体に言った。
- 15 「イスラエルの神、万軍の主はこう言われる。見よ。わたしはこの都とすべての町に、わたしが告げたすべてのわざわいをもたらす。彼らがうなじを固くする者となって、わたしのことばに聞き従おうとしなかったからである。」

第20章

- 1 さて、主の宮のつかさ、また監督者である、イメルの子、祭司パシュフルは、エレミヤがこれらのことばを預言するのを聞いた。
- 2 パシュフルは、預言者エレミヤを打ち、彼を主の宮にある、上のベニヤミンの門にある足かせにつないだ。
- 3 翌日になって、パシュフルがエレミヤを足かせから解いたとき、エレミヤは彼に言った。「主はあなたの名をパシュフルではなく、『恐怖が取り囲んでいる』と呼ばれる。
- 4 まことに主はこう言われる。見よ。わたしはあなたを、あなた自身とあなたの愛するすべての者にとって恐怖とする。彼らは、あなたが見ている前で、敵の剣に倒れる。また、わたしはユダの人すべてをバビロンの王の手に渡す。彼は彼らをバビロンへ引いて行き、剣で打ち殺す。

- 5 また、わたしはこの都のすべての富と、すべての労苦の実と、すべての宝を渡し、ユダの王たちの財宝を敵の手に渡す。彼らはそれをかすめ奪い、略奪してバビロンへ運ぶ。
- 6 パシュフルよ。あなたとあなたの家に住むすべての者は、捕らわれの身となってバビロンに行き、そこで死んで、そこに葬られる。あなたも、あなたが偽って預言を語り聞かせた、あなたの愛するすべての者たちも。」
- 7 「主よ。あなたが私を惑わしたので、私はあなたに惑わされました。あなたは私をつかみ、思いのままにされました。私は一日中笑いものとなり、皆が私を嘲ります。
- 8 私は、語るたびに大声を出して『暴虐だ。暴行だ』と叫ばなければなりません。主のことばが、一日中、私への嘲りのもとなり、笑いぐさとなるのです。
- 9 私が、『主のことばは宣べ伝えない。もう御名によっては語らない』と思っても、主のことばは私の心のうちで、骨の中に閉じ込められて、燃えさかる火のようになり、私は内にしまっておくのに耐えられません。もうできません。
- 10 私が、多くの人のささやきを聞いたからです。『「恐怖が取り囲んでいる」と告げよ。われわれも彼に告げたいのだ』と。私の親しい者もみな、私がつまずくのを待ちかまえています。『たぶん彼は惑わされるから、われわれは彼に勝って、復讐できるだろう』と。
- 11 しかし、主は私とともにいて、荒々しい勇士のようです。ですから、私を迫害する者たちはつまずき、勝つことができません。彼らは成功しないので、大いに恥をかき、忘れられることのない永久の恥となります。
- 12 正しい者を試し、思いと心を見る万軍の主よ。あなたが彼らに復讐するのを私に見させてください。私の訴えをあなたに打ち明けたのですから。」
- 13 主に向かって歌い、主をほめたたえよ。主が貧しい者のいのちを、悪を行う者どもの手から救い出されたからだ。
- 14 「私の生まれた日は、のろわれよ。母が私を産んだその日は、祝福されるな。
- 15 のろわれよ。私の父に、『男の子が生まれた』と知らせて、大いに喜ばせた人は。
- 16 その人は、主があわれみもなく打ち倒す町々のようになれ。朝には彼に悲鳴を聞かせ、真昼には、とき声を聞かせよ。
- 17 彼は、私が胎内にいるときに私を殺さず、母を私の墓とせず、その胎を、永久に身ごもったままにしなかったからだ。
- 18 なぜ、私は労苦と悲しみにあうために胎を出たのか。私の一生は恥のうちに終わるのか。」

第21章

- 1 主からエレミヤにあったことば。ゼデキヤ王が、マルキヤの子パシュフルと、マアセヤの子、祭司ゼパニヤをエレミヤのもとに遣わして、
- 2 「どうか、私たちのために主に尋ねてください。バビロンの王ネブカドネツアルが私たちが攻めています。主がかつて、あらゆる奇しいみわざを行われたように、私たちにも行い、彼を私たちのところから引き揚げさせてくださるかもしれませんから」と言ったときのことである。
- 3 エレミヤは彼らに言った。「あなたがたは、ゼデキヤにこう言いなさい。
- 4 『イスラエルの神、主はこう言われる。あなたがたは、城壁の外からあなたがたを囲むバビロンの王とカルデア人に向かって戦っているが、見よ、わたしはあなたがたが手にしている武器の向きを変え、それを集めてこの都のただ中に向ける。

- 5 わたし自身が、伸ばされた手と力強い腕をもって、怒り、憤り、大いなる激怒をもって、あなたがたと戦う。
- 6 この都に住むものは、人も家畜もわたしは打つ。彼らは激しい疫病で死ぬ。
- 7 その後で—主のことば—わたしはユダの王ゼデキヤとその家来、また、その民と、この都で疫病や剣や飢饉から逃れて生き残った者たちを、バビロンの王ネブカドネツアルの手、敵の手、いのちを狙う者たちの手に渡す。彼は彼らを剣の刃で討ち、彼らを惜しまず、容赦せず、あわれみをかけない。』」
- 8 「あなたは、この民に言え。『主はこう言われる。見よ、わたしはあなたがたの前に、いのちの道と死の道を置く。
- 9 この都にとどまる者は、剣と飢饉と疫病によって死ぬ。出て行ってあなたがたを囲んでいるカルデア人に降伏する者は生き、自分のいのちを戦勝品として得る。
- 10 なぜなら、わたしがこの都に顔を向けるのは、幸いのためではなく、わざわいのためだからだ—主のことば—。この都は、バビロンの王の手に渡され、彼はこれを火で焼く。』」
- 11 ユダの王家について。「主のことばを聞け。
- 12 ダビデの家よ、主はこう言われる。朝ごとに、公正にさばきを行い、かすめられている者を、虐げる者の手から救い出せ。そうでないと、あなたがたの悪行のために、わたしの憤りが火のように燃えて焼き尽くし、消す者はいなくなる。
- 13 見よ、わたしはあなたに敵対する。この谷に住む者、平地の岩よ—主のことば—。あなたがたはこう言っている。『だれが、このところに下って来るだろう。だれが、この住まいに入ってくるだろう』と。
- 14 わたしはあなたがたを、その行いの実にしたがって罰する。—主のことば— わたしはその森に火をつける。火は、その周りをことごとく焼き尽くす。」

第22章

- 1 主はこう言われる。「ユダの王の家に下り、そこでこのことばを語れ。
- 2 『ダビデの王座に着くユダの王よ。あなたも、これらの門の内に入って来るあなたの家来も、またあなたの民も、主のことばを聞け。
- 3 主はこう言われる。公正と正義を行い、かすめ取られている者を、虐げる者の手から救い出せ。寄留者、みなしご、やもめを苦しめたり、いじめたりしてはならない。また、咎なき者の血をここで流してはならない。
- 4 もし、あなたがたがこのことばを忠実に行うなら、ダビデの王座に着く王たちは車や馬に乗り、彼らも、その家来も、またその民も、この家の門の内に入ることができる。
- 5 しかし、もしこのことばを聞かなければ、わたしは自分にかけて誓うが—主のことば—この家は必ず廃墟となる。』」
- 6 まことに、ユダの王の家について、主はこう言われる。「あなたは、わたしにとってはギルアデ、レバノンの頂だが、必ず、わたしはあなたを荒野にし、住む人もいない町々にする。
- 7 わたしはあなたを攻めるために、それぞれ武具を持つ破壊者たちを取り分ける。彼らは、最も美しいあなたの杉の木を切り倒して火に投げ入れる。
- 8 多くの国々の者がこの都のそばを過ぎ、彼らが互いに、『何のために、主はこの大きな都をこのようにしたのだろうか』と言えば、

- 9 人々は、『彼らが、自分の神、主の契約を捨ててほかの神々を拝み、仕えたからだ』と言う。」
- 10 死んだ者のために泣くな。その者のために嘆くな。去って行く者のために、大いに泣け。彼が再び帰って、故郷を見ることがないからだ。
- 11 父ヨシヤに代わって王となった、ヨシヤの子、ユダの王シャルムについて、主はまことにこう言われる。「彼はこの場所から出て行って、二度とここには帰らない。
- 12 彼は引いて行かれた場所で死に、再びこの地を見ることはない。」
- 13 「わざわざ。不義によって自分の家を建て、不正によって自分の高殿を建てる者たち。隣人をただで働かせて報酬も払わず、
- 14 『私は自分のために、広い家、ゆったりとした高殿を建てよう』と言い、それに窓を取り付けて、杉の板でおおい、朱を塗る者は。
- 15 あなたは杉の木で競って、王になろうとするのか。あなたの父は食べたり飲んだりし、公正と義を行ったではないか。そのとき、彼は幸福であった。
- 16 虐げられた人、貧しい人の訴えを擁護し、彼は、そのとき幸福であった。それが、わたしを知っていることではないのか。—主のことば—
- 17 しかし、あなたの目と心は、自分の利得に、さらには、咎なき者の血を流すこと、虐げと暴虐を行うことにだけ向けられている。」
- 18 それゆえ、ヨシヤの子、ユダの王エホヤキムについて、主はこう言われる。「だれも、『ああ、悲しい、私の兄弟よ。ああ、悲しい、私の姉妹よ』と言って彼を悼まず、だれも、『ああ、悲しい、主よ。ああ、悲しい、陛下よ』と言って彼を悼まない。
- 19 彼はエルサレムの門の外へ引きずられ、投げ捨てられて、ろばが埋められるように埋められる。」
- 20 「レバノンに上って叫び、バシャンで声をあげ、アバリムから叫べ。あなたの恋人たちがみな、砕かれたからだ。
- 21 あなたが平穏であったときに、わたしはあなたに語りかけたが、あなたは『私は聞かない』と言った。わたしの声に聞き従わないということ、これが、若いころからのあなたの生き方だった。
- 22 あなたの牧者たちはみな風に追い立てられ、あなたの恋人たちは捕らわれの身となって行く。そのとき、あなたは自分のすべての悪のゆえに、恥を見、辱めを受ける。
- 23 レバノンの中に住み、杉の木の中に巣ごもりする女よ。あなたに陣痛が、産婦のような激痛が襲うとき、あなたはどんなにうめくことだろう。」
- 24 「わたしは生きている—主のことば—。ユダの王、エホヤキムの子エコンヤは、わたしの右手の指輪の印ではあるが、わたしは必ずあなたを指から抜き取り、
- 25 あなたのいのちを狙う者たちの手、あなたが恐れている者たちの手、バビロンの王ネブカドネツアルの手、カルデア人の手に渡し、
- 26 あなたと、あなたの産みの母を、あなたがたが生まれたところではない、ほかの地に放り出し、そこであなたがたは死ぬことになる。
- 27 彼らが帰りたいと心から望むこの地に、彼らは決して帰らない。」
- 28 この人エコンヤは、蔑まれて砕かれる像なのか。だれにも顧みられない器なのか。なぜ、彼とその子孫は投げ捨てられ、見も知らぬ地に投げやられるのか。

29 地よ、地よ、地よ、主のことばを聞け。

30 「主はこう言われる。この人を『子を残さず、一生栄えない男』と記録せよ。彼の子孫のうち一人も、ダビデの王座に着いて栄え、再びユダを治める者はいないからだ。」

第23章

1 「わざわざいだ。わたしの牧場の群れを滅ぼし散らしている牧者たち—主のことば。」

2 それゆえ、イスラエルの神、主は、私の民を牧する牧者たちについてこう言われる。「あなたがたはわたしの群れを散らし、これを追い散らして顧みなかった。見よ、わたしはあなたがたの悪しき行いを罰する—主のことば—。

3 しかしわたしは、わたしの群れの残りの者を、わたしが追い散らしたすべての地から集め、元の牧場に帰らせる。彼らは多くの子を生んで増える。

4 わたしは彼らの上に牧者たちを立てて、彼らを牧させる。彼らは二度と恐れることなく、おびえることなく、失われることもない—主のことば。

5 見よ、その時代が来る。—主のことば— そのとき、わたしはダビデに一つの正しい若枝を起こす。彼は王となって治め、栄えて、この地に公正と義を行う。

6 彼の時代にユダは救われ、イスラエルは安らかに住む。『主は私たちの義』。それが、彼の呼ばれる名である。

7 それゆえ、見よ、その時代が来る—主のことば—。そのとき、もはや人々は『イスラエルの子らをエジプトの地から上らせた主は生きておられる』と言うことはなく、

8 『イスラエルの家の末裔を、北の地や、彼らが散らされていたすべての地から上らせた主は、生きておられる』と言って、自分たちの土地に住むようになる。」

9 預言者たちについて—私の心は、うちに碎かれ、私の骨はみな震える。私は酔いどれのように、ぶどう酒に負けた男のようになった。主と、主の聖なることばのために。

10 地が姦通する者で満ちているからだ。地はのろわれて喪に服し、荒野の牧場は乾ききる。彼らの走る道は悪で、その力は正しくないことに使われる。

11 「実に、預言者も祭司も汚れている。わたしの家の中にも、わたしは彼らの悪を見出した。—主のことば—

12 それゆえ、彼らの道は、暗闇の中の滑りやすい場所のようになり、彼らは押しやられて、そこに倒れる。わたしが彼らにわざわざいをもたらし、刑罰の年をもたらすからだ。—主のことば—

13 サマリアの預言者たちの中に、わたしはごまかしを見た。彼らはバアルによって預言し、わたしの民イスラエルを迷わせた。

14 エルサレムの預言者たちの中に、わたしはおぞましいことを見た。彼らは姦通し、嘘をついて歩き、悪を行う者どもの手を強くして、その悪から、だれも立ち返らせない。彼らはみな、わたしにはソドムのようにであり、その住民はゴモラのようだ。」

15 それゆえ、万軍の主は、預言者たちについてこう言われる。「見よ、わたしは彼らに、苦よもぎを食べさせ、毒の水を飲ませる。不敬虔がエルサレムの預言者たちから出て、全土に広がったからだ。」

16 万軍の主はこう言われる。「あなたがたに預言する預言者たちのことばを聞くな。彼らはあなたがたを空しいものにしようとしている。彼らは主の御口からではなく、自分の心の幻を

語っている。

- 17 彼らは、わたしを侮る者に向かって、『主はあなたがたに平安があると告げられた』としきりに言い、頑なな心のままに歩むすべての者に向かって、『あなたがたにはわざわいが来ない』と言っている。」
- 18 しかし、だれが、主との親しい交わりに加わり、主のことばを見聞きしたか。だれが、耳を傾けて主のことばを聞いたか。
- 19 見よ。主のつむじ風が 憤りとなって出て行く。荒れ狂う暴風が 悪者の頭上で荒れ狂う。
- 20 主の怒りは、その心の御思いを行って成し遂げるまで 去ることはない。終わりの日に、あなたがたはそれを明らかに悟る。
- 21 「わたしはこのような預言者たちを 遣わさなかったのに、彼らは走り続ける。わたしは彼らに語らなかったのに、彼らは預言している。
- 22 わたしとの親しい交わりに加わっていたなら、彼らは、わたしの民にわたしのことばを聞かせ、民をその悪い生き方から、その悪しき行いから 立ち返らせたであろうに。
- 23 わたしは近くにいれば、神なのか。—主のことば— 遠くにいれば、神ではないのか。
- 24 人が隠れ場に身を隠したら、わたしはその人を見ることができないのか。—主のことば— 天にも地にも、わたしは満ちているではないか。—主のことば。
- 25 わたしの名によって偽りを預言する預言者たちが、『私は夢を見た。夢を見た』と言うのを、わたしは聞いた。
- 26 いつまで、あの預言者たちの心に偽りの預言があるのか。心の偽りごとを語る預言者たちのうちに。
- 27 彼らの先祖がバアルのゆえにわたしの名を忘れたように、彼らはそれぞれ自分たちの夢を述べ、わたしの民にわたしの名を忘れさせようと、企んでいるのか。
- 28 夢を見た預言者は夢を語るがよい。しかし、わたしのことばを受けた者は、わたしのことばを忠実に語らなければならない。麦は藁と何の関わりがあるだろうか。—主のことば—
- 29 わたしのことばは火のようではないか—主のことば—。岩を砕く金槌のようではないか。
- 30 それゆえ、見よ—主のことば—。わたしは、互いにわたしのことばを盗み合う預言者たちの敵となる。
- 31 見よ。わたしは—主のことば—自分の舌を操って、これがみことばだ、と言う預言者たちの敵となる。
- 32 見よ。わたしは偽りの夢を預言する者たちの敵となる—主のことば—。彼らは、偽りと自慢話をわたしの民に語って迷わせている。わたしは彼らを遣わさず、彼らに命じもしなかった。彼らは、この民にとって何の役にも立たない—主のことば。
- 33 この民、あるいは預言者か祭司が、『主の宣告とは何か』とあなたに尋ねたら、あなたは彼らに言え。『あなたが、宣告とは何かと言うので、わたしはあなたがたを捨てて—主のことば。』
- 34 預言者でも、祭司でも、民でも、主の宣告と言う者があれば、わたしはその者とその家を罰する。」
- 35 あなたがたは互いに「主はどう答えられたか。主はどう語られたか」と言うがよい。
- 36 しかし、主の宣告ということを二度と述べてはならない。その宣告自体がそれを言う人自身のことばであり、あなたがたが、生ける神、万軍の主、私たちの神のことばを曲げることになる

からだ。

- 37 「あの預言者たちにこう言え。『主はどう答えられたか。主はどう語られたか。
- 38 もし、あなたがたが主の宣告と言うなら、それに対して、主はこう言われる。わたしはあなたがたに、主の宣告と言うなと言いつたのに、あなたがたは主の宣告というこのことばを使っている。
- 39 それゆえ、見よ、わたしはあなたがたを全く忘れ、あなたがたとあなたがたの先祖に与えたこの都を、あなたがたとともに、わたしの前から捨てて、
- 40 永遠の恥辱、忘れられることのない永遠の侮辱をあなたがたに与える。』」

第24章

- 1 バビロンの王ネブカドネツアルが、ユダの王、エホヤキムの子エコンヤと、ユダの高官たち、職人、鍛冶をエルサレムから捕らえ移してバビロンに連れて行った後のこと、主は私にこのように示された。見よ、主の神殿の前に、二かごのいちじくが置かれていた。
- 2 一つのかごにあるのは非常に良いいちじくで、初なりのいちじくの実のようであり、もう一つのかごにあるのは非常に悪いいちじくで、悪くて食べられないものであった。
- 3 そのとき、主が私に、「エレミヤ、あなたは何を見ているのか」と言われたので、私は言った。「いちじくです。良いいちじくは非常に良く、悪いほうは非常に悪く、悪くて食べられないものです。」
- 4 すると、私に次のような主のことばがあった。
- 5 「イスラエルの神、主はこう言う。わたしは、この場所からカルデア人の地に送ったユダの捕囚の民を、この良いいちじくのように、良いものであると見なそう。
- 6 わたしは、彼らを幸せにしようとして彼らに目をかける。彼らをこの地に帰らせ、建て直して、壊すことなく、植えて、引き抜くことはない。
- 7 わたしは、わたしが主であることを知る心を彼らに与える。彼らはわたしの民となり、わたしは彼らの神となる。彼らが心のすべてをもってわたしに立ち返るからである。
- 8 しかし、悪くて食べられないあの悪いいちじくのように一まことに主は言われる—わたしはユダの王ゼデキヤと、その高官たち、エルサレムの残りの者と、この地に残されている者、およびエジプトの地に住んでいる者を、このようにする。
- 9 わたしは彼らを、地のすべての王国にとって、おののきのもと、悪しきものとする。また、わたしが追い散らす、すべての場所で、そしりと嘲りの的、物笑いの種、ののしりの的とする。
- 10 わたしは彼らのうちに、剣と飢饉と疫病を送り、彼らとその先祖に与えた地から彼らを滅ぼし尽くす。」

第25章

- 1 ユダの王、ヨシヤの子エホヤキムの第四年、バビロンの王ネブカドネツアルの元年に、ユダの民全体についてエレミヤにあったみことば。
- 2 預言者エレミヤは、それをユダの民全体とエルサレムの全住民に語り、こう言った。
- 3 「ユダの王、アモンの子ヨシヤの第十三年から今日まで、この二十三年間、私に主のことばがあり、私はあなたがたに絶えず、しきりに語りかけたのに、あなたがたは聞かなかった。

- 4 また、主はあなたがたに、主のしもべである預言者たちを早くからたびたび遣わされたのに、あなたがたは聞かず、聞こうと耳を傾けもしなかった。
- 5 主は言われた。『さあ、それぞれ悪の道から、あなたがたの悪い行いから立ち返り、主があなたがたと先祖たちに与えた土地に、いつまでも、とこしえに住め。』
- 6 ほかの神々に従い、それに仕え、それを拝んではならない。あなたがたが手で造った物によって、わたしの怒りを引き起こしてはならない。そのようにすれば、わたしも、あなたがたにわざわざを下さない。
- 7 しかし、あなたがたはわたしに聞き従わなかった—主のことば—。そして、あなたがたは手で造った物でわたしの怒りを引き起こし、身にわざわざを招いた。』
- 8 それゆえ、万軍の主はこう言われる。『あなたがたがわたしのことばに聞き従わなかったから、』
- 9 見よ、わたしは北のすべての種族を呼び寄せ—主のことば—。わたしのしもべ、バビロンの王ネブカドネツアルを呼び寄せて、この国とその住民、その周りのすべての国々を攻めさせ、これを聖絶して、恐怖のもと、嘲りの的、永遠の廢墟とする。
- 10 わたしは彼らから楽しみの声と喜びの声、花婿の声と花嫁の声、ひき臼の音と、ともしびの光を消し去る。
- 11 この地はすべて廢墟となり荒れ果てて、これらの国々はバビロンの王に七十年仕える。
- 12 七十年の終わりに、わたしはバビロンの王とその民を—主のことば—またカルデア人の地を、彼らの咎のゆえに罰し、これを永遠に荒れ果てた地とする。
- 13 わたしは、この地の上にわたしが語ったすべてのことばを実現させる。それは、エレミヤが万国について預言したことで、この書に記されているすべての事柄である。
- 14 多くの国々と大王たちは彼らを奴隷にして使い、わたしも彼らに、その行いに応じ、その手のわざに応じて報いる。』」
- 15 まことにイスラエルの神、主は、私にこう言われた。「この憤りのぶどう酒の杯をわたしの手から取り、わたしがあなたを遣わすすべての国々に、これを飲ませよ。
- 16 彼らは飲んで、ふらつき、狂ったようになる。わたしが彼らの間に送る剣のゆえである。」
- 17 そこで、私は主の御手からその杯を受け取り、主が私を遣わされたすべての国々の民に飲ませた。
- 18 まず、エルサレムとユダの町々とその王たち、高官たちに。彼らを今日のように廢墟とし、恐怖のもと、嘲りととのしりの的とするためである。
- 19 また、エジプトの王ファラオと、その家来たち、首長たち、そのすべての民、
- 20 すべての混血の民、ウツの地のすべての王たち、ペリシテ人の地のすべての王たち、すなわちアシュケロン、ガザ、エクロン、アシュドデの残りの者たち、
- 21 エドム、モアブ、アンモン人、
- 22 ツ口のすべての王たち、シドンのすべての王たち、海のかなたにある島の王たち、
- 23 デダン、テマ、ブズ、もみ上げを刈り上げているすべての者たち、
- 24 アラビアのすべての王たち、荒野に住む混血の民のすべての王たち、
- 25 ジムリのすべての王たち、エラムのすべての王たち、メディアのすべての王たち、
- 26 北国のすべての王たち、近い者も遠い者も一人ひとり、地の面のすべての王国である。そして、彼らの後でバビロンの王が飲む。

- 27 「あなたは彼らに言え。『イスラエルの神、万軍の主はこう言われる。わたしがあなたがたの間に送る剣のゆえに、飲め、酔え、吐け。倒れて起き上がるな。』
- 28 もし、彼らが、あなたの手からその杯を取って飲むことを拒むなら、彼らに言え。『万軍の主はこう言われる。あなたがたは必ず飲むことになる。』
- 29 見よ。わたしの名がつけられているこの都に対して、わたしはわざわざを下し始めているからだ。あなたがたは罰を免れようとするのか。免れることはできない。わたしがこの地の全住民の上に、剣を呼び寄せているからだ—万軍の主のことば。』
- 30 あなたは彼らにこのすべてのことばを預言して言え。『主は高い所からほえ、聖なる御住まいから声をあげられる。その牧場に向かって猛々しくほえ、ぶどう踏みをする者のように、地の全住民に向かって叫び声をあげられる。』
- 31 その叫び声は地の果てまでも響き渡る。主が諸国の民と争い、すべての肉なる者をさばき、悪者どもを剣に渡されるからだ。—主のことば—
- 32 万軍の主はこう言われる。見よ。わざわざが国から国へと移り行き、大いなる暴風が地の果てから起こる。』
- 33 その日、主に殺される者が地の果てから地の果てまでに及び、彼らは悼み悲しまれることなく、集められることなく、葬られることもなく、地の面の肥やしとなる。』」
- 34 牧者たちよ、泣き叫べ。群れの飼い主たちよ、灰の中を転げ回れ。あなたがたが屠られ、散らされる日が来たからだ。あなたがたは、尊い器が砕かれるように倒れる。』
- 35 逃げ場は牧者たちのうちから消え失せる。逃れ場は、群れの飼い主たちのうちから。』
- 36 牧者たちの叫ぶ声がある。群れの飼い主たちの泣き声がある。主が彼らの牧場を荒らしておられるからだ。』
- 37 平和な牧場も、主の燃える怒りによって荒れすたれる。』
- 38 主は若獅子のように仮庵を捨てた。虐げる者の怒り、主の燃える怒りによって、彼らの国が荒れ果てるからだ。』

第26章

- 1 ユダの王、ヨシヤの子エホヤキムの治世の初めに、主から次のようなことばがあった。』
- 2 主はこう言われた。「主の宮の庭に立ち、主の宮に礼拝しに来るユダのすべての町の者に、わたしがあなたに語れと命じたことばを残らず語れ。一言も省くな。』
- 3 彼らがそれを聞いて、それぞれ悪の道から立ち返るかもしれない。そうすればわたしは、彼らの悪い行いのために彼らに下そうと考えていたわざわざを思い直す。』
- 4 彼らに言え。『主はこう言われる。もし、あなたがたがわたしに聞き従わず、あなたがたの前に置いたわたしの律法に歩まず、』
- 5 あなたがたに早くからたびたび遣わしてきた、わたしのしもべである預言者たちのことばに聞き従わないなら—実際、あなたがたは聞き従わなかった—』
- 6 わたしはこの宮をシロのようにし、この都を地上のすべての国々の、ののしりの的とする。』」
- 7 祭司と預言者と民全体は、エレミヤがこのことばを主の宮で語るのを聞いた。』
- 8 主が民全体に語れと命じたことをみな、エレミヤが語り終えたとき、祭司と預言者とすべての民は彼を捕らえて言った。「あなたは必ず死ななければならない。』」

- 9 なぜ、この宮がシロのようになり、この都がだれも住む者のいない廃墟となると、主の名によって預言したのか。」そこで、民全体は主の宮のエレミヤのところに集まった。
- 10 これらのことを聞いてユダの首長たちは、王の宮殿から主の宮に上り、主の宮の新しい門の入り口で座に着いた。
- 11 祭司たちと預言者たちは、首長たちと民全体に次のように言った。「この者は死刑に当たる。彼がこの都に対して、あなたがたが自分の耳で聞いたとおりの預言をしたからだ。」
- 12 エレミヤは、すべての首長と民に告げた。「主が、この神殿とこの都に対して、あなたがたの聞いたすべてのことばを預言するよう、私を遣わされたのです。
- 13 さあ今、あなたがたの生き方と行いを改め、あなたがたの神、主の御声に聞き従いなさい。そうすれば、主も、あなたがたに語ったわざわいを思い直されます。
- 14 このとおり、私自身はあなたがたの手の中にあります。私を、あなたがたの目に良いと思うよう、気に入るようにしなさい。
- 15 ただ、もしあなたがたが私を殺すなら、あなたがた自身が咎なき者の血の責任を、自分たちと、この都と、その住民に及ぼすのだということを、はっきり知っておきなさい。なぜなら、本当に主が私をあなたがたのもとに送り、これらすべてのことばをあなたがたの耳に語らせたのですから。」
- 16 すると、首長たちと民全体は、祭司たちと預言者たちに言った。「この人は死刑に当たらない。彼は私たちの神、主の名によって、私たちに語ったのだから。」
- 17 それで、この地の長老たちの何人かが立って、民全体に言った。
- 18 「かつてモレシェテ人ミカも、ユダの王ヒゼキヤの時代に預言して、ユダの民全体にこう語ったことがある。万軍の主はこう言われる。シオンは畑のように耕され、エルサレムは瓦礫の山となり、神殿の山は木々におおわれた丘となる。
- 19 そのとき、ユダの王ヒゼキヤとユダのすべては彼を殺しただろうか。ヒゼキヤが主を恐れ、主に願ったので、主も彼らに語ったわざわいを思い直されたではないか。ところが、私たちはわが身に大きなわざわいを招こうとしている。」
- 20 主の御名によって預言している人がもう一人いた。キルヤテ・エアリム出身のシェマヤの子ウリヤで、彼はこの都とこの地に対して、エレミヤのことばすべてと同じような預言をしていた。
- 21 エホヤキム王、すべての勇士、首長たちは、彼のことばを聞いた。王は彼を殺そうとしたが、ウリヤはこれを聞いて恐れ、エジプトへ逃げて行った。
- 22 そこで、エホヤキム王は人々をエジプトに遣わした。すなわち、アクボルの子エルナタンに人々を随行させて、エジプトに送った。
- 23 彼らはウリヤをエジプトから導き出し、エホヤキム王のところに連れて来たので、王は彼を剣で打ち殺し、その屍を共同墓地に捨てさせた。
- 24 しかし、シャファンの子アヒカムはエレミヤをかばい、エレミヤが民の手に渡されて殺されることのないようにした。

第27章

- 1 ユダの王、ヨシヤの子のエホヤキムの治世の初めに、主からエレミヤに次のようなことばがあった。

- 2 主は私にこう言われた。「あなたは縄とかせを作り、それをあなたの首に付けよ。
- 3 そうして、エルサレムのユダの王ゼデキヤのところに来る使者たちによって、エドムの王、モアブの王、アンモン人の王、ツロの王、シドンの王に伝言を送り、
- 4 彼らがそれぞれの主君に次のことを言うように命じよ。『イスラエルの神、万軍の主はこう言われる。あなたがたは主君にこう言え。
- 5 わたしは、大いなる力と伸ばした腕をもって、地と、地の面にいる人と獣を造った。わたしは、わたしの目になつた者に、この地を与える。
- 6 今わたしは、これらすべての地域をわたしのしもべ、バビロンの王ネブカドネツアルの手に与え、野の生き物も彼に与えて彼に仕えさせる。
- 7 彼の地に時が来るまで、すべての国は、彼とその子と、その子の子に仕える。しかしその後で、多くの民や大王たちが彼を自分たちの奴隷にする。
- 8 バビロンの王ネブカドネツアルに仕えず、またバビロンの王のくびきに首を差し出さない国や王国があれば、わたしは剣と飢饉と疫病をもってその民を罰し—主のことば—彼の手で彼らを皆殺しにする。
- 9 だから、あなたがたは、バビロンの王に仕えることはないと言っているあなたがたの預言者、占い師、夢見る者、卜者、呪術者に聞き従ってはならない。
- 10 彼らは、あなたがたに偽りを預言しているからだ。それで、あなたがたは自分たちの土地から遠くに移され、わたしはあなたがたを追い散らして、あなたがたは滅びることになる。
- 11 しかし、バビロンの王のくびきに首を差し出して彼に仕える国を、わたしはその土地にとどまらせる—主のことば—。こうして、人々はその土地を耕し、そこに住む。』」
- 12 ユダの王ゼデキヤにも、私はこのことばのとおりに言った。「あなたがたはバビロンの王のくびきに首を差し出し、彼とその民に仕えて生きよ。
- 13 なぜ、あなたとあなたの民は、主がバビロンの王に仕えない国に向かって語られたように、剣と飢饉と疫病で死のうとするのか。
- 14 『バビロンの王に仕えることはない』とあなたがたに語る預言者たちのことばに聞き従ってはならない。彼らがあなたがたに偽りを預言しているからだ。」
- 15 「わたしは彼らを遣わさなかったのに—主のことば—彼らはわたしの名によって偽りを預言している。わたしがあなたがたを追い散らし、あなたがたも、あなたがたに預言している預言者たちも、滅びることになるのだ。」
- 16 私はまた、祭司たちとこの民全体に向かって語った。「主はこう言われる。あなたがたは、『見よ、主の宮の器は、バビロンから今すぐにも戻される』とあなたがたに預言している、あなたがたの預言者のことばに聞き従ってはならない。彼らはあなたがたに偽りを預言しているのだ。
- 17 彼らに聞き従ってはならない。バビロンの王に仕えて生きよ。どうして、この都が廃墟になってよいであろうか。
- 18 もし彼らが預言者であるなら、もし彼らに主のことばがあるなら、彼らは、主の宮、ユダの王の宮殿、またエルサレムに残されている器がバビロンに持って行かれないよう、万軍の主にとりなしをするはずだ。
- 19 まことに万軍の主は、神殿の柱、『海』、車輪付きの台、また、この都に残されているほかの器について、こう言われる。

- 20 一これらの物は、バビロンの王ネブカドネツアルがユダの王、エホヤキムの子エコンヤ、およびユダとエルサレムのすべてのおもだった人々をエルサレムからバビロンへ引いて行ったときに、奪い取らなかったものである一
- 21 まことに、イスラエルの神、万軍の主は、主の宮とユダの王の宮殿とエルサレムに残された器について、こう言われる。
- 22 『それらはバビロンに運ばれて、わたしがそれを顧みる日まで、そこにある一主のことば一。そしてわたしはそれらを携え上り、この場所に戻す。』」

第28章

- 1 その同じ年、ユダの王ゼデキヤの治世の初め、第四年の第五の月に、ギブオン出身の預言者、アズルの子ハナンヤが、主の宮で、祭司たちと民全体の前で、私に語って言った。
- 2 「イスラエルの神、万軍の主はこう言われる。わたしは、バビロンの王のくびきを砕く。
- 3 二年のうちに、わたしは、バビロンの王ネブカドネツアルがこの場所から奪い取ってバビロンに運んだ主の宮のすべての器をこの場所に戻す。
- 4 バビロンに行ったユダの王、エホヤキムの子エコンヤと、ユダのすべての捕囚の民も、わたしはこの場所に帰らせる一主のことば一。わたしがバビロンの王のくびきを砕くからだ。」
- 5 そこで預言者エレミヤは、主の宮に立っている祭司たちや民全体の前で、預言者ハナンヤに言った。
- 6 預言者エレミヤは言った。「アーメン。そのとおりに主がしてくださるように。あなたが預言したことばを主が成就させ、主の宮の器と、すべての捕囚の民をバビロンからこの場所に戻してくださるように。
- 7 しかし、私があなたの耳と、すべての民の耳に語りとうとするこのことばを聞きなさい。
- 8 昔から、私と、あなたの先に出た預言者たちは、多くの地域と大きな王国について、戦いとわざわいと疫病を預言した。
- 9 平安を預言する預言者については、その預言者のことばが成就して初めて、本当に主が遣わされた預言者だ、と知られるのだ。」
- 10 しかし預言者ハナンヤは、預言者エレミヤの首から例のかせを取り、それを砕いた。
- 11 そしてハナンヤは、民全体の前でこう言った。「主はこう言われる。このとおり、わたしは二年のうちに、バビロンの王ネブカドネツアルのくびきを、すべての国々の首から砕く。」そこで、預言者エレミヤは立ち去った。
- 12 預言者ハナンヤが預言者エレミヤの首からかせを取って砕いた後、エレミヤに次のような主のことばがあった。
- 13 「行って、ハナンヤに次のように言え。『主はこう言われる。あなたは木のかせを砕いたが、その代わりに、鉄のかせを作ることになる。
- 14 まことに、イスラエルの神、万軍の主はこう言われる。わたしは鉄のくびきをこれらすべての国の首にはめて、バビロンの王ネブカドネツアルに仕えさせる。彼らは彼に仕える。野の生き物まで、わたしは彼に与えた。』」
- 15 そこで預言者エレミヤは、預言者ハナンヤに言った。「ハナンヤ、聞きなさい。主はあなたを遣わされていない。あなたはこの民を偽りに拠り頼ませた。

- 16 それゆえ、主はこう言われる。見よ、わたしはあなたを地の面から追い出す。今年、あなたは死ぬ。主への反逆をそそのかしたからだ。」
- 17 預言者ハナンヤは、その年の第七の月に死んだ。

第29章

- 1 預言者エレミヤは、ネブカドネツアルがエルサレムからバビロンへ引いて行った捕囚の民、すなわち、長老で生き残っている者たち、祭司たち、預言者たち、および民全体に、エルサレムから次のような手紙を送った。
- 2 この手紙は、エコンヤ王、王母、宦官たち、ユダとエルサレムの首長たち、職人、鍛冶がエルサレムを去った後、
- 3 ユダの王ゼデキヤが、バビロンの王ネブカドネツアルのもと、バビロンへ遣わした、シャファンの子エルアサとヒルキヤの子ゲマルヤの手に託したもので、そのことばは次のとおりである。
- 4 「イスラエルの神、万軍の主はこう言われる。『エルサレムからバビロンへわたしが引いて行かせたすべての捕囚の民に。
- 5 家を建てて住み、果樹園を造って、その実を食べよ。
- 6 妻を迎えて、息子、娘を生み、あなたがたの息子には妻を迎え、娘を嫁がせて、息子、娘を産ませ、そこで増えよ。減ってはならない。
- 7 わたしがあなたがたを引いて行かせた、その町の平安を求め、その町のために主に祈れ。その町の平安によって、あなたがたは平安を得ることになるのだから。』
- 8 まことに、イスラエルの神、万軍の主はこう言われる。『あなたがたのうちにいる預言者たちや、占い師たちにごまかされるな。また、あなたがたが見ている夢に聞き従ってはならない。
- 9 なぜなら、彼らはわたしの名を使って、偽りをあなたがたに預言しているからだ。わたしは彼らを遣わしていない—主のことば。』
- 10 まことに、主はこう言われる。『バビロンに七十年が満ちるころ、わたしはあなたがたを顧み、あなたがたにいつくしみの約束を果たして、あなたがたをこの場所に帰らせる。
- 11 わたし自身、あなたがたのために立てている計画をよく知っている—主のことば—。それはわざわざではなく平安を与える計画であり、あなたがたに将来と希望を与えるためのものだ。
- 12 あなたがたがわたしに呼びかけ、来て、わたしに祈るなら、わたしはあなたがたに耳を傾ける。
- 13 あなたがたがわたしを捜し求めるとき、心を尽くしてわたしを求めらば、わたしを見つけらる。
- 14 わたしはあなたがたに見出される—主のことば—。わたしは、あなたがたを元どおりにする。あなたがたを追い散らした先のあらゆる国々とあらゆる場所から、あなたがたを集める—主のことば—。わたしはあなたがたを、引いて行った先から元の場所へ帰らせる。』
- 15 あなたがたは、『主はバビロンで、私たちのために預言者を起こされた』と言っていた。
- 16 まことに、主はこう言われる。ダビデの王座に着いている王と、この都に住んでいるすべての人々と、捕囚としてあなたがたとともに出て行かなかったあなたがたの同胞について、
- 17 万軍の主はこう言われる。『見よ。わたしは彼らの中に剣と飢饉と疫病を送り、彼らを悪くて食べられない腐ったいちじくのようにする。』

- 18 わたしは剣と飢饉と疫病で彼らを追い、彼らを地のすべての王国にとっておののきのもととし、わたしが彼らを追い散らした先のすべての国々で、のろいと恐怖のもと、嘲りとそしりの的とする。
- 19 彼らがわたしのことばを聞かなかったからだ—主のことば—。わたしは彼らに、わたしのしもべである預言者たちを早くからたびたび遣わしたのに、あなたがたは聞かなかったのだ—主のことば。』
- 20 私がエルサレムからバビロンへ送ったすべての捕囚の民よ、主のことばを聞け。
- 21 『イスラエルの神、万軍の主は、わたしの名によってあなたがたに偽りを預言している、コラヤの子アハブと、マアセヤの子ゼデキヤについてこう言う。見よ。わたしはこの者たちを、バビロンの王ネブカドネツアルの手に渡す。王は、あなたがたの目の前で二人を打ち殺す。
- 22 バビロンにいるユダの捕囚の民はみな、彼らのゆえに、次のようなのろいのことばを唱える。主がおまえを、バビロンの王が火で焼いたゼデキヤとアハブのようにされるように。
- 23 それは、二人がイスラエルの中で恥辱となることを行い、隣人の妻たちと姦淫し、わたしが命じもしなかった偽りのことばをわたしの名によって語ったからだ。わたしはそれを知っており、その証人である—主のことば。』
- 24 「あなたはネヘラム人シェマヤに対して、次のように言わなければならない。
- 25 イスラエルの神、万軍の主は言われる。あなたは、あなたの名によって、エルサレムにいる民全体と、マアセヤの子祭司ゼパニヤ、および、すべての祭司に次のような手紙を送った。
- 26 『主は、祭司エホヤダの代わりに、あなたを祭司とされましたが、それは、あなたを主の宮の監督者に任じて、すべて気がふれて預言をする者に対処し、そういう者に足かせや首かせをはめるためでした。
- 27 それなのに、なぜ、今あなたは、あなたがたに預言しているアナトテ人エレミヤを責めないのですか。
- 28 というのは、彼はバビロンの私たちのところに使いをよこして、捕囚は長く続くので、家を建てて住み、園を造ってその実を食べよ、と言ったからです。』
- 29 この手紙を、祭司ゼパニヤは預言者エレミヤに読んで聞かせたのだった。
- 30 そのとき、次のような主のことばがエレミヤにあった。
- 31 「すべての捕囚の民に言い送れ。『主はネヘラム人シェマヤについてこう言われる。わたしはシェマヤを遣わさなかったのに、シェマヤはあなたがたに預言し、あなたがたを偽りに拠り頼ませた。
- 32 それゆえ—主はこう言われる—見よ。わたしはネヘラム人シェマヤとその子孫を罰する。彼に属する者で、この民の中に住んで、わたしがわたしの民に行おうとしている良いことを見る者は、だれもいない—主のことば—。彼が主への反逆をそそのかしたからである。』」

第30章

- 1 主からエレミヤにあったことばは、次のとおりである。
- 2 イスラエルの神、主はこう言われる。「わたしがあなたに語ったことばをみな、書物に書き記せ。
- 3 見よ、その時代が来る—主のことば—。そのとき、わたしはわたしの民イスラエルとユダを回復させる—主は言われる—。わたしは彼らを、その父祖に与えた地に帰らせる。彼らはそ

れを所有する。」

- 4 主がイスラエルとユダについて語られたことばは次のとおりである。
- 5 まことに主はこう言われる。「恐れてわななく声を、われわれは聞いた。『恐怖だ。平安がない』と。
- 6 さあ、男に子が産めるか、尋ねてみよ。なぜ、わたしは勇士がみな産婦のように腰に手を当てているのを見るのか。また、どの顔も青ざめているのを。
- 7 わざわいだ。実にその日は大いなる日、比べようもない日。それはヤコブには苦難の時。だが、彼はそこから救われる。
- 8 その日になると一万軍の主のことば— わたしはあなたの首のくびきを砕き、あなたのかせを解く。他国人が再び彼を奴隷にすることはない。
- 9 彼らは彼らの神、主と、わたしが彼らのために立てる 彼らの王ダビデに仕える。
- 10 わたしのしもべヤコブよ、恐れるな。—主のことば— イスラエルよ、おののくな。見よ。わたしが、あなたを遠くから、あなたの子孫を捕囚の地から救うからだ。ヤコブは帰って来て、平穩に安らかに生き、脅かす者はだれもない。
- 11 わたしがあなたとともにいて、—主のことば— あなたを救うからだ。わたしが、あなたを追いやった先のすべての国々を滅ぼし尽くすからだ。しかし、あなたを滅ぼし尽くすことはない。ただし、さばきによってあなたを懲らしめる。決してあなたを罰せずにおくことはない。」
- 12 まことに主はこう言われる。「あなたの傷は癒やされがたく、あなたの打ち傷は痛んでいる。
- 13 あなたの訴えを擁護する者もなく、腫れものに薬を付けて、あなたを癒やす者もない。
- 14 あなたの恋人たちはみな、あなたを忘れ、あなたを尋ねようとしめない。わたしが、敵を打つようにあなたを打ち、容赦なくあなたを懲らしめたからだ。あなたの咎が大きく、あなたの罪が重いために。
- 15 なぜ、あなたは自分の傷のために叫ぶのか。あなたの痛みは癒やされがたい。あなたの咎が大きく、あなたの罪が重いために、わたしはこれらのことを、あなたにしたのだ。
- 16 それゆえ、わたしは言う。あなたを食う者はみな、かえって食われ、あなたの敵はみな、捕らわれの身となって行き、あなたから略奪した者は、略奪され、あなたをかすめ奪った者は、わたしがみな獲物として与える。
- 17 まことに、わたしはあなたの傷を治し、あなたの打ち傷を癒やす。—主のことば— まことに、あなたは『捨てられた女』、『尋ねる者のないシオン』と呼ばれた。
- 18 —主はこう言われる— 見よ。わたしはヤコブの天幕を回復させ、その住まいをあわれむ。都はその丘の上に建て直され、宮殿はその定められている場所に建つ。
- 19 彼らから、感謝の歌と、喜び笑う声が湧き上がる。わたしは人を増やして、減らすことはない。わたしが尊く扱うので、彼らは小さな者ではなくなる。
- 20 その子たちは昔のようになり、その会衆はわたしの前で堅く立てられる。わたしはこれを圧迫する者をみな罰する。
- 21 その権力者は彼らのうちの一人、その支配者はその中から出る。わたしは彼を近づけ、彼はわたしに近づく。いのちをかけてわたしに近づく者は、いったいだれか。—主のことば—
- 22 あなたがたはわたしの民となり、わたしはあなたがたの神となる。」

- 23 見よ。主のつむじ風が 憤りとなって出て行く。渦巻く暴風が 悪者の頭上に荒れ狂う。
- 24 主の燃える怒りは、去ることはない。主が心の思うところを行って、成し遂げるまでは。終わりの日に、あなたがたはそれを悟る。

第31章

- 1 「そのとき—主のことば—わたしはイスラエルのすべての部族の神となり、彼らはわたしの民となる。」
- 2 主はこう言われる。「剣を免れて生き残った民は 荒野で恵みを見出す。イスラエルよ、出て行って休みを得よ。」
- 3 主は遠くから私に現れた。「永遠の愛をもって、わたしはあなたを愛した。それゆえ、わたしはあなたに 真実の愛を尽くし続けた。
- 4 おとめイスラエルよ。再びわたしはあなたを建て直し、あなたは建て直される。再びあなたはタンバリンで身を飾り、喜び踊る者たちの輪に入る。
- 5 再びあなたはサマリアの山々に ぶどう畑を作り、植える者たちは植え、その初物を味わう。
- 6 エフライムの山で、見張る者たちが『さあ、シオンに、私たちの神、主のもとに行こう』と呼びかける日が来るからだ。」
- 7 まことに、主はこう言われる。「ヤコブのために喜び歌え。国々のかしらに向かって叫べ。告げ知らせよ、賛美して言え。『主よ、あなたの民を救ってください。イスラエルの残りの者を。』
- 8 見よ。わたしは彼らを北の国から連れ出し、地の果てから彼らを集める。その中には、目の見えない者も足の萎えた者も、身ごもった女も臨月を迎えた女も、ともにいる。彼らは大集団をなして、ここに帰る。
- 9 彼らは泣きながらやって来る。わたしは彼らを、慰めながら連れ戻す。わたしは彼らを、水の流れのほとりに、つまづくことのない平らな道に導く。まことに、わたしはイスラエルには父であり、エフライムはわたしの長子である。」
- 10 諸国の民よ、主のことばを聞け。遠くの島々に告げ知らせよ。「イスラエルを散らした方がこれを集め、牧者が群れを飼うように、これを守られる」と。
- 11 主はヤコブを贖い、ヤコブより強い者の手から、これを買い戻されたからだ。
- 12 彼らは来て、シオンの丘で喜び歌い、主が与える良きものに、穀物、新しいぶどう酒、オリーブ油、羊の子、牛の子に喜び輝く。彼らのたましいは潤った園のようになり、もう再び、しばむことはない。
- 13 そのとき、若い女は踊って楽しみ、若い男も年寄りも、ともに楽しむ。「わたしは彼らの悲しみを喜びに変え、彼らの憂いを慰め、楽しませる。
- 14 祭司のたましいを髓で潤す。わたしの民は、わたしの恵みに満ち足りる。—主のことば。—
- 15 主はこう言われる。「ラマで声が聞こえる。嘆きとむせび泣きが。ラケルが泣いている。その子らのゆえに。慰めを拒んでいる。その子らのゆえに。子らがもういないからだ。」
- 16 主はこう言われる。「あなたの泣く声、あなたの目の涙を止めよ。あなたの労苦には報いがあるからだ。—主のことば— 彼らは敵の地から帰って来る。
- 17 あなたの将来には望みがある。—主のことば— あなたの子らは自分の土地に帰って来る。

- 18 わたしは、エフライムが悲しみ嘆くのを 確かに聞いた。『あなたが私を懲らしめて、私は、くびきに慣れない子牛のように 懲らしめを受けました。私を帰らせてください。そうすれば、帰ります。主よ、あなたは私の神だからです。
- 19 私は立ち去った後で悔い、悟った後で、ももを打ちました。恥を見て、辱めさえ受けました。若いころの恥辱を 私は負っているのです』と。
- 20 エフライムは、わたしの大切な子、喜びの子なのか。わたしは彼を責めるたびに、ますます彼のことを思い起こすようになる。それゆえ、わたしのはらわたは 彼のためにわななき、わたしは彼をあわれまずにはいられない。—主のことば—
- 21 あなたは自分のために標識を立てて 道しるべを置き、あなたが歩んだ道の大路に心を留めよ。おとめイスラエルよ、帰れ。これらの、あなたの町に帰れ。
- 22 背信の娘よ、いつまで迷い歩くのか。主はこの地に、一つの新しいことを創造される。女の優しさが一人の勇士を包む。」
- 23 イスラエルの神、万軍の主はこう言われる。「わたしが彼らを元どおりにするとき、彼らは再び次のことばを、ユダの地とその町々で語る。『義の住まい、聖なる山よ、主があなたを祝福されるように。』
- 24 ユダとそのすべての町の者はそこに住み、農夫たちも、群れを連れて回る者たちも一緒に住む。
- 25 わたしが疲れたたましいを潤し、すべてのしぼんだたましいを満ち足らせるからだ。」
- 26 ここで、私は目覚めて、見回した。私の眠りは心地よかった。
- 27 「見よ、その時代が来る—主のことば—。そのとき、わたしはイスラエルの家とユダの家に、人の種と家畜の種を蒔く。
- 28 かつてわたしが、引き抜き、打ち倒し、打ち壊し、滅ぼし、わざわざを下そうと彼らを見張っていたように、今度は、彼らを建て直し、また植えるために見張る—主のことば—。
- 29 その日には、彼らはもはや、『父が酸いぶどうを食べると、子どもの歯が浮く』とは言わない。
- 30 人はそれぞれ自分の咎のゆえに死ぬ。だれでも、酸いぶどうを食べる者は歯が浮くのだ。
- 31 見よ、その時代が来る—主のことば—。そのとき、わたしはイスラエルの家およびユダの家と、新しい契約を結ぶ。
- 32 その契約は、わたしが彼らの先祖の手を取って、エジプトの地から導き出した日に、彼らと結んだ契約のようではない。わたしは彼らの主であったのに、彼らはわたしの契約を破った—主のことば—。
- 33 これらの日の後に、わたしがイスラエルの家と結ぶ契約はこうである—主のことば—。わたしは、わたしの律法を彼らのただ中に置き、彼らの心にこれを書き記す。わたしは彼らの神となり、彼らはわたしの民となる。
- 34 彼らはもはや、それぞれ隣人に、あるいはそれぞれ兄弟に、『主を知れ』と言って教えることはない。彼らがみな、身分の低い者から高い者まで、わたしを知るようになるからだ—主のことば—。わたしが彼らの不義を赦し、もはや彼らの罪を思い起こさないからだ。」
- 35 主はこう言われる。太陽を与えて昼間の光とし、月と星を定めて夜の光とし、海をかき立てて波を騒がせる方、その名が万軍の主である方が。

- 36 「もしも、これらの掟がわたしの前から 去ることがあるなら—主のことば— イスラエルの子孫は絶えて、わたしの前にいつまでも 一つの民であることはできない。」
- 37 主はこう言われる。「もしも、上の天が測られ、下の地の基が探り出されることがあるなら、わたしも、イスラエルのすべての子孫を、彼らの行ったすべてのことのゆえに退ける。—主のことば。」
- 38 「見よ、その時代が来る—主のことば—。そのとき、この都はハナンエルのやぐらから隅の門まで、主のために建て直される。
- 39 測り縄は、さらにそれからガレブの丘に伸び、ゴアの方に向かう。
- 40 死体と灰の谷の全体と、東の方ではキデロンの谷と馬の門の隅までの畑は、みな主の聖なるものとされ、もはやとこしえに、根こそぎにされず、壊されることはない。」

第32章

- 1 ユダの王ゼデキヤの第十年、ネブカドネツアルの第十八年に、主からエレミヤにあったことば。
- 2 そのとき、バビロンの王の軍勢がエルサレムを包囲中であって、預言者エレミヤは、ユダの王の宮殿にある監視の庭に監禁されていた。
- 3 ユダの王ゼデキヤは、エレミヤを監禁するとき、次のように尋ねたのだった。「なぜ、あなたはこのように預言して言うのか。『主はこう言われる。見よ。わたしはこの都をバビロンの王の手に渡す。そして彼はこれを攻め取る。
- 4 ユダの王ゼデキヤは、カルデア人の手から逃れることはできない。ゼデキヤは必ずバビロンの王の手に渡され、口と口で彼と語り、目と目で彼を見る。
- 5 彼はゼデキヤをバビロンへ連れて行く。そしてゼデキヤは、わたしが彼を顧みるときまでそこにいる—主のことば—。あなたがたはカルデア人と戦っても、勝つことはできない。』」
- 6 エレミヤは言った。「私に、このような主のことばがあった。
- 7 『見よ。あなたのおじシャルムの子ハナムエルが、あなたのところに来て、「アナトテにある畑を買ってくれ。あなたには買い戻す権利があるのだから」と言う。』
- 8 すると、主のことばのとおり、おじの子ハナムエルが私のところ、監視の庭に来て、私に言った。『どうか、ベニヤミンの地のアナトテにある私の畑を買ってください。あなたには所有権もあり、買い戻す権利もありますから、あなたが買い取ってください。』私は、これが主のことばであると知った。
- 9 そこで私は、おじの子ハナムエルから、アナトテにある畑を買い取り、彼に銀十七シェケルを払った。
- 10 私は証書に署名して封印し、証人を立てて、秤で銀を量った。
- 11 そして、命令と規則にしたがって、封印された購入証書と封印のない証書を取り、
- 12 おじの子ハナムエルと、購入証書に署名した証人たちと、監視の庭に座しているすべてのユダの人々の前で、購入証書をマフセヤの子ネリヤの子バルクに渡し、
- 13 彼らの前でバルクに命じた。
- 14 『イスラエルの神、万軍の主はこう言われる。これらの証書、すなわち封印されたこの購入証書と、封印のない証書を取って土の器の中に入れ、これを長い間、保存せよ。

- 15 なぜなら—イスラエルの神、万軍の主はこう言われる—再びこの地で、家や、畑や、ぶどう畑が買われるようになるからだ。』
- 16 私は、購入証書をネリヤの子バルクに渡した後、主に祈った。
- 17 『ああ、神、主よ、ご覧ください。あなたは大いなる力と、伸ばされた御腕をもって天と地を造られました。あなたにとって不可能なことは一つもありません。
- 18 あなたは、恵みを千代にまで施し、父たちの咎をその後の子らの懐に報いる方、大いなる力強い神、その名は万軍の主。
- 19 そのご計画は大きく、みわざには力があります。御目は人の子らのすべての行いに開いていて、それぞれにその生き方にしたがって、行いの結ぶ実にしたがって報いをされます。
- 20 あなたはエジプトの地で、また今日までイスラエルと人々の間で、しるしと不思議を行い、ご自分の名を今日のようにされました。
- 21 あなたはまた、しるしと不思議と、力強い御手と伸ばされた御腕と、大いなる恐れをもって、御民イスラエルをエジプトの地から導き出し、
- 22 あなたが彼らの父祖たちに与えると誓ったこの地、乳と蜜の流れる地を彼らに与えられました。
- 23 彼らはそこに行って、それを所有しましたが、あなたの声に聞き従わず、あなたの律法に歩まず、あなたが彼らにせよと命じたことを何一つ行わなかったため、あなたは彼らを、このすべてのわざわいにあわせられました。
- 24 ご覧ください。この都を攻め取るうとして、壘が築されました。この都は、剣と飢饉と疫病のために、攻めているカルデア人の手に渡されようとしています。あなたのお告げになったことは成就しました。ご覧のとおりです。
- 25 神、主よ。この都がカルデア人の手に渡されようとしているのに、あなたは私に、金を払ってあの畑を買い、証人を立てよ、と言われます。』
- 26 すると次のような主のことばがエレミヤにあった。
- 27 「見よ。わたしはすべての肉なる者の神、主である。わたしにとって不可能なことが一つでもあろうか。
- 28 それゆえ—主はこう言われる—見よ。わたしはこの都を、カルデア人の手と、バビロンの王ネブカドネツアルの手に渡す。彼はこれを攻め取る。
- 29 また、この都を攻めているカルデア人が来て、この都に火をつけて焼く。また、人々が屋上でバアルに犠牲を供え、ほかの神々に注ぎのぶどう酒を注いで、わたしの怒りを引き起こしたその家々にも火をつけて焼く。
- 30 なぜなら、イスラエルの子らとユダの子らは、若いころから、わたしの目に悪であることを行うのみであったからだ。実に、イスラエルの子らは、その手のわざをもってわたしの怒りを引き起こすばかりであった—主のことば—。
- 31 この都は、建てられた日から今日まで、わたしの怒りと憤りを引き起こしてきたので、わたしはこれをわたしの顔の前から取り除く。
- 32 それは、イスラエルの子らとユダの子らが、すなわち、彼ら自身と、その王、首長、祭司、預言者、またユダの人、エルサレムの住民が、わたしの怒りを引き起こすために行った、すべての悪のゆえである。

- 33 彼らはわたしに背を向けて、顔を向けず、わたしがしきりに教えても聞かず、懲らしめを受け入れなかった。
- 34 彼らは、わたしの名がつけられている宮に忌まわしいものを置いて、これを汚し、
- 35 ベン・ヒノムの谷にバアルの高き所を築き、自分の息子、娘たちに火の中を通らせてモレクに渡した。しかしわたしは、この忌み嫌うべきことを行わせてユダを罪に陥らせようなどと、命じたことも、心に思い浮かべたこともない。」
- 36 それゆえ今、イスラエルの神、主は、あなたがたが、「剣と飢饉と疫病により、バビロンの王の手に渡される」と言っているこの都について、こう言われる。
- 37 「見よ。わたしは、かつてわたしが怒りと憤りと激怒をもって彼らを散らしたすべての国々から、彼らを集めてこの場所に帰らせ、安らかに住ませる。
- 38 彼らはわたしの民となり、わたしは彼らの神となる。
- 39 わたしは、彼らと彼らの後の子孫の幸せのために、わたしをいつも恐れるよう、彼らに一つの心と一つの道を与え、
- 40 わたしが彼らから離れず、彼らを幸せにするために、彼らと永遠の契約を結ぶ。わたしは、彼らがわたしから去らないように、わたしへの恐れを彼らの心に与える。
- 41 わたしは彼らをわたしの喜びとし、彼らを幸せにする。わたしは、真実をもって、心と思いを込めて、彼らをこの地に植える。」
- 42 まことに、主はこう言われる。「わたしがこの大きなわざわいのすべてを、この民にもたらしたように、わたしは、今彼らに語っている幸せのすべてを彼らにもたす。
- 43 あなたがたが、『この地は荒れ果てて、人も家畜もいなくなり、カルデア人の手に渡される』と言っているこの地で、再び畑が買われる。
- 44 ベニヤミンの地でも、エルサレムの近郊でも、ユダの町々でも、山地の町々でも、シェフェラの町々でも、ネゲブの町々でも、人々は金で畑を買い、証書に署名して封印し、証人を立てるようになる。わたしが彼らを元どおりにするからである—主のことば。」

第33章

- 1 エレミヤがまだ監視の庭に閉じ込められていたとき、再びエレミヤに次のような主のことばがあった。
- 2 「地を造った主、それを形造って堅く立てた主、その名が主である方が言われる。
- 3 『わたしを呼べ。そうすれば、わたしはあなたに答え、あなたが知らない理解を超えた大いなることを、あなたに告げよう。』
- 4 まことに、イスラエルの神である主は、敵の壘や剣に対抗するために取り壊された、この都の家々と、ユダの王たちの家々について、こう言われる。
- 5 『彼らはカルデア人と戦おうとして出て行くが、わたしの怒りと憤りによって打ち殺された屍をその家々に満たす。それは、彼らのすべての悪のゆえに、わたしがこの都から顔を隠したからだ。
- 6 見よ。わたしはこの都に回復と癒やしを与え、彼らを癒やす。そして彼らに平安と真実を豊かに示す。
- 7 わたしはユダとイスラエルを回復させ、以前のように彼らを建て直す。

- 8 わたしは、彼らがわたしに犯したすべての咎から彼らをきよめ、彼らがわたしに犯し、わたしに背いたすべての咎を赦す。
- 9 この都は、地のすべての国々の間で、わたしにとって喜びの名となり、榮譽となり、栄えとなる。彼らは、わたしがこの民に与えるすべての祝福のことを聞き、わたしがこの都に与えるすべての祝福と平安のゆえに恐れ、震えることになる。』」
- 10 主はこう言われる。「あなたがたが、人も家畜もない廃墟と言うこの場所で、人も住民も家畜もない、荒れすたれたユダの町々とエルサレムの通りで、
- 11 楽しみの声と喜びの声、花婿の声と花嫁の声、主の宮に感謝のいけにえを携えて来る人たちの声が、再び聞かれるようになる。彼らは言う。『万軍の主に感謝せよ。主はまことにいつくしみ深い。その恵みはとこしえまで』と。わたしがこの地を回復させ、以前のようにするからだ—主は言われる。』
- 12 万軍の主はこう言われる。「人も家畜もない廃墟であるこの場所と、そのすべての町に、群れを伏させる羊飼いたちの住まいが再びできる。
- 13 山地の町々でも、シェフェラの町々、ネゲブの町々、ベニヤミンの地、エルサレムの近郊、ユダの町々でも、群れが再び、数を数える者の手の下を通り過ぎる—主は言われる。』
- 14 「見よ、その時代が来る—主のことば—。そのとき、わたしはイスラエルの家とユダの家に語ったいつくしみの約束を果たす。
- 15 その日、その時、わたしはダビデのために義の若枝を芽生えさせる。彼はこの地に公正と義を行う。
- 16 その日、ユダは救われ、エルサレムは安らかに住み、こうしてこの都は『主は私たちの義』と名づけられる。』
- 17 まことに主はこう言われる。「ダビデには、イスラエルを王座に就く者が断たれることはない。
- 18 また、レビ人の祭司たちには、わたしの前で全焼のささげ物を献げ、穀物のささげ物を焼いて煙にし、いけにえを献げる者が、いつまでも絶えることはない。』
- 19 エレミヤに次のような主のことばがあった。
- 20 主はこう言われる。「もしもあなたがたが、昼と結んだわたしの契約と、夜と結んだわたしの契約を破ることができ、昼と夜が、定まった時に来ないようにすることができるのであれば、
- 21 わたしのしもべダビデと結んだわたしの契約も破られ、ダビデにはその王座に就く子がいなくなり、わたしに仕えるレビ人の祭司たちと結んだわたしの契約も破られる。
- 22 天の万象は数えきれず、海の砂は量れない。そのようにわたしは、わたしのしもべダビデの子孫と、わたしに仕えるレビ人を増やす。』
- 23 エレミヤに次のような主のことばがあった。
- 24 「あなたはこの民が、『主は自分で選んだ二つの部族を退けた』と話しているのを知らないのか。彼らはわたしの民を侮っている。『自分たちの目には、もはや一つの国民ではないのだ』と。』
- 25 主はこう言われる。「もしも、わたしが昼と夜と契約を結ばず、天と地の諸法則をわたしが定めなかったのであれば、
- 26 わたしは、ヤコブの子孫とわたしのしもべダビデの子孫を退け、その子孫の中から、アブラハム、イサク、ヤコブの子孫を治める者を選ぶということはない。しかし、わたしは彼らを回復

させ、彼らをあわれむ。」

第34章

- 1 バビロンの王ネブカドネツアルとその全軍勢、および彼の支配下にある地のすべての王国とすべての民族が、エルサレムとそのすべての町を攻めていたとき、主からエレミヤに次のようなことばがあった。
- 2 「イスラエルの神、主はこう言う。行って、ユダの王ゼデキヤに告げよ。『主はこう言われる。見よ、わたしはこの都をバビロンの王の手に渡す。彼はこれを火で焼く。
- 3 あなたはその手から逃れることができない。あなたは必ず捕らえられて、彼の手には渡されるからだ。あなたの目はバビロンの王の目を見、彼の口はあなたの口と語り、あなたはバビロンへ行く。
- 4 ただ、主のことばを聞け、ユダの王ゼデキヤよ。主はあなたについてこう言われる。あなたは剣で死ぬことはない。
- 5 あなたは平安のうちに死ぬ。人々は、あなたの先祖たち、あなたの先にいた王たちのために埋葬の香をたいたように、あなたのためにも香をたき、ああ主君よ、と言ってあなたを悼む。このことを語るのはわたしだ—主のことば。』」
- 6 そこで預言者エレミヤは、ユダの王ゼデキヤに、エルサレムでこれらすべてのことばを語った。
- 7 そのとき、バビロンの王の軍勢は、エルサレムとユダの残されたすべての町、ラキシユとアゼカを攻めていた。これらが、ユダの町々で城壁のある町として残っていたからである。
- 8 ゼデキヤ王がエルサレムにいる民全体と契約を結んで、彼らに奴隷の解放を宣言した後、主からエレミヤにあったことば。
- 9 その契約は、各自が、ヘブル人である自分の奴隷や女奴隷を自由の身にし、同胞のユダヤ人を奴隷にしないというものであった。
- 10 契約に加わったすべての首長と民は、各自、自分の奴隷や女奴隷を自由の身にして、二度と彼らを奴隷にしないことに同意し、同意してから奴隷を去らせた。
- 11 しかしその後で、彼らは心を翻した。そして、いったん自由の身にした奴隷や女奴隷を連れ戻し、強制的に彼らを奴隷や女奴隷の身分に服させた。
- 12 すると、主からエレミヤに次のような主のことばがあった。
- 13 「イスラエルの神、主はこう言われる。『わたしが、あなたがたの先祖をエジプトの地、奴隷の家から導き出した日に、わたしは彼らと契約を結んで言った。
- 14 「七年の終わりには、各自、自分のところに売られて来た同胞のヘブル人を去らせなければならない。六年の間あなたに仕えさせ、その後あなたは彼を自由の身にせよ」と。しかし、あなたがたの先祖は、わたしに聞かず、耳を傾けもしなかった。
- 15 ところが、あなたがたは今日、立ち返って、各自が隣人の解放を告げてわたしの目にかなうことを行い、わたしの名がつけられているこの家で、わたしの前に契約を結んだ。
- 16 それなのに、あなたがたは心を翻して、わたしの名を汚した。あなたがたは、それぞれ、いったん彼らの望むとおり自由の身にした奴隷や女奴隷を連れ戻し、強制的に彼らをあなたがたの奴隷や女奴隷の身分に服させた。』

- 17 それゆえ、主はこう言われる。『あなたがたはわたしに聞き従わず、各自、自分の同胞や隣人に解放を告げなかったので、見よ、わたしはあなたがたに一主のことば一剣と疫病と飢饉の解放を宣言する。わたしは、あなたがたを地のすべての王国にとって、おののきのもとにする。
- 18 また、わたしの前で結んだ契約のことばを守らず、わたしの契約を破った者たちを、彼らが二つに断ち切ってその二つの間を通った、あの子牛のようにする。
- 19 ユダの首長たち、エルサレムの首長たち、宦官と祭司と民衆すべてが、二つに分けた子牛の間を通った者たちである。
- 20 わたしは彼らを、敵の手、いのちを狙う者たちの手に渡す。その屍は空の鳥や地の獣の餌食となる。
- 21 また、わたしはユダの王ゼデキヤとその高官たちを、敵の手、いのちを狙う者たちの手、あなたがたのところから引き揚げたバビロンの王の軍勢の手に渡す。
- 22 見よ。わたしは命じて一主のことば一彼らをこの都に引き返させる。彼らはこの都を攻め取り、火で焼く。わたしはユダの町々を、住む者もない荒れ果てた地とする。』」

第35章

- 1 ユダの王、ヨシヤの子エホヤキムの時代に、主からエレミヤに次のようなことばがあった。
- 2 「レカブ人の家に行って彼らに語り、主の宮の一室に連れて来て、彼らに酒を飲ませよ。」
- 3 そこで私は、ハバツィンヤの子エレミヤの子であるヤアザンヤと、その兄弟とすべての息子たち、レカブ人の全家を率いて、
- 4 主の宮にある、イグダルヤの子、神の人ハナンの子らの部屋に連れて来た。それは首長たちの部屋の隣にあり、入り口を守る者、シャルムの子マアセヤの部屋の上であった。
- 5 私は、レカブ人の家の子らの前に、ぶどう酒を満たした壺と杯を出して、「酒を飲みなさい」と言った。
- 6 すると彼らは言った。「私たちはぶどう酒を飲みません。というのは、私たちの先祖レカブの子ヨナダブが私たちに命じて、『あなたがたも、あなたがたの子らも、永久にぶどう酒を飲んではならない。
- 7 あなたがたは家を建てたり、種を蒔いたり、ぶどう畑を作ったり、また所有したりしてはならない。あなたがたが寄留している地の面に末長く生きるために、一生、天幕に住め』と行ったからです。
- 8 私たちは、私たちの先祖レカブの子ヨナダブが私たちに命じたすべての命令に聞き従ってきました。私たちも、妻も、息子、娘たちも、一生ぶどう酒を飲まず、
- 9 住む家も建てず、ぶどう畑も、畑も、種も持たず、
- 10 天幕に住んできました。私たちは、すべて先祖ヨナダブが私たちに命じたとおりに、従い行ってきました。
- 11 しかし、バビロンの王ネブカドネツアルがこの地に攻め上ったとき、私たちは『さあ、カルデアの軍勢とアラムの軍勢を避けてエルサレムに行こう』と言って、エルサレムに住んだのです。」
- 12 すると、エレミヤに次のような主のことばがあった。

- 13 「イスラエルの神、万軍の主はこう言う。行って、ユダの人とエルサレムの住民に言え。『あなたがたは訓戒を受け入れて、わたしのことばに聞き従おうとしないのか—主のことば—。』
- 14 レカブの子ヨナダブが、酒を飲むなど子らに命じた命令は守られた。彼らは先祖の命令に聞き従ったので、今日まで飲んでいない。ところが、わたしがあなたがたにたびたび語っても、あなたがたはわたしに聞き従わなかった。
- 15 わたしはあなたがたに、わたしのしもべであるすべての預言者たちを早くからたびたび遣わして、さあ、それぞれ悪の道から立ち返り、行いを改めよ、ほかの神々を慕ってそれに仕えてはならない、わたしがあなたがたと先祖たちに与えた土地に住め、と言った。それなのに、あなたがたは耳を傾けず、わたしに聞かなかった。
- 16 実に、レカブの子ヨナダブの子らは、先祖が命じた命令を守ってきたが、この民はわたしに聞かなかった。
- 17 それゆえ—イスラエルの神、万軍の神、主はこう言われる—見よ。わたしはユダと、エルサレムの全住民に、わたしが彼らについて語ったすべてのわざわいを下す。わたしが彼らに語ったのに、彼らは聞かず、わたしが彼らに呼びかけたのに、彼らは答えなかったからだ。』」
- 18 エレミヤはレカブ人の家の者に言った。「イスラエルの神、万軍の主はこう言われる。『あなたがたは、先祖ヨナダブの命令に聞き従い、そのすべての命令を守り、すべて彼があなたがたに命じたとおりに行った。』」
- 19 それゆえ—イスラエルの神、万軍の主はこう言われる—レカブの子ヨナダブには、わたしの前に立つ人がいつまでも絶えることはない。』」

第36章

- 1 ユダの王、ヨシヤの子エホヤキムの第四年に、主からエレミヤに次のようなことばがあった。
- 2 「あなたは巻物を取り、わたしがあなたに語った日、すなわちヨシヤの時代から今日まで、わたしがイスラエルとユダとすべての国々について、あなたに語ったことばをみな、それに書き記せ。
- 3 ユダの家は、わたしが彼らに下そうと思っているすべてのわざわいを聞いて、それぞれ悪の道から立ち返るかもしれない。そうすれば、わたしも、彼らの咎と罪を赦すことができる。」
- 4 それでエレミヤは、ネリヤの子バルクを呼んだ。バルクはエレミヤの口述にしたがって、彼に語られた主のことばを、ことごとく巻物に書き記した。
- 5 エレミヤはバルクに命じた。「私は閉じ込められていて、主の宮に行けない。
- 6 だから、あなたが行って、あなたが私の口述によって巻物に書き記した主のことばを、断食の日に主の宮で民の耳に読み聞かせよ。また、町々から来るユダ全体の耳にもそれを読み聞かせよ。
- 7 そうすれば、主の前で彼らの嘆願が受け入れられ、それぞれ悪の道から立ち返るかもしれない。主がこの民に語られた怒りと憤りは大きいからだ。」
- 8 そこでネリヤの子バルクは、すべて預言者エレミヤが命じたとおりに、主の宮で主のことばの書物を読んだ。
- 9 ユダの王、ヨシヤの子エホヤキムの第五年、第九の月、エルサレムのすべての民と、ユダの町々からエルサレムに来ているすべての民に、主の前での断食が布告された。

- 10 そのときバルクは、主の宮で民全体に聞こえるように、その書物からエレミヤのことばを読んだ。そこは、主の宮の、新しい門の入り口付近の上庭にあった、書記シャファンの子ゲマルヤの部屋であった。
- 11 シャファンの子ゲマルヤの子ミカヤは、その書物にあるすべての主のことばを聞き、
- 12 王宮にある書記の部屋に下ったが、見よ、そこには、すべての首長たちが座っていた。すなわち書記エリシャマ、シェマヤの子デラヤ、アクボルの子エルナタン、シャファンの子ゲマルヤ、ハナンヤの子ゼデキヤ、およびすべての首長たちである。
- 13 ミカヤは、バルクがあの手紙を民に読んで聞かせたときに聞いた、すべてのことばを彼らに告げた。
- 14 すべての首長たちは、クシの子シェレムヤの子ネタンヤの子ユディをバルクのもとに遣わして言った。「あなたが民に読んで聞かせたあの手紙、あれを手に持って来なさい。」そこで、ネリヤの子バルクは、手紙を手に持って彼らのところに入って来た。
- 15 彼らはバルクに言った。「さあ、座って、私たちにそれを読んで聞かせてくれ。」そこで、バルクは彼らに読んで聞かせた。
- 16 そのすべてのことばを聞いたとき、彼らはみな互いに恐れおののき、バルクに言った。「私たちは、これらのことばをすべて、必ず王に告げなければならない。」
- 17 彼らはバルクに尋ねて言った。「さあ、あなたがこれらのことばをすべて、どのようにして書き留めたのか、私たちに教えてくれ。エレミヤが口述したことばを。」
- 18 バルクは彼らに言った。「エレミヤがこれらのことばをすべて私に口述し、私は墨でこの書物に記しました。」
- 19 すると首長たちはバルクに言った。「行って、あなたもエレミヤも身を隠しなさい。あなたがどこにいるか、だれにも知られないようにしなさい。」
- 20 彼らは手紙を書きエリシャマの部屋に置き、王宮の庭にいる王のところに行って、このすべてのことを報告した。
- 21 王はユディに、その手紙を取りに行かせたので、彼はそれを書記エリシャマの部屋から取って来た。ユディはそれを、王と王の傍らに立つすべての首長たちに読んで聞かせた。
- 22 第九の月であったので、王は冬の家の座に着いていた。彼の前には暖炉の火が燃えていた。
- 23 ユディが三、四段を読むごとに、王は書記の小刀でそれを裂いては暖炉の火に投げ入れ、ついに、手紙をすべて暖炉の火で焼き尽くした。
- 24 これらすべてのことばを聞いた王も、彼のすべての家来たちも、だれ一人恐れおののくことはなく、衣を引き裂くこともしなかった。
- 25 エルナタンとデラヤとゲマルヤが、手紙を焼かないようにと王に懇願しても、王は聞き入れなかった。
- 26 王は、王子エラフメエルと、アズリエルの子セラヤと、アブデエルの子シェレムヤに、書記バルクと預言者エレミヤを捕らえるように命じた。しかし、主は二人を隠された。
- 27 王が、あの手紙、バルクがエレミヤの口述で書き記したことばを焼いた後、エレミヤに次のような主のことばがあった。
- 28 「あなたは再びもう一つの手紙を取り、ユダの王エホヤキムが焼いた最初の手紙にあった最初のことばを、残らずそれに書き記せ。

- 29 ユダの王エホヤキムについてはこう言え。主はこう言われる。あなたはこの巻物を焼いて言った。『あなたはなぜ、バビロンの王は必ず来てこの地を滅ぼし、ここから人も家畜も絶えさせる、と書いたのか』と。
- 30 それゆえ、主はユダの王エホヤキムについてこう言われる。エホヤキムには、ダビデの王座に就く者がいなくなり、彼の屍は捨てられて、昼は暑さに、夜は寒さにさらされる。
- 31 わたしは、彼とその子孫、その家来たちを、彼らの咎のゆえに罰し、彼らとエルサレムの住民とユダの人々に対して、わたしが告げたが彼らが聞かなかった、あのすべてのわざわいをもたらす。」
- 32 エレミヤは、もう一つの巻物を取り、それをネリヤの子、書記バルクに与えた。彼はエレミヤの口述により、ユダの王エホヤキムが火で焼いたあの書物のことばを残らず書き記した。さらに同じような多くのことばもそれに書き加えた。

第37章

- 1 ヨシヤの子ゼデキヤは、エホヤキムの子エコンヤに代わって王となった。バビロンの王ネブカドネツアルが彼をユダの地の王にしたのである。
- 2 彼も、その家来たちも、民衆も、預言者エレミヤによって語られた主のことばに聞き従わなかった。
- 3 ゼデキヤ王は、シェレムヤの子ユカルと、マアセヤの子、祭司ゼパニヤを預言者エレミヤのもとに遣わして言った。「どうか、私たちのために、私たちの神、主に祈ってください。」
- 4 エレミヤは民のうちに入り出して、まだ獄屋に入れられてはいなかった。
- 5 また、ちょうど、ファラオの軍勢がエジプトから出て来たので、エルサレムを包囲中のカルデア人は、そのうわさを聞いて、エルサレムから引き揚げたときであった。
- 6 そのとき、預言者エレミヤに次のような主のことばがあった。
- 7 「イスラエルの神、主はこう言われる。わたしに尋ねるために、あなたがたをわたしのもとに遣わしたユダの王にこう言え。『見よ。あなたがたを助けに出て来たファラオの軍勢は、彼らの地エジプトへ帰り、
- 8 カルデア人が引き返して来て、この都を攻め取り、これを火で焼く。
- 9 主はこう言われる。あなたがたは、カルデア人は必ず私たちのところから去る、と言って、自らを欺くな。彼らが去ることはないからだ。
- 10 たとえ、あなたがたが、あなたがたを攻めるカルデアの全軍勢を討ち、そのうちに重傷を負った兵士たちだけが残ったとしても、彼らはそれぞれ、その天幕で立ち上がり、この都を火で焼くようになる。』」
- 11 カルデアの軍勢がファラオの軍勢のゆえにエルサレムから引き揚げたとき、
- 12 エレミヤは、エルサレムから出て行き、ベニヤミンの地に行った。民の間で割り当ての地を受け取るためであった。
- 13 彼がベニヤミンの門に来たとき、そこにハナンヤの子シェレムヤの子の、イルイヤという名の当直の者がいて、「あなたはカルデア人のところへ落ちのびるのか」と言い、預言者エレミヤを捕らえた。
- 14 エレミヤは、「違う。私はカルデア人のところに落ちのびるのではない」と言ったが、イルイヤは聞かず、エレミヤを捕らえて、首長たちのところに連れて行った。

- 15 首長たちはエレミヤに向かって激しく怒り、彼を打ちたたき、こうして書記ヨナタンの家の牢屋に入れた。そこが獄屋になっていたからである。
- 16 エレミヤは丸天井の地下牢に入れられ、長い間そこにいた。
- 17 ゼデキヤ王は人を遣わして、彼を召し寄せた。王は自分の家で彼にひそかに尋ねて言った。「主から、おことばはあったか。」エレミヤは「ありました」と言った。そして「あなたはバビロンの王の手に渡されます」と言った。
- 18 エレミヤはゼデキヤ王に言った。「あなたや、あなたの家来たちや、この民に対して、私にどんな罪があったというので、私を獄屋に入れたのですか。」
- 19 あなたがたに対して『バビロンの王は、あなたがたとこの地を攻めに来ない』と言って預言していた、あなたがたの預言者たちは、どこにいますか。
- 20 今、わが主君、王よ、どうか聞いてください。どうか、私の願いを御前に受け入れ、私を書記ヨナタンの家へ帰らせないでください。私がそこで死ぬことがないようにしてください。」
- 21 ゼデキヤ王は命じて、エレミヤを監視の庭に入れさせ、都からすべてのパンが絶えるまで、パン屋街から毎日パン一つを彼に与えさせた。こうして、エレミヤは監視の庭にとどまっていた。

第38章

- 1 さて、マタンの子シェファテヤと、パシュフルの子ゲダルヤと、シェレムヤの子ユカルと、マルキヤの子パシュフルは、エレミヤが民全体に次のように語ることばを聞いた。
- 2 「主はこう言われる。『この都にとどまる者は、剣と飢饉と疫病で死ぬが、カルデア人のところに出て行く者は生きる。そのいのちは戦勝品として彼のものになり、彼は生きる。』」
- 3 主はこう言われる。『この都は、必ず、バビロンの王の軍勢の手に渡される。彼はこれを攻め取る。』」
- 4 そこで、首長たちは王に言った。「どうか、あの男を死刑にしてください。彼はこのように、こんなことばを皆に語り、この都に残っている戦士や民全体の士気をくじいているからです。実にあの男は、この民のために、平安ではなくわざわいを求めているのです。」
- 5 するとゼデキヤ王は言った。「見よ、彼はあなたがたの手の中にある。王は、あなたがたに逆らっては何もできない。」
- 6 そこで彼らはエレミヤを捕らえ、監視の庭にある王子マルキヤの穴に投げ込んだ。彼らはエレミヤを綱で降ろしたが、穴の中には水がなく、あるのは泥だったので、エレミヤは泥の中に沈んだ。
- 7 王宮にいたクシュ人の宦官エベデ・メレクは、エレミヤが穴に入れられたことを聞いた。また、そのとき王はベニヤミンの門のところに座っていたので、
- 8 エベデ・メレクは王宮から出て行き、王に告げた。
- 9 「わが主君、王よ。あの人が預言者エレミヤにしたことは、みな悪いことばかりです。彼らはあの人を穴に投げ込みました。もう都にパンはありませんので、あの方はそこで飢え死にするでしょう。」
- 10 すると王は、クシュ人エベデ・メレクに命じた。「あなたはここから三十人を連れて行き、預言者エレミヤを、まだ死なないうちに、その穴から引き上げなさい。」

- 11 エベデ・メレクは人々を率いて、王宮の宝物倉の下に行き、そこから着古した衣服やぼろ切れを取り、それらを綱で穴の中のエレミヤのところに降ろした。
- 12 クシュ人エベデ・メレクはエレミヤに、「さあ、古着やぼろ切れをあなたの脇の下の綱に当てなさい」と言ったので、エレミヤがそのとおりにすると、
- 13 彼らはエレミヤを綱で穴から引き上げた。こうして、エレミヤは監視の庭にとどまった。
- 14 ゼデキヤ王は人を送って、預言者エレミヤを自分のところ、主の宮の第三の入り口に召し寄せた。王がエレミヤに、「私はあなたに一言尋ねる。私に何も隠してはならない」と言うと、
- 15 エレミヤはゼデキヤに言った。「もし私があるに告げれば、あなたは必ず私を殺すのではありませんか。私があるに忠告しても、あなたは私の言うことを聞かないでしょう。」
- 16 そこでゼデキヤ王は、ひそかにエレミヤに誓った。「私たちの、このいのちを造られた主は生きておられる。私は決してあなたを殺さない。また、あなたのいのちを狙うあの者たちの手に、あなたを渡すことも絶対にしない。」
- 17 すると、エレミヤはゼデキヤに言った。「イスラエルの神、万軍の神、主はこう言われる。『もし、あなたがバビロンの王の首長たちに降伏するなら、あなたのたましいは生きながらえ、この都も火で焼かれず、あなたもあなたの家も生きながらえる。』」
- 18 あなたがバビロンの王の首長たちに降伏しないなら、この都はカルデア人の手に渡され、火で焼かれ、あなた自身も彼らの手から逃れることができない。』」
- 19 しかし、ゼデキヤ王はエレミヤに言った。「私は、カルデア人に投降したユダヤ人たちのことを恐れている。カルデア人が私を彼らの手に渡し、彼らが私をなぶりものにしないか、と。」
- 20 エレミヤは言った。「カルデア人はあなたを渡しません。どうか、主の御声に、私があるに語っていることに聞き従ってください。そうすれば、あなたは幸せになり、あなたのたましいは生きながらえます。」
- 21 しかし、もしあなたが降伏するのを拒むなら、これが、主が私に示されたことばです。
- 22 『見よ。ユダの王の家に残された女たちはみな、バビロンの王の首長たちのところに引き出される。聞け。彼女たちは言う。あなたの親しい友たちが、あなたをそそのかして、押し切った。あなたの足が泥に沈むと、彼らは背を向けた。』」
- 23 あなたの妻たちや子どもたちはみな、カルデア人のところに引き出され、あなた自身も彼らの手から逃れることができずに、バビロンの王の手に捕らえられ、この都も火で焼かれる。』」
- 24 ゼデキヤはエレミヤに言った。「だれにも、これらのことを知らせてはならない。そうすれば、あなたは死なない。」
- 25 もし、あの首長たちが、私があると話したことを聞いてあなたのところに来て、『さあ、何を王と話したのか、教える。隠すな。あなたを殺しはしない。王はあるに何を話したのか』と言っても、
- 26 あなたは彼らに、『王がヨナタンの家に私を返し、そこで私が死ぬことのないようにと、王の前に嘆願をしていた』と言いなさい。」
- 27 首長たちがみなエレミヤのところに来て、彼に尋ねたとき、彼は、王が命じたことばのとおり、彼らに告げたので、彼らは彼と話すのをやめた。あのことは、だれにも聞かれていなかったのである。

- 28 エレミヤは、エルサレムが攻め取られる日まで、監視の庭にとどまっていた。エルサレムが攻め取られた次第は次のとおりである。

第39章

- 1 ユダの王ゼデキヤの第九年、第十の月に、バビロンの王ネブカドネツアルは、その全軍勢を率いてエルサレムに攻めて来て、これを包囲した。
- 2 ゼデキヤの第十一年、第四の月の九日に、都は破られ、
- 3 バビロンの王のすべての首長たちが入って来て、中央の門のところに座を占めた。すなわち、ネルガル・サル・エツェル、サムガル・ネブ、ラブ・サリスのサル・セキム、ラブ・マグのネルガル・サル・エツェル、およびバビロンの王の首長の残り全員である。
- 4 ユダの王ゼデキヤとすべての戦士は、彼らを見ると逃げ、夜の間、王の園の道伝いにある、二重の城壁の間の門を通過して都を出て、アラバへの道に出た。
- 5 カルデアの軍勢は彼らの後を追い、エリコの草原でゼデキヤに追いつき、彼を捕らえ、ハマテの地のリブラにいるバビロンの王ネブカドネツアルのもとに連れ上った。バビロンの王は彼に宣告を下した。
- 6 バビロンの王はリブラで、ゼデキヤの息子たちを彼の目の前で虐殺し、ユダのおもだった人たちもみな虐殺した。
- 7 さらに、バビロンの王はゼデキヤの目をつぶし、バビロンに連れて行くため、彼に青銅の足かせをはめた。
- 8 カルデア人は、王宮も民の家も火で焼き、エルサレムの城壁を打ち壊した。
- 9 親衛隊の長ネブザルアダン、都に残されていた残りの民と、王に降伏した投降者たちと、そのほかの残されていた民を、バビロンへ捕らえ移した。
- 10 しかし、親衛隊の長ネブザルアダンは、何も持たない貧しい民の一部をユダの地に残し、同時に彼らにぶどう畑と畑地を与えた。
- 11 バビロンの王ネブカドネツアルは、エレミヤについて、親衛隊の長ネブザルアダンを通して次のように命じた。
- 12 「彼を連れ出し、目をかけてやれ。何も悪いことをするな。ただ彼があなたに語るとおりに、彼を扱え。」
- 13 こうして、親衛隊の長ネブザルアダンと、ラブ・サリスのネブシャズバンと、ラブ・マグのネルガル・サル・エツェルと、バビロンの王のすべての高官たちは、
- 14 人を遣わして、エレミヤを監視の庭から連れ出し、シャファンの子アヒカムの子ゲダルヤに渡して、家に連れて行かせた。こうして彼は民の間に住んだ。
- 15 エレミヤが監視の庭に閉じ込められているとき、エレミヤに次のような主のことばがあった。
- 16 「行って、クシュ人エベデ・メレクに言え。『イスラエルの神、万軍の主はこう言われる。見よ、わたしはこの都にわたしのことばを実現させる。幸いのためではなく、わざわいのためだ。それらはその日、あなたの前で起こる。』」
- 17 しかしその日、わたしはあなたを救い出す—主のことば—。あなたは、あなたが恐れている者たちの手に渡されることはない。
- 18 わたしは必ずあなたを助け出す。あなたは剣に倒れず、あなたのいのちは戦勝品としてあなたのものになる。あなたがわたしに信頼したからだ—主のことば。』」

第40章

- 1 主からエレミヤにあったことは、バビロンへ引いて行かれるエルサレムとユダの捕囚の民の間で鎖につながれていたエレミヤを、親衛隊の長ネブザルアダンがラマから釈放した後のことである。
- 2 親衛隊の長はエレミヤを連れ出して、彼に言った。「あなたの神、主は、この場所にこのわざわいを下すと語られた。
- 3 そして主はこれを下し、語ったとおりに行われた。あなたがたが主の前に罪ある者となり、その御声に聞き従わなかったので、このことがあなたがたに下ったのだ。
- 4 そこで今、見よ、私は今日、あなたの手にある鎖を解いて、あなたを釈放する。もし私とともにバビロンへ行くのがよいと思うなら、行きなさい。私がある世話をしよう。しかし、もし私と一緒にバビロンへ行くのが気に入らないなら、やめなさい。見なさい。全地はあなたの前に広がっている。あなたが行ってよいと思う、気に入ったところへ行きなさい。」
- 5 しかしエレミヤがまだ帰ろうとしないので、「では、バビロンの王がユダの町々を委ねた、シャファンの子アヒカムの子ゲダルヤのところへ帰り、彼とともに民のうちに住みなさい。でなければ、あなたが行くのによいと思うところへ、どこへでも行きなさい。」こうして親衛隊の長は、食糧と品物を与えて、彼を去らせた。
- 6 そこでエレミヤは、ミツパにいるアヒカムの子ゲダルヤのところに行って、彼とともに、その地に残された民の間に住んだ。
- 7 野にいた軍の高官たちとその部下たちはみな、バビロンの王がアヒカムの子ゲダルヤをその地の総督にして、バビロンに捕らえ移されなかった男、女、子どもたち、その地の貧しい民たちを彼に委ねたことを聞いた。
- 8 そして彼らはミツパにいるゲダルヤのもとに来た。ネタンヤの子イシュマエル、カレア八の子ヨハナンとヨナタン、タンフメテの子セラヤ、ネトファ人エファイの子ら、マアカ人の子エザンヤ、そして彼らの部下たちであった。
- 9 シャファンの子アヒカムの子ゲダルヤは、彼らとその部下たちに誓った。「カルデア人に仕えることを恐れてはならない。この地に住んで、バビロンの王に仕えなさい。そうすれば、あなたがたは幸せになる。
- 10 この私は、見よ、ミツパに住んで、私たちのところに来るカルデア人の前に立とう。あなたがたは、ぶどう酒、夏の果物、油を収穫して器に納め、自分たちが手に入れた町々に住むがよい。」
- 11 モアブや、アンモン人のところや、エドムや、あらゆる地方にいたユダヤ人もみな、バビロンの王がユダに人を残したこと、シャファンの子アヒカムの子ゲダルヤを彼らの総督に任命したことを聞いた。
- 12 そこで、ユダヤ人はみな、散らされていたすべての場所からユダの地に帰って来て、ミツパのゲダルヤのもとに行き、非常に多くのぶどう酒と夏の果物を収穫した。
- 13 さて、野にいたカレア八の子ヨハナンと、軍のすべての高官たちは、ミツパのゲダルヤのもとに来て、
- 14 彼に言った。「あなたは、アンモン人の王バアリスがネタンヤの子イシュマエルを送って、あなたを打ち殺そうとしているのをご存じですか。」しかし、アヒカムの子ゲダルヤは、彼らの言うことを信じなかった。

- 15 カレアハの子ヨハナンは、ミツパでひそかにゲダルヤに話して言った。「では、私が行って、ネタンヤの子イシュマエルを、だれにも分からないように打ち殺しましょう。どうして、彼があなたを打ち殺し、あなたのもとに集められた全ユダヤ人が散らされ、ユダの残りの者が滅びてよいでしょうか。」
- 16 しかし、アヒカムの子ゲダルヤは、カレアハの子ヨハナンに言った。「そんなことをしてはならない。あなたこそ、イシュマエルについて偽りを語っているからだ。」

第41章

- 1 ところが第七の月に、王族の一人、エリシャマの子ネタンヤの子イシュマエルは、王の高官と十人の部下とともに、ミツパにいるアヒカムの子ゲダルヤのもとに来て、ミツパで食事をともにした。
- 2 ネタンヤの子イシュマエルと、彼とともにいた十人の部下は立ち上がって、シャファンの子アヒカムの子ゲダルヤを剣で打ち殺した。イシュマエルは、バビロンの王がこの地の総督にした者を殺した。
- 3 ミツパでゲダルヤと一緒にいたすべてのユダの人たちと、そこに居合わせたカルデア人の戦士たちを、イシュマエルは打ち殺した。
- 4 ゲダルヤが殺された次の日、まだ、だれもそれを知らなかったとき、
- 5 シェケム、シロ、サマリアから八十人の者がやって来た。彼らはみな、ひげを剃り、衣を引き裂き、身に傷をつけ、穀物のささげ物や乳香を手にして、主の宮に持って行こうとしていた。
- 6 ネタンヤの子イシュマエルは、彼らを迎えにミツパを出て、泣きながら歩いて行った。そして、彼らに出会ったとき、「アヒカムの子ゲダルヤのところにおいでください」と言った。
- 7 彼らが町の中に入ったとき、ネタンヤの子イシュマエルと、彼とともにいた部下たちは、彼らを殺して穴の中に投げ入れた。
- 8 彼らのうちの十人がイシュマエルに、「私たちが殺さないでください。私たちには、小麦、大麦、油、蜜など、畑に隠されたものがありますから」と言ったので、彼は、彼らをその仲間とともに殺すのをやめた。
- 9 イシュマエルが、ゲダルヤの指揮下にあった人々を打ち殺し、その死体すべてを投げ入れた穴は、アサ王がイスラエルの王バアシャに備えて作ったものであった。ネタンヤの子イシュマエルはそれを、殺された者で満たした。
- 10 イシュマエルは、ミツパにいた民の残りの者たち、すなわち王の娘たち、および親衛隊の長ネブザルアダンがアヒカムの子ゲダルヤに委ねた、ミツパに残っていたすべての民を捕らわれの身とした。ネタンヤの子イシュマエルは彼らを捕囚にして、アンモン人のところに渡ろうとして出発した。
- 11 しかし、カレアハの子ヨハナンと、彼とともにいた軍のすべての高官たちは、ネタンヤの子イシュマエルが行ったすべての悪を聞くと、
- 12 部下をみな連れて、ネタンヤの子イシュマエルと戦うために出て行き、ギブオンにある大池のほとりで彼を見つけた。
- 13 イシュマエルとともにいたすべての民は、カレアハの子ヨハナンと、彼とともにいるすべての高官を見て喜んだ。

- 14 こうして、イシュマエルがミツパから捕らえて来た民のすべては身を翻し、カレアハの子ヨハナンの側についた。
- 15 ネタンヤの子イシュマエルは、八人の者とともによハナンの前から逃れ、アンモン人のところへ行った。
- 16 ネタンヤの子イシュマエルがアヒカムの子ゲダルヤを打ち殺した後、カレアハの子ヨハナんと、彼とともにいたすべての高官たちは、ネタンヤの子イシュマエルから取り返したすべての残りの民、すなわちギブオンから連れ帰った勇士たち、戦士たち、女たち、子どもたち、および宦官たちを連れて、ミツパから
- 17 エジプトに行こうとして、ベツレヘムの傍らにあるゲルテ・キムハムへ行き、そこにとどまった。
- 18 バビロンの王がこの地の総督としたアヒカムの子ゲダルヤを、ネタンヤの子イシュマエルが打ち殺したため、カルデア人を恐れたからである。

第42章

- 1 軍のすべての高官たち、カレアハの子ヨハナン、ホシャヤの子イザンヤ、および身分の低い者も高い者もみな近づいて来て、
- 2 預言者エレミヤに言った。「どうか、私たちの願いを受け入れてください。私たちのため、この残りの者すべてのために、あなたの神、主に祈ってください。ご覧のとおり、多くの者の中からわずかに私たちだけが残ったのです。
- 3 あなたの神、主が、私たちの歩むべき道と、なすべきことを私たちに教えてください。」
- 4 そこで、預言者エレミヤは彼らに言った。「承知しました。見よ。私は、あなたがたの神、主に祈り、主があなたがたにお答えになることはみな、あなたがたに告げましょう。あなたがたには何事も隠しません。」
- 5 彼らはエレミヤに言った。「主が、私たちの間で真実で確かな証人であられますように。私たちは必ず、あなたの神、主が私たちのためにあなたを遣わして告げられることばのとおり、すべて行います。
- 6 それが良くても悪くても、私たちは、あなたを遣わされた私たちの神、主の御声に聞き従います。私たちの神、主の御声に聞き従って幸せを得るためです。」
- 7 十日たって、主のことばがエレミヤにあった。
- 8 エレミヤは、カレアハの子ヨハナんと、彼とともにいる軍のすべての高官たちと、身分の低い者や高い者をみな呼び寄せて、
- 9 彼らに言った。「あなたがたは自分たちのために嘆願してもらおうと私を主に遣わしたが、そのイスラエルの神、主はこう言われる。
- 10 『もし、あなたがたがこの地にとどまるのであれば、わたしはあなたがたを建て直して、壊すことなく、あなたがたを植えて、引き抜くことはない。わたしは、あなたがたに下したあのわざわいを悔やんでいるからだ。
- 11 あなたがたが恐れているバビロンの王を恐れるな。彼を恐れるな—主のことば—。わたしがあなたがたとともにいて、彼の手からあなたがたを救い、助け出すからだ。

- 12 わたしがあなたがたにあわれみを施すので、彼はあなたがたをあわれんで、あなたがたを自分たちの土地に帰らせる。』
- 13 しかし、あなたがたが『私たちがこの地にとどまらない』と言って、あなたがたの神、主の御声に聞き従わず、
- 14 『いや、エジプトの地に行こう。あそこでは戦いにあわず、角笛の音も聞かず、パンに飢えることもない。あそこに私たちは住もう』と言うのであれば、
- 15 今、ユダの残りの者よ、主のことばを聞け。イスラエルの神、万軍の主はこう言われる。『もし、あなたがたがエジプトに行こうと決意し、そこに行って寄留するなら、
- 16 あなたがたの恐れている剣が、あのエジプトの地であなたがたを襲い、あなたがたの心配している飢饉が、あのエジプトであなたがたに追い迫り、あなたがたはそこで死ぬ。
- 17 エジプトに行ってそこに寄留しようと決意した者たちはみな、そこで剣と飢饉と疫病で死ぬ。わたしが彼らに下すわざわいから、生き残る者も逃れる者もない。』
- 18 まことに、イスラエルの神、万軍の主はこう言われる。『わたしの怒りと憤りがエルサレムの住民の上に注がれたように、あなたがたがエジプトに行くとき、わたしの憤りはあなたがたの上に注がれ、あなたがたは、のろいと恐怖のもと、ののしりとそしりの的になり、二度とこの場所を見ることはない。』
- 19 ユダの残りの者よ、主はあなたがたに『エジプトへ行ってはならない』と言われた。私が今日あなたがたに証したことを、確かに知らなければならない。
- 20 あなたがたは、自分たちのいのちの危険を冒して迷い出てしまったからだ。あなたがたは私をあなたがたの神、主のもとに遣わして、『私たちのために、私たちの神、主に祈り、すべて私たちの神、主の言われるとおりに、私たちに教えてください。私たちはそれを行います』と言ったのだ。
- 21 私は今日、あなたがたに告げたが、あなたがたは、自分たちの神、主の御声を、すなわち、主がそのために私をあなたがたに遣わされたすべてのことを聞こうとしなかった。
- 22 だから今、確かに知らなければならない。あなたがたが、行って寄留したいと思っているその場所で、剣や飢饉や疫病で死ぬことを。」

第43章

- 1 エレミヤが民全体に、彼らの神、主のことばを語り終えたときのこと。彼らの神、主はこのすべてのことばをもって、エレミヤを彼らに遣わされたのであるが、
- 2 ホシャヤの子アザルヤ、カレア八の子ヨハナン、および高ぶった人たちはみな、エレミヤにこう告げた。「あなたは偽りを語っている。私たちの神、主は『エジプトに行ってそこに寄留してはならない』と言わせるために、あなたを遣わされたのではない。
- 3 ネリヤの子バルクが、あなたをそそのかして私たちに逆らわせ、私たちをカルデア人の手に渡して、私たちを死なせるか、あるいは、私たちをバビロンへ引いて行かせようとしているのだ。」
- 4 カレア八の子ヨハナンと、軍のすべての高官たちと、民のすべては、「ユダの地にとどまれ」という主の御声に聞き従わなかった。
- 5 そして、カレア八の子ヨハナンと、軍のすべての高官たちは、散らされていた国々からユダの地に住むために帰っていたユダの残りの者すべて、

- 6 すなわち、親衛隊の長ネブザルアダンが、シャファンの子アヒカムの子ゲダルヤに託したすべての者、男、女、子ども、王の娘たち、さらに、預言者エレミヤと、ネリヤの子バルクを連れて、
- 7 エジプトの地に行った。主の御声に聞き従わなかったのである。こうして、彼らはタフパンヘスまで来た。
- 8 タフパンヘスで、エレミヤに次のような主のことばがあった。
- 9 「あなたは手に大きな石を取り、それらを、ユダヤ人たちの目の前で、タフパンヘスにあるファラオの宮殿の入り口にある敷石の漆喰の中に隠して、
- 10 彼らに言え。『イスラエルの神、万軍の主はこう言われる。見よ。わたしは人を遣わし、わたしのしもべ、バビロンの王ネブカドネツアルを連れて来て、彼の王座を、わたしが隠したこれらの石の上に据える。彼はその石の上に本営を張る。
- 11 彼は来てエジプトの地を討ち、死に定められた者を死に渡し、捕囚に定められた者を捕囚にし、剣に定められた者を剣に渡す。
- 12 わたしがエジプトの神々の神殿に火をつけるので、彼はそれらを焼き、神々を奪い去る。彼は、羊飼いが自分の衣をまとうようにエジプトの地をまとい、ここから安らかに去って行く。
- 13 また、エジプトの地にある太陽の神殿の石柱を砕き、エジプトの神々の神殿を火で焼く。』」

第44章

- 1 エジプトの地に住むすべてのユダヤ人、すなわちミグドル、タフパンヘス、メンフィス、およびパテロス地方に住む者たちに対する、エレミヤにあったことばは、次のとおりである。
- 2 「イスラエルの神、万軍の主はこう言われる。『あなたがたは、わたしがエルサレムとユダのすべての町に下した、あのすべてのわざわいを見た。見よ。その町々は今日、廃墟となって、そこに住む者もいない。
- 3 彼らが悪を行って、わたしの怒りを引き起こしたためだ。彼らは、自分自身も、あなたがたも、父祖たちも知らなかったほかの神々のところに行き、犠牲を供えて仕えた。
- 4 それで、わたしはあなたがたに、わたしのしもべであるすべての預言者たちを早くからたびたび遣わして、わたしの憎むこの忌み嫌うべきことを行わないように言ってきたが、
- 5 彼らは聞かず、耳を傾けず、ほかの神々に犠牲を供えることをやめて悪から立ち返ることはなかった。
- 6 そのため、わたしの憤りと怒りが、ユダの町々とエルサレムの通りに注がれて燃え上がり、それらは今日のように廃墟となって荒れ果てている。』
- 7 今、イスラエルの神、万軍の神、主はこう言われる。『なぜ、あなたがたは自分自身に大きなわざわいを招き、ユダの中から男も女も、幼子も乳飲み子も断って、残りの者を生かしておかないようにするのか。
- 8 なぜ、あなたがたは、寄留しようとしてやって来たエジプトの地でも、ほかの神々に犠牲を供えて、自分の手のわざによってわたしの怒りを引き起こすのか。こうして、あなたがたは自分たち自身を絶ち滅ぼして、地のすべての国々の中で、ののしりとそしりの的になろうとしている。
- 9 あなたがたは、ユダの地とエルサレムの通りで行った、自分たちの先祖の悪、ユダの王たちの悪、王妃たちの悪、自分たちの悪、自分たちの妻たちの悪を忘れたのか。

- 10 彼らは今日まで心碎かれず、恐れず、わたしがあなたがたとあなたがたの先祖の前に与えたわたしの律法と掟に歩まなかった。』
- 11 それゆえ、イスラエルの神、万軍の主はこう言われる。『見よ。わたしはあなたがたに顔を向け、わざわいを下し、ユダのすべての民を絶ち滅ぼす。』
- 12 わたしは、エジプトの地へ行ってそこに寄留しようとして決意したユダの残りの者を取り分ける。彼らはみな、エジプトの地で、剣と飢饉に倒れて滅びる。身分の低い者も高い者もみな、剣と飢饉で死に、のろいと恐怖のもと、ののしりとそしりの的となる。
- 13 わたしは、エルサレムを罰したのと同じように、エジプトの地に住んでいる者たちを、剣と飢饉と疫病で罰する。
- 14 エジプトの地に寄留した後、ユダの地へ帰ろうとしているユダの残りの者には、逃れる者も生き残る者もない。彼らはそこに帰って住みたいと心から望んでいるが、わずかな逃れる者以外は帰らない。』
- 15 そのとき、自分たちの妻がほかの神々に犠牲を供えていることを知っている男たちのすべてと、大集団をなしてそばに立っている女たちすべて、すなわち、エジプトの地とパテロスに住むすべての民は、エレミヤに答えた。
- 16 「あなたが主の名によって私たちに語ったことばに、私たちは従うわけにはいかない。
- 17 私たちは、私たちの口から出たことばをみな必ず行って、私たちも父祖たちも、私たちの王たちも首長たちも、ユダの町々やエルサレムの通りで行っていたように、天の女王に犠牲を供え、それに注ぎのぶどう酒を注ぎたい。私たちはそのとき、パンに満ち足りて幸せで、わざわいにあわなかった。
- 18 だが、天の女王に犠牲を供え、それに注ぎのぶどう酒を注ぐのをやめたときから、私たちは万事に不足し、剣と飢饉に滅ぼされたのだ。」
- 19 「私たち女が、天の女王に犠牲を供え、彼女に注ぎのぶどう酒を注ぐとき、女王にかたどった供えのパン菓子を作り、注ぎのぶどう酒を注いだのは、夫をなおざりにしてのことだったでしょうか。」
- 20 そこでエレミヤは、そのすべての者、すなわち、男たちと女たち、また彼に口答えした者たち全員に言った。
- 21 「ユダの町々やエルサレムの通りで、あなたがたや、あなたがたの先祖、王たち、首長たち、また民衆が犠牲を供えたことを、主が覚えず、心に上らせなかったことがあるだろうか。
- 22 主は、あなたがたの悪い行い、あなたがたが行ったあの忌み嫌うべきことのために、もう耐えることができず、それであなたがたの地は今日のように、住む者もなく、廃墟となり、恐怖のもと、ののしりの的となったのだ。
- 23 あなたがたが犠牲を供えたため、また、主の前に罪ある者となって、主の御声に聞き従わず、主の律法と掟と証しに歩まなかったために、今日のように、あなたがたにこのわざわいが起こったのだ。」
- 24 それからエレミヤは、すべての民、すべての女たちに言った。「エジプトの地にいるすべてのユダの人々よ、主のことばを聞け。
- 25 『イスラエルの神、万軍の主はこう言われる。あなたがたとあなたがたの妻は、自分たちの口で約束し、自分の手で果たしてきた。あなたがたは、天の女王に犠牲を供えて彼女に注ぎのぶどう酒を注ぐという誓願を、必ず実行するとやっている。では、あなたがたの誓願を確かなものとし、あなたがたの誓願を必ず実行せよ。』

- 26 それゆえ、エジプトの地に住むすべてのユダの人々よ、主のことばを聞け。『見よ、わたしはわたしの大なる名によって誓う—主は言われる—。エジプトの全土において、「神である主は生きておられる」と、わたしの名がユダの人々の口に上ることはもうなくなる。
- 27 見よ、わたしは彼らを見張っている。わざわざのためであって、幸いのためではない。エジプトの地にいるすべてのユダの人々は、剣と飢饉によって、ついには完全に滅び失せる。
- 28 剣を逃れる少数の者だけが、エジプトの地からユダの地に帰る。こうして、エジプトの地に来て寄留しているユダの残りの者たちはみな、わたしのことばと彼らのことばの、どちらが成就するかを知る。
- 29 これが、あなたがたへのしるしである—主のことば—。わたしはこの場所であなただを罰する。あなたがたにわざわいを下すというわたしのことばが必ず成就することを、あなたがたが知るためである。』
- 30 主はこう言われる。『見よ。わたしは、エジプトの王ファラオ・ホフラをその敵の手に、そのいのちを狙う者たちの手に渡す。ちょうどユダの王ゼデキヤを、そのいのちを狙っていた彼の敵、バビロンの王ネブカドネツアルの手に渡したように。』」

第45章

- 1 ユダの王、ヨシヤの子エホヤキムの第四年に、ネリヤの子バルクが、エレミヤの口述によってこれらのことばを書物に書いたとき、預言者エレミヤが彼に語ったことばは、こうである。
- 2 「バルクよ、イスラエルの神、主は、あなたについてこう言われる。
- 3 『あなたは言った。ああ、私はわざわいだ。主は私の痛みと悲しみを加えられた。私は嘆きで疲れ果て、憩いを見出せない、と。』」
- 4 「エレミヤよ、あなたは彼にこう言え。『主はこう言われる。見よ。わたしは自分が建てたものを自分で壊し、わたしが植えたものを自分で引き抜く。この全土をそうする。
- 5 あなたは、自分のために大きなことを求めるのか。求めるな。見よ。わたしがすべての肉なる者に、わざわいを下そうとしているからだ—主のことば—。しかしわたしは、あなたが行くどこでも、あなたのいのちを戦勝品としてあなたに与える。』」

第46章

- 1 諸国の民について、預言者エレミヤにあった主のことば。
- 2 エジプトについて、すなわちユーフラテス河畔のカルケミシュにいたエジプトの王ファラオ・ネコの軍勢について。ユダの王、ヨシヤの子エホヤキムの第四年に、バビロンの王ネブカドネツアルがこれを打ち破った。
- 3 「盾と大盾を整えて、戦いに向かえ。
- 4 騎兵たちよ、馬に鞍をつけて乗れ。かぶとを着けて配置につけ。槍を磨き、よろいをまとう。
- 5 何ということか、この有様は。彼らはおじ惑い、うしろに退く。勇士たちは打たれ、うしろも振り向かず逃げ去る。恐怖が取り囲んでいる。—主のことば—
- 6 足の速い者も逃げられない。勇士たちも逃れられない。北の方、ユーフラテス川のほとりで、彼らはつまずき倒れる。

- 7 ナイル川のように湧き上がり、奔流のように逆巻くこの者はだれか。
- 8 エジプトは、ナイル川のように湧き上がり、奔流のように逆巻く。彼は言う。『湧き上がって地をおおい、町も住民も滅ぼそう。』
- 9 馬よ、進め。戦車よ、走れ。勇士たちは出陣せよ。盾を取るクシュ人、プテ人、弓を引くルデ人よ。
- 10 その日は、万軍の神、主の日、敵に復讐する復讐の日。剣は食らって満ち足り、彼らの血に酔う。北の地、ユーフラテス川のほとりでは、万軍の神、主に、いけにえが献げられる。
- 11 おとめである娘エジプトよ、ギルアデに上って乳香を取れ。多くの薬を用いても無駄だ。おまえには癒やしがない。
- 12 国々は、おまえの恥辱のことを聞く。おまえの哀れな叫び声は地に満ちる。勇士が勇士につまずき、ともに倒れるからだ。」
- 13 バビロンの王ネブカドネツアルが来て、エジプトの地を討つことについて、主が預言者エレミヤに語られたことば。
- 14 エジプトで告げ、ミグドルで聞かせ、メンフィスとタフパンヘスで聞かせて言え。「配置について、備えをせよ。剣がおまえの周りを食い尽くすからだ。
- 15 なぜ、おまえの雄牛は押し流されるのか。それは踏みとどまり得ない。主が彼を突き倒されたからだ。
- 16 多くの者がつまずき、倒れる。彼らは互いに言う。『さあ、われわれの民のところ、生まれ故郷に帰ろう。あの虐げる者の剣を避けて。』
- 17 彼らはそこで叫んだ。エジプトの王ファラオは、時期を逸して騒ぐ者。
- 18 わたしは生きている。—その名を万軍の主という王のことば— タボルが山々の間にあるように、カルメルが海のそばにあるように、彼は必ず来る。
- 19 エジプトに住む娘よ、捕囚となる身支度をせよ。メンフィスは荒れ果て、焼かれて住む者もいなくなるからだ。
- 20 エジプトは、かわいらしい雌の子牛。しかし北からアブが襲って来る。
- 21 その中にいた傭兵も、肥えた子牛のようだ。彼らもまた、背を向けてともに逃げ、立ち止まろうともしない。彼らの滅びの日、刑罰の時が、彼らの上に来るからだ。
- 22 彼女の声は逃げ去る蛇の音のようだ。敵が軍勢を率い、木こりのように、斧を持って入って来るからだ。
- 23 彼らはその森を切り倒す。—主のことば— それがいかに奥深くても。実に、彼らはいなごより多くて数えきれない。
- 24 娘エジプトは辱められ、北の民の手に渡される。」
- 25 イスラエルの神、万軍の主は言われる。「見よ。わたしは、テーベのアモン、ファラオとエジプト、その神々と王たち、ファラオと彼に拠り頼む者たちを罰する。
- 26 わたしは彼らを、そのいのちを狙う者たちの手に、バビロンの王ネブカドネツアルの手とその家来たちの手に渡す。その後エジプトには、昔のように人が住むようになる—主のことば。
- 27 わたしのしもベヤコブよ、恐れるな。イスラエルよ、おののくな。見よ。わたしがあなたを遠くから、あなたの子孫を捕囚の地から救うからだ。ヤコブは帰って来て、だれにも脅かされずに平穏に安らかに生きる。

- 28 わたしのしもベヤコブよ、恐れるな。—主のことば— わたしが、あなたとともにいるからだ。わたしは、あなたを追いやった先のすべての国々を滅ぼし尽くす。しかし、あなたを滅ぼし尽くすことはない。ただし、さばきによってあなたを懲らしめる。決してあなたを罰せずにおくことはない。」

第47章

- 1 ファラオがガザを討つ前に、ペリシテ人について預言者エレミヤにあった主のことば。
- 2 主はこう言われる。「見よ。北から水が上って来てあふれる流れとなり、地とそこに満ちているもの、町とその住民を押し流す。人々はわめき、地の住民はみな泣き叫ぶ。
- 3 荒馬のひづめの音のため、戦車の響き、車輪のとどろきに、父親たちは気力を失い、子どもたちを顧みない。
- 4 すべてのペリシテ人を破滅させる日、ツロとシドンを助ける生き残りの者すべてを断ち切る日が来たからだ。まことに主は、ペリシテ人を、カフトルの島の残りの者を破滅させる。
- 5 ガザは頭を剃られ、アシュケロンは黙らされる。平地の残りの者よ、いつまで、おまえは身を傷つけるのか。」
- 6 「ああ、主の剣よ。いつまで休まないのか。さやに収まり、静かに休め。」
- 7 どうして、休めるだろうか。主が剣に命じられたのだ。アシュケロンとその海岸、そこに剣を向けられたのだ。

第48章

- 1 モアブについて。イスラエルの神、万軍の主はこう言われる。「わざわざいだ、ネボ。これは荒らされた。キルヤタイムも辱められ、攻め取られた。その砦は辱められ、打ちのめされた。
- 2 もはやモアブの誉れはない。ヘシュボンに、これに悪事を企んでいる。『行って、あの国民を絶ち滅ぼし、無き者にしよう』と。マデメンよ、おまえも黙らされる。剣がおまえの後を追っている。
- 3 ホロナイムから叫び声がある。『暴行だ。大いなる破滅だ』と。
- 4 モアブは打ち破られる。その幼き者たちは叫び声をあげる。
- 5 まことに、ルヒテの坂は嘆きの中にあり、彼らは泣きながら上る。ホロナイムの下り坂では、痛々しい破滅の叫びが聞こえる。
- 6 逃げて、自分自身を救え。荒野の中の灌木のようになれ。
- 7 おまえは自分が作ったものと財宝に拠り頼んだので、おまえも捕らえられ、ケモシュはその祭司や首長たちとともに、捕囚となって出て行く。
- 8 荒らす者がすべての町に入って来る。町は一つも逃れられない。谷は滅び失せ、平地は根絶やしにされる。—主がそう言われる—
- 9 モアブに翼を与えて、飛び去らせよ。その町々は住む者もなくて荒れ果てる。
- 10 主のみわざをおろそかにする者は、のろわれよ。その剣をとどめて血を流さないようにする者は、のろわれよ。

- 11 モアブは若いときから安らかであった。彼はぶどう酒の澗の上によどみ、桶から桶へ空けられたこともなく、捕囚として連れて行かれたこともなかった。それゆえ、その味はそのまま残り、香りも変わらなかった。
- 12 それゆえ、見よ、その時代が来る—主のことば—。そのとき、わたしは彼に酒蔵の番人たちを送る。彼らは彼を桶から移し、彼の桶を空にして、壺を砕く。
- 13 モアブは、ケモシュのゆえに恥を見る。イスラエルの家が、彼らが抛り頼むベテルのゆえに恥を見たように。
- 14 どうして、おまえたちは言えるだろうか。『われわれは勇士、戦いの豪の者だ』と。
- 15 モアブは荒らされ、その町々は襲われて、選り抜きの若者たちが屠り場に下って行く。—その名を万軍の主という王のことば—
- 16 モアブの滅びは近づいた。そのわざわいは速やかにやって来る。
- 17 周りの者、その名を知る者はみな、これのために嘆け。『どうして、力ある杖、輝かしい笏が砕かれたのか』と。
- 18 ディボンに住む娘よ。栄光の座から降りて、潤いのない地に座れ。モアブを荒らす者が、おまえのところに攻め上り、おまえの要塞を滅ぼしたからだ。
- 19 アロエルに住む女よ。道の傍らに立って見張れ。逃げる男、逃れる女に尋ねて、『何が起こったのか』と言え。
- 20 モアブは打ちのめされ、辱められた。泣き叫び、わめけ。アルノンで『モアブは荒らされた』と告げよ。
- 21 さばきは次の平地に臨んだ。ホロン、ヤハツ、メファアテ、
- 22 ディボン、ネボ、ベテ・ディブラタイム、
- 23 キルヤタイム、ベテ・ガムル、ベテ・メオン、
- 24 ケリヨテ、ボツラ、モアブの地の遠くの町、近くの町すべてに。
- 25 モアブの角は切り落とされ、その腕は砕かれた—主のことば。
- 26 彼を酔わせよ。主に対して高ぶったからだ。モアブは、へどを吐き、彼も笑いものとなる。
- 27 イスラエルは、おまえにとって笑いものではなかったのか。それとも、おまえが彼のことを語るたびに彼に向かって頭を振っていたのは、彼が盗人の間に見つけられたためか。
- 28 モアブの住民よ。町を見捨てて岩間に住め。穴の入り口のそばに巣を作る鳩のようになれ。
- 29 われわれはモアブの高ぶりを、—彼は実に高ぶる者— その傲慢、その高ぶりを、その誇り、その慢心を聞いた。
- 30 わたしは彼の不遜さを知っている。—主のことば— その自慢話は正しくない。その行いも正しくない。
- 31 それゆえ、わたしはモアブのために泣き叫び、モアブ全体のために叫ぶ。人々はキル・ヘレスの人々のために嘆く。
- 32 シブマのぶどうの木よ。わたしはヤゼルの涙にまさり、おまえのために泣く。おまえのつるは伸びて海を越えた。ヤゼルの海に達した。そして、おまえの夏の果物とぶどうの収穫を、荒らす者が襲った。
- 33 モアブの果樹園から、その地から、喜びと楽しみが取り去られる。わたしは石がめから酒を絶えさせた。喜びの声をあげてぶどうを踏む者もなく、ぶどう踏みの喜びの声は、もはや喜びの声ではない。

- 34 ヘシュボンが悲鳴をあげたので、その声はエルアレとヤハツまで、ツォアルからホロナイムやエグラテ・シェリシヤまで届く。ニムリムの水さえ荒廃するからだ。
- 35 わたしはモアブで—主のことば—高き所でいけにえを献げる者を、その神々に犠牲を供える者を取り除く。
- 36 それゆえ、わたしの心は、モアブのために笛のように鳴る。わたしの心は、キル・ヘレスの人々のために笛のように鳴る。彼らの得た富も消え失せたからだ。
- 37 実に、彼らは頭の毛をみな剃り、ひげもみな切り取り、手もみな傷つけ、腰に粗布を着けている。
- 38 モアブのあらゆる屋根の上や広場には、嘆きしかない。わたしがモアブを、だれも欲しがらない器のように砕いたからだ—主のことば—。
- 39 どんなにか打ちのめされて、泣き叫ぶことか。どんなにかモアブは恥を見て、背を見せることか。モアブは、その周りのすべての者の笑いものとなり、恐怖のもととなった。」
- 40 まことに、主はこう言われる。「見よ。敵が鷲のように襲いかかり、モアブに対して翼を広げる。
- 41 町々は攻め取られ、要害は取られる。その日、モアブの勇士の心は、産みの苦しみにある女の心のようになる。
- 42 モアブは滅ぼし尽くされて、民でなくなる。主に対して高ぶったからだ。
- 43 モアブの住民よ、おまえを恐怖と落とし穴と罠が襲う。—主のことば—
- 44 その恐怖から逃げる者は穴に落ち、穴から這い上る者は罠に捕らえられる。わたしがモアブに彼らの刑罰の年を来させるからだ。—主のことば—
- 45 ヘシュボンの陰には、逃れる者たちが力尽きて立ち止まる。火がヘシュボンから、炎がシホンのうちから出るからだ。それは、モアブのこめかみと、騒がしい子どもの頭の頂を焼く。
- 46 ああ、モアブ。ケモシュの民は滅びる。おまえの息子は捕らわれの身となり、娘は捕虜になって連れ去られるからだ。
- 47 しかし終わりの日に、わたしはモアブを回復させる。—主のことば。—ここまでがモアブへのさばきである。

第49章

- 1 アンモン人について。主はこう言われる。「イスラエルには子がないのか。世継ぎがないのか。なぜ、ミルコムがガドを所有し、その民が町々に住んでいるのか。
- 2 それゆえ、見よ、その時代が来る。—主のことば—そのとき、わたしはアンモン人のラバに戦いの雄たけびを聞かせる。そこは荒れ果てた廃墟となり、その娘たちは火で焼かれる。イスラエルがその跡を継ぐ。—主は言われる—
- 3 ヘシュボンよ、泣き叫べ。アイが荒らされたから。ラバの娘たちよ、わめけ。粗布をまといえ。嘆いて囲い場の中を走り回れ。ミルコムが、その祭司や首長たちとともに、捕囚として連れて行かれるからだ。
- 4 背信の娘よ、おまえの谷には水が流れている。なぜ、その谷を誇るのか。おまえは自分の財宝に拠り頼んで言う。『だれが私のところに来るだろう』と。
- 5 見よ。わたしは四方からおまえに恐怖をもたらす。—万軍の神、主のことば—おまえたちはみな散らされて、逃げる者を集める者もない。

- 6 その後、わたしはアンモン人を回復させる。一主のことば。」
- 7 エドムについて。万軍の主はこう言われる。「テマンには、もう知恵がないのか。賢い者から分別が消え失せ、彼らの知恵は朽ちたのか。
- 8 デダンの住民よ、逃げよ。そこを離れよ。深く潜め。わたしが彼の上にエサウの災難を、彼を罰する時を、もたらすからだ。
- 9 ぶどうを収穫する者が おまえのところに来るなら、彼らは取り残しの実を残さないだろう。盗人が夜中に来るなら、彼らの気がすむまで荒らすだろう。
- 10 しかし、わたしはエサウを裸にし、その隠れ場をあらわにし、身を隠すこともできないようにする。彼の子孫も兄弟も隣人も 踏みにじられ、彼はいなくなる。
- 11 おまえのみなしごたちを見捨てよ。わたしが彼らを生かし続ける。おまえのやもめたちは、わたしに抛り頼まなければならない。」
- 12 まことに主はこう言われる。「見よ。その杯を飲むように定められていない者でも、それを必ず飲まなければならないのなら、おまえだけが罰を免れられるだろうか。罰を受けずにはすまされない。おまえは必ず飲まなければならない。
- 13 まことに、わたしは自分にかけて誓う一主のことば—。必ずボツラは恐怖のもと、そしりの的、廃墟、そしてののしりの的となる。そのすべての町は、永遠の廃墟となる。」
- 14 私は主から知らせを聞いた。「使者が国々に送られた。『集まって、エドムに攻め入れ。戦いに向けて立ち上がれ。』
- 15 見よ。わたしがおまえを国々の中の小さい者、人に蔑まれる者としたからだ。
- 16 岩の裂け目に住む者、丘の頂を占める者よ。おまえの脅かしと高慢は、おまえ自身を欺いている。鷲のように巣を高くしても、わたしは、おまえをそこから引きずり降ろす。一主のことば。」
- 17 エドムは廃墟となり、そこを通り過ぎる者はみな呆気にとられ、そのすべての打ち傷を見て嘲笑する。
- 18 ソドムとゴモラとその近隣の町々が破滅したときのように—主は言われる—そこに人は住まず、そこに人の子は宿らない。
- 19 「見よ。獅子がヨルダンの密林から 常に潤う牧場に上って来るように、わたしは一瞬にして彼らをそこから追い出し、選ばれた人をそこに置く。だれがわたしのようであろうか。だれがわたしを呼びつけるだろうか。だれがわたしの前に立つことができる 牧者であろうか。」
- 20 それゆえ、聞け。エドムに対して立てられた主の計画を、テマンの住民に対して練られた策を。必ず、彼らは、群れの中の小さいものまで引きずって行かれ、必ず、彼らの牧場は彼らのことで恐れ惑う。
- 21 彼らの倒れる音で地は震え、その悲鳴は葦の海でも聞こえる。
- 22 見よ。彼は鷲のように舞い上がっては襲いかかり、ボツラに敵対して翼を広げる。その日、エドムの勇士の心も、産みの苦しみにある女の心のようになる。
- 23 ダマスコについて。「ハマテとアルパデは恥を見た。まことに、彼らは悪い知らせを聞き、海のようにかき乱され、静まることもできない。
- 24 ダマスコは弱り、恐怖にとらわれ、身を翻して逃げた。産婦の陣痛のような苦しみにとらえられて。
- 25 どうして、誉れの町、わたしの喜びの都が捨てられたのか。

- 26 それゆえ、その日、その若い男たちは町の広場に倒れ、その戦士たちもみな、黙らされる。
—万軍の主のことば—
- 27 わたしは、ダマスコの城壁に火をつける。その火はベン・ハダドの宮殿を食い尽くす。」
- 28 バビロンの王ネブカドネツアルが討ったケダルとハツオルの王国について。主はこう言われる。「さあ、ケダルへ攻め上り、東の人々を荒らせ。
- 29 その天幕と羊の群れは奪われ、その幕屋も、すべての器も、らくだも、運び去られる。人々は彼らに向かって叫ぶ。『恐怖が取り囲んでいる』と。
- 30 ハツオルの住民よ、逃げよ。遠くへ逃れよ。深く潜め—主のことば—。バビロンの王ネブカドネツアルが、おまえたちに対してはかりごとをめぐらし、おまえたちに対して計略をめぐらしているからだ。
- 31 さあ、安んじて住む穏やかな国に攻め上れ。—主のことば— そこには扉もなく、かんぬきもなく、その民は孤立して住んでいる。
- 32 彼らのらくだは獲物になり、その家畜の群れは分捕り物になる。わたしは、もみ上げを刈り上げている者たちを四方に吹き散らし、あらゆる方向から彼らに災難をもたらす。—主のことば—
- 33 ハツオルはとこしえまでも荒れ果てて、ジャッカルに住みかとなる。そこに人は住まず、そこに人の子は宿らない。」
- 34 ユダの王ゼデキヤの治世の初めに、エラムについて預言者エレミヤにあった主のことば。
- 35 万軍の主はこう言われる。「見よ。わたしはエラムの力の源であるその弓を折る。
- 36 わたしは天の四隅から、四方の風をエラムに吹きつけさせ、彼らをこの四方の風で吹き散らす。エラムの散らされた者が入らない国はない。
- 37 わたしは、エラムを敵の前に、そのいのちを狙う者たちの前にうろたえさせ、彼らの上にわざわいを、わたしの燃える怒りをその上に下す。—主のことば— わたしは、彼らのうしろに剣を送って、彼らを絶ち滅ぼす。
- 38 わたしはエラムにわたしの王座を置き、王や首長たちをそこから滅ぼす。—主のことば—
- 39 しかし、終わりの日になると、わたしはエラムを回復させる。—主のことば。」

第50章

- 1 主が預言者エレミヤを通して、バビロンについて、すなわちカルデア人の地について語られたことば。
- 2 「国々の間に告げ、旗を掲げて知らせよ。隠さずに言え。『バビロンは攻め取られた。ベルは辱められ、メロダクは打ちのめされた。その像は辱められ、その偶像は打ちのめされた。』
- 3 まことに、北から一つの国がそこに攻め上り、その地を荒れ果てさせた。そこには住むものもない。人から家畜に至るまで逃げ去った。
- 4 その日、その時—主のことば— イスラエルの民もユダの民も、ともにやって来る。彼らは泣きながら歩みつつ、その神、主を尋ね求める。
- 5 彼らはシオンを求め、その道に顔を向けて言う。『さあ、私たちは主に連なろう。忘れられることのない永遠の契約によって』と。

- 6 わたしの民は、迷った羊の群れであった。その羊飼いたちが彼らを迷わせ、山々へ連れ去った。彼らは山から丘へと行き巡り、休み場も忘れた。
- 7 彼らを見つける者はみな彼らを食らい、彼らの敵は言った。『私たちには責めはない。彼らが、義の住まいである主、彼らの先祖の望みであった主に対して罪を犯したためだ』と。
- 8 バビロンの中から逃げ、カルデア人の地から出て行け。群れの先頭に立つやぎのようになれ。
- 9 見よ。わたしは、大国の集団を奮い立たせ、北の地からバビロンに攻め上らせる。彼らはこれに向かって陣備えをし、バビロンはそこから攻め取られる。彼らの矢は熟練した勇士の矢のようで、空しくは帰らない。
- 10 カルデアは略奪され、これを略奪する者はみな、満ち足りる。一主のことば。
- 11 わたしのゆずりの地を略奪する者たちよ。おまえたちは楽しみ、喜び躍り、打穀する雌の子牛のようにはしゃぎ、荒馬のようにながれ、
- 12 おまえたちの母はひどく恥を見、おまえたちを産んだ者は屈辱を受ける。見よ。彼女は国々のうちの最後のものとなり、荒野となり、砂漠と荒れた地となる。
- 13 主の御怒りによって、そこに住む者はなく、ことごとく廃墟と化す。バビロンの近くを通り過ぎる者はみな呆気にとられ、そのすべての打ち傷を見て嘲笑する。
- 14 すべて弓を引く者よ。バビロンの周りに陣備えをし、これを射よ。矢を惜しむな。彼女が主に対して罪を犯したからだ。
- 15 その周りで、ときを声をあげよ。彼女は降伏する。その柱は倒れ、その城壁は壊れる。これこそ主の復讐だ。彼女に復讐せよ。彼女がしたとおりに、これにせよ。
- 16 種を蒔く者や、刈り入れの時に鎌を取る者を、バビロンから断ち切れ。虐げる者の剣を避けて、人はそれぞれ自分の民のもとに帰り、自分の土地へ逃げて行く。」
- 17 イスラエルは雄獅子に散らされた羊。先にはアッシリアの王がこれを食らい、今度はついに、その骨をバビロンの王ネブカドネツアルが食らった。
- 18 それゆえ、イスラエルの神、万軍の主はこう言われる。「見よ。わたしはアッシリアの王を罰したように、バビロンの王とその地を罰する。
- 19 わたしはイスラエルをその牧場に帰らせる。彼はカルメルとバシャンで草を食べ、エフライムの山とギルアデで満ち足りる。
- 20 その日、その時—主のことば— イスラエルの咎を探しても、それはない。ユダの罪も見つからない。わたしが残す者を、わたしが赦すからだ。」
- 21 「メラタイムの地、ペコデの住民のところに攻め上れ。彼らを追って、殺し、聖絶せよ。—主のことば— すべて、わたしがあなたに命じたとおりに行え。
- 22 その地には戦いの声、大いなる破滅。
- 23 全地を打った鉄槌は、どうして折られ、砕かれたのか。バビロンよ、どうして国々の恐怖のもととなったのか。
- 24 バビロンよ。わたしがおまえに罠をかけ、おまえは捕らえられた。おまえはそれを知らなかった。おまえは見つかり、捕まえられた。主に争いを仕掛けたからだ。
- 25 主はその倉を開き、その憤りの武器を持ち出した。それは、カルデア人の国での、万軍の神、主の仕事だ。

- 26 四方からそこに攻め入れ。その穀物倉を開け。これを麦束のように積み上げ、これを聖絶して、何一つ残すな。
- 27 その雄牛をみな滅ぼせ。屠り場に下らせよ。わざわざいだ、彼らは。彼らの日、その刑罰の時が来たからだ。」
- 28 バビロンの地から逃れて来た者の声がする。シオンで、私たちの神、主の復讐のこと、その神殿の復讐のことを告知らせている。
- 29 バビロンに対して、射手を呼び集めよ。すべて弓を引く者を。これを囲んで陣を敷き、一人も逃すな。その行いに応じてこれに報い、これがしたとおりに、これにせよ。主に向かい、イスラエルの聖なる方に向かって高ぶったからだ。
- 30 「それゆえ、その日、その若い男たちは町の広場に倒れ、その戦士たちもみな、黙らされる。—主のことば—
- 31 高ぶる者よ。見よ、わたしはおまえを敵とする。—万軍の神、主のことば— おまえの日、わたしがおまえを罰する時が来たからだ。
- 32 そこで、高ぶる者はつまずき倒れ、これを起こす者もない。わたしは、その町々に火をつける。火はその周りのものすべてを焼き尽くす。」
- 33 万軍の主はこう言われる。「イスラエルの子らとユダの子らは、ともに虐げられている。彼らを捕らえて行った者はみな、彼らを固くつかんで解放することを拒んでいる。」
- 34 彼らを贖う方は強い。その名は万軍の主。主は、必ずや彼らの訴えを取り上げて、その地を憐れむが、バビロンの住民は震え上がらせる。
- 35 「剣がカルデア人に下り、—主のことば— バビロンの住民、その首長たち、知恵ある者たちに下る。
- 36 剣が易者たちにも下り、彼らは愚かになる。剣がその勇士たちにも下り、彼らは気をくじかれる。
- 37 剣が、その馬と車、そこに住む混血の傭兵にも下り、彼らは女たちのようになる。剣がその財宝にも下り、それらはかすめ取られる。
- 38 日照りがその水の上に下り、それは涸れる。そこは刻んだ像の地で、偶像に狂っているからだ。
- 39 それゆえ、荒野の獣が山犬とともに住み、だちょうがそこに住む。もはや永久に、人は住まず、代々にわたって、住む者はいない。
- 40 神が、ソドムとゴモラと、近隣の町々を滅ぼしたように、—主のことば— そこには人が住まず、そこには人の子が宿らない。
- 41 見よ、一つの民が北から来る。大きな国と多くの王が、地の果てという果てから奮い立つ。
- 42 彼らは弓と投げ槍を固く握り、残忍で、あわれむことがない。その声は海のようにとどろく。娘バビロンよ。彼らは馬に乗り、一つとなって戦列を整え、おまえを攻める。
- 43 バビロンの王は、彼らのうわさを聞いて 氣力を失い、苦しみが彼をとらえる。産婦のような激痛が。
- 44 見よ。獅子がヨルダンの密林から 常に潤う牧場に上って来るように、わたしは一瞬にして彼らをそこから追い出し、選ばれた人をそこに置く。だれがわたしのようであろうか。だれがわたしを呼びつけるだろうか。だれがわたしの前に立つことができる 牧者であろうか。」

- 45 それゆえ、聞け。バビロンに対して立てられた主の計画を。カルデア人の国に対して練られた策を。必ず、彼らは、群れの中の小さいものまで引きずって行かれ、必ず、彼らの牧場は彼らのことで恐れ惑う。
- 46 バビロンが捕らえられる音で地は震え、その叫びは国々の間にも聞こえる。

第51章

- 1 主はこう言われる。「見よ。わたしはバビロンに対し、レブ・カマイの住民に対して、滅ぼす者の霊を奮い立たせ、
- 2 他国人たちをバビロンに送る。彼らはこれを吹き散らし、その地を滅ぼす。彼らは、わざわざの日に、四方からこれを攻める。」
- 3 射手には弓を引かせるな。よろいを着けて立ち上がらせるな。そこの若い男たちを惜しむな。その全軍を聖絶せよ。
- 4 刺し殺された者たちが、カルデア人の地に、突き刺された者たちが、その通りに倒れる。
- 5 しかし、イスラエルもユダも、その神、万軍の主に見捨てられることはない。彼らはイスラエルの聖なる方から離れ、彼らの地は罪過で満ちていたが。
- 6 バビロンの中から逃げ、それぞれ自分自身を救え。バビロンの咎のために絶ち滅ぼされるな。これは、主の復讐の時、主がこれに報いをなさるからだ。
- 7 バビロンは主の手にある金の杯。すべての国々はこれに酔い、国々はそのぶどう酒を飲む。それゆえ、国々は正気を失う。
- 8 バビロンは、たちまち倒れて砕かれる。バビロンのために泣き叫べ。その痛みのために乳香を取れ。もしかしたら、癒やされるかもしれない。
- 9 私たちはバビロンを癒やそうとした。だが、それは癒やされなかった。私たちはこれを見捨てて、それぞれ自分の土地へ帰ろう。バビロンへのさばきが、天に達し、大空まで上ったからだ。
- 10 主は私たちの義を明らかにされた。さあ、私たちはシオンで、私たちの神、主のみわざを語ろう。
- 11 矢を研ぎ、小盾を取れ。主はメディア人の王たちの霊を奮い立たせられる。御思いは、バビロンを滅ぼすこと。それは主の復讐、ご自分の神殿の復讐だからである。
- 12 バビロンの城壁に向かって旗を掲げよ。見張りを強くし、番兵を立て、伏兵を備えよ。主は計画を練って、バビロンの住民について語ったことを実行されるからだ。
- 13 大水のほとりに住む、財宝に富む者よ。おまえの最期、おまえの寿命が尽きる時が来た。
- 14 万軍の主はご自分にかけて誓われた。「わたしは必ず、バツタの大群のような人々でおまえを満たす。彼らはおまえに対して叫び声をあげる。」
- 15 主は、御力をもって地を造り、知恵をもって世界を堅く据え、英知をもって天を張られた。
- 16 主の御声に、天では水のざわめきが起こる。主は地の果てから雲を上らせ、雨のために稲妻を造り、ご自分の倉から風を出される。
- 17 すべての人間は愚かで無知だ。すべての金細工人は、彫像のために恥を見る。その鑄た像は偽りで、その中には息がない。
- 18 それは空しいもの、物笑いの種だ。刑罰の時に、それらは滅びる。

- 19 ヤコブの受ける分は、このようなものではない。主は万物を造る方。イスラエルは主のゆずりの民。その御名は万軍の主。
- 20 「あなたはわたしの鉄槌、戦いの道具だ。わたしはあなたによって国々を砕き、あなたによって諸王国を滅ぼす。
- 21 あなたによって馬も騎手も砕き、あなたによって戦車も御者も砕き、
- 22 あなたによって男も女も砕き、あなたによって年寄りも若い者も砕き、あなたによって若い男も若い女も砕き、
- 23 あなたによって牧者も群れも砕き、あなたによって農夫もくびきを負う牛も砕き、あなたによって総督や長官たちも砕く。
- 24 わたしはバビロンとカルデアの全住民に対し、彼らがシオンで行ったすべての悪に、あなたがたの目の前で報復する。—主のことば—
- 25 全地を破壊する、破壊の山よ。見よ、わたしはおまえを敵とする。—主のことば— わたしはおまえに手を伸ばし、おまえを岩から突き落とし、おまえを焼けた山とする。
- 26 だれもおまえから石を取って、要の石とする者はなく、礎の石とする者もない。おまえは永遠に荒れ果てた地となる。—主のことば。』
- 27 この地に旗を掲げ、国々の中で角笛を鳴らせ。バビロンに向けて国々を聖別せよ。バビロンに向けて王国を召集せよ。アララテ、ミンニ、アシュケナズを。バビロンに向けて司令官を立て、群がるバツタのように、馬を上らせよ。
- 28 バビロンを攻めるため国々を聖別せよ。メディアの王たち、その総督やすべての長官たち、その支配にある全土の民を。
- 29 地は震え、もだえる。主はご計画をバビロンに成し遂げ、バビロンの地を 住む者もない荒れ果てた地とされる。
- 30 バビロンの勇士たちは戦いをやめ、砦の中に座り込む。彼らの力は干からびて、女たちのようになる。その住まいは焼かれ、かんぬきは砕かれる。
- 31 飛脚はほかの飛脚に走り次ぎ、使者もほかの使者に取り次いで、バビロンの王に告げて言う。「都は、くまなく攻め取られ、
- 32 渡し場も取られ、湿地も火で焼かれ、戦士たちはおじ惑っています」と。
- 33 イスラエルの神、万軍の主が、こう言われるからだ。「娘バビロンは、踏まれるときの打ち場のようだ。もうしばらくで、刈り入れの時が来る。
- 34 『バビロンの王ネブカドネツアルは、私を食い尽くし、私をかき乱して、空の器にした。竜のように私を呑み込み、私という美味で腹を満たし、私を洗い流した。』
- 35 シオンに住む者は言え。『私と私の肉親になされた暴虐が、バビロンに降りかかれ』と。エルサレムは言え。『私の血がカルデアの住民に注がれよ』と。」
- 36 それゆえ、主はこう言われる。「見よ。わたしはあなたの訴えを取り上げ、あなたのために報復する。バビロンの海を干上がらせ、その泉を涸らす。
- 37 バビロンは石くれの山、ジャッカルの住みかとなり、恐怖のもと、また嘲りの的となって、住む者はいなくなる。
- 38 彼らはともに、若獅子のように吼え、獅子の子のようにうなる。
- 39 彼らが苛立っているとき、わたしは彼らに宴会を開き、彼らを酔わせる。彼らは陽気になり、永遠の眠りについて、目覚めることはない。—主のことば—

- 40 わたしは彼らを、子羊のように、また雄羊か雄やぎのように、屠り場に下らせる。
- 41 ああ、バビロンは攻め取られ、全地の誉れであった者は捕らえられた。ああ、バビロンは国々の間で恐怖のもととなった。
- 42 海がバビロンの上にのしかかり、波のざわめきにおおわれた。
- 43 その町々は荒れ果てた地となり、その地は砂漠と荒れ地となり、だれも住まず、人の子が通りもしないところとなる。
- 44 わたしはバビロンでベルを罰し、これが呑み込んだ物を吐き出させる。国々はもう、そこに流れ込むことはない。バビロンの城壁さえも倒れてしまった。
- 45 わたしの民よ、その中から出よ。主の燃える怒りから逃れ、それぞれ自分自身を救え。
- 46 そうでない、あなたがたの心は弱まり、この地に聞こえるうわさを恐れることになる。今年、うわさが立ち、その後、次の年にも、うわさは立つ。この地には暴虐があり、支配者はほかの支配者に立ち向かう。
- 47 それゆえ、見よ、その時代が来る。そのとき、わたしはバビロンの彫像を罰する。この全土は恥を見、刺し殺された者はみなそのただ中に倒れる。
- 48 天と地とその中にあるすべてのものは、バビロンのことで喜び歌う。北からこれに向かって、荒らす者たちが来るからだ—主のことば—。
- 49 イスラエルの刺し殺された者たちよ、バビロンは必ず倒れる。バビロンによって全地の刺し殺された者たちが倒れたように。
- 50 剣を逃れた者よ、行け。立ち止まるな。遠くから主を思い出せ。エルサレムを心に思い浮かべよ。
- 51 『私たちは、そしりを聞いて、恥を見た。恥辱が私たちの顔をおおった。他国人が主の宮の聖所に入ったからだ。』
- 52 それゆえ、見よ、その時代が来る。—主のことば— そのとき、わたしはその彫像を罰する。刺された者がその全土でうめく。
- 53 たとえバビロンが天に上っても、たとえ、砦を高くして近寄りたくしても、わたしのもとから荒らす者たちがそこへ行く。—主のことば。』
- 54 バビロンから、叫ぶ声がある。カルデア人の地から、大いなる破滅の音が。
- 55 主がバビロンを荒らして、そこから大いなる声を絶やされるからだ。その波は大水のように鳴りとどろき、その声は鳴りどよめく。
- 56 まことに、荒らす者がバビロンを攻めに來て、その勇士たちは捕らえられ、その弓も折られる。主は報復の神であり、必ず報復されるからだ。
- 57 「わたしは、その首長たちや知恵のある者、総督や長官、勇士たちを酔わせる。彼らは永遠の眠りについて、目覚めることはない—その名を万軍の主という王のことば。』
- 58 万軍の主はこう言われる。「バビロンの厚い城壁は完全にくつがえされ、その高い門にも火が放たれる。国々の民は無駄に労し、諸国の民は、ただ火に焼かれて、力尽きる。」
- 59 マフセヤの子ネリヤの子セラヤが、ユダの王ゼデキヤとともに、その治世の第四年にバビロンへ行ったとき、預言者エレミヤがセラヤに命じたことば。そのとき、セラヤは宿営の長であった。
- 60 エレミヤはバビロンに下るすべてのわざわい、すなわち、バビロンについて記された、これらすべてのことばを一つの書物に記した。

- 61 エレミヤはセラヤに言った。「あなたがバビロンに入ったときに、これらすべてのことばをよく注意して読み、
- 62 こう言いなさい。『主よ。あなたはこの場所について、これを滅ぼし、人から家畜に至るまで住むものがないようにし、永遠に荒れ果てた地とする、と語られました。』
- 63 そしてこの書物を読み終えたら、それに石を結び付けて、ユーフラテス川の中に投げ入れ、
- 64 こう言いなさい。『このように、バビロンは沈み、浮かび上がれない。わたしがもたらすわざわいを前にして。彼らは力尽きる。』」ここまでが、エレミヤのことばである。

第52章

- 1 ゼデキヤは二十一歳で王となり、エルサレムで十一年間、王であった。彼の母の名はハムタルといい、リブナ出身のエレミヤの娘であった。
- 2 彼は、すべてエホヤキムがしたように、主の目に悪であることを行った。
- 3 実に、エルサレムとユダが主の前から投げ捨てられるに至ったのは、主の怒りによるものであった。その後、ゼデキヤはバビロンの王に反逆した。
- 4 ゼデキヤの治世の第九年、第十の月の十日に、バビロンの王ネブカドネツアルは、その全軍勢を率いてエルサレムを攻めに来て、これに対して陣を敷き、周囲に壘を築いた。
- 5 こうして都はゼデキヤ王の第十一年まで包囲されていた。
- 6 第四の月の九日、都の中で食糧難がひどくなり、民衆に食物がなくなった。
- 7 そのとき、都は破られ、戦士たちはみな逃げて、夜のうちに、王の園に近い二重の城壁の間にある、門の道から都を出た。カルデア人が都を包囲していたので、彼らはアラバへの道を行った。
- 8 カルデアの軍勢は王の後を追ひ、エリコの草原でゼデキヤに追いついた。すると、王の軍隊はみな王から離れて散ってしまった。
- 9 カルデアの軍勢は王を捕らえ、ハマテの地のリブラにいるバビロンの王のところへ彼を連れ上った。バビロンの王は彼に宣告を下した。
- 10 バビロンの王は、ゼデキヤの息子たちを彼の目の前で虐殺し、ユダの首長たちもみなリブラで虐殺した。
- 11 さらに、ゼデキヤの目をつぶし、彼を青銅の足かせにつないだ。バビロンの王は、彼をバビロンへ連れて行き、彼を死ぬ日まで獄屋に入れておいた。
- 12 第五の月の十日、バビロンの王ネブカドネツアル王の第十九年のこと、バビロンの王の家来、親衛隊の長ネブザルアダンがエルサレムに来て、
- 13 主の宮と王宮とエルサレムのすべての家を焼き、そのおもだった建物をことごとく火で焼いた。
- 14 親衛隊の長と一緒にいたカルデアの全軍勢は、エルサレムを取り巻く城壁すべてを打ち壊した。
- 15 親衛隊の長ネブザルアダンは、民の貧しい者たちの一部と、都に残されていた残りの民、バビロンの王に降伏した投降者たち、そのほか技術に秀でた人たちを捕らえ移した。
- 16 しかし、親衛隊の長ネブザルアダンは、その地の貧しい民の一部を残し、ぶどうを作る者と農夫にした。

- 17 カルデア人は、主の宮の青銅の柱と、車輪付きの台と、主の宮にある青銅の「海」を砕いて、その青銅をみなバビロンへ運んだ。
- 18 また、灰壺、十能、芯取りばさみ、鉢、平皿、奉仕に用いるすべての青銅の器具を奪った。
- 19 また親衛隊の長は、小鉢、火皿、鉢、灰壺、燭台、平皿、水差しなど、純金や純銀のものを奪った。
- 20 ソロモン王が主の宮のために作った二本の柱、一つの「海」、車輪付きの台の下にある十二の青銅の牛、これらすべての物の青銅の重さは、量りきれなかった。
- 21 その柱は、一本の柱の高さが十八キュビト、その周囲は十二キュビト、その厚さは指四本分で、中は空洞になっていた。
- 22 その上の柱頭は青銅で、一つの柱頭の高さは五キュビトであった。柱頭の周りに格子細工とざくろがあって、すべて青銅であった。もう一本の柱も、そのざくろも、これと同様であった。
- 23 周りには九十六のざくろがあり、周りの格子細工の上には全部で百のざくろがあった。
- 24 親衛隊の長は、祭司のかしらセラヤと次席祭司ゼパニヤと三人の入り口を守る者を捕らえ、
- 25 戦士たちの指揮官であった一人の宦官、都にいた王の七人の側近、民衆を徴兵する軍の長の書記、そして都の中にいた民衆六十人を、都から連れ去った。
- 26 親衛隊の長ネブザルアダンは彼らをつらえ、リブラにいるバビロンの王のもとへ連れて行った。
- 27 バビロンの王はハマテの地のリブラで、彼らをつらえ殺した。こうして、ユダはその国から捕らえ移された。
- 28 ネブカドネツアルが捕らえ移した民の数は次のとおりである。第七年には、三千二十三人のユダヤ人。
- 29 ネブカドネツアルの第十八年には、エルサレムから八百三十二人。
- 30 ネブカドネツアルの第二十二年には、親衛隊の長ネブザルアダンは、七百四十五人のユダヤ人を捕らえ移し、その合計は四千六百人であった。
- 31 ユダの王エホヤキンが捕らえ移されて三十七年目の第十二の月の二十五日、バビロンの王エビル・メロダクは、即位した年のうちにユダの王エホヤキンを呼び戻して、獄屋から出し、
- 32 優しいことばをかけ、バビロンで彼とともにいた王たちの位よりも、彼の位を高くした。
- 33 彼は囚人の服を脱ぎ、その一生の間、いつも王の前で食事をした。
- 34 彼の生活費は、死ぬ日までその一生の間、日々の分をいつもバビロンの王から支給されていた。